令和元年6月15日発行　ライセンスメイト　第1巻252号通巻578号（年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行）　昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

明治維新１５０年
慰霊訪問団結成２０年

日台の生命の絆

西郷菊次郎と郡守徳政碑

台湾第二の平原である蘭陽平野を流れる宜蘭河の治水工事は、烏山頭ダムよりずっと以前の明治30年代のこと。西郷菊次郎郡守の苦心により宜蘭の人々は度重なる氾濫の災害から救われた。そして、この「西郷庁憲徳政碑」を感激をもって建てた。

発行所 株式会社 日本教育開発

報告集(ライセンスメイト)について

私たちは、ひとりでも多くの国民の皆様に「台湾慰霊訪問の旅」を知っていただこうと、団員の皆様の感想文を主体にした報告集として、この季刊誌(第3種郵便物認可)を活用し今日に至っています。それは発送費が助かるからです。(発行所／株式会社日本教育開発)

◎この本は訪台時にご歓待された台湾の皆様にも御礼として贈呈しますので、恥ずかしくない装丁でないといけません。中華民國政府(外交部)にも献本できる資質が求められる所以です。

◎国内に目を転じれば、団員の皆様がご縁のある方に配付される時、誇りに思えるものでなければなりません。直近の出来事のみならず、この事業の沿革が一目で理解していただけるものでなくてはなりません。

◎読んでみたい雰囲気を漂わすだけでなく内容もしっかりしないといけません。デザイナーの人にも頑張ってもらい、様々な年代、職業、立場、地域の皆様に、すなわち時代に受け入れてもらえるよう工夫と研究を重ねてきたのは、そういう理由からでした。

◎英霊の皆様から本当に喜んでもらえるような誌面作り、大東亜戦争に志願し散華された英雄の皆様が、世界史的大事業に参画できた感動を時空を超えて現代の私たち日本人に語りかけることができる媒体、戦死者にあたたかくぬくもりのある刊行物、以上のような報告集作りを目指してきた20年でした。

◎結成以来、台湾でご縁の出来た方と訪問団に参加実績のある方を合わせますと優に1,000名になりますので、発行部数もそれだけ必要です。

◎刷っただけでは読んでいただけません。よって宅配や郵送、相手先が台湾なら航空便も必要です。

◎総じてこれら一切の経費を訪問団員の皆様が均等に負担していただいたからこそ、第20次に至るまでこの事業を継続してこれたのだと思います。(原稿料、執筆料は全てボランティアでお願いしてきました。)

◎「公的支援なき公的事業」は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。

この雑誌を作ることは英霊への供養の一環でありますし、誌面をご覧いただくことは、現代に生きる私たちが戦没者の皆様と時間と空間と志(こころざし)を共有できる数少ない機会のひとつだと思います。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

LICENSE MATE

特集 台湾慰霊訪問団

1　報告集（ライセンスメイト）について
2　表紙に寄せて
3　台湾慰霊訪問団特集に寄せて
4　祝　中華民國（台湾）駐福岡總領事館開設50年
5　台湾訪問の目的
9　日台の家族（兄弟）交流のあゆみ
13　団長あいさつ
17　祭文／台湾慰霊訪問の旅　訪台者一覧
19　一目でわかる訪問先・交歓先
21　訪問先・交歓先一覧（第1次～第20次）
26　台湾慰霊訪問の旅　帰朝報告
29　台湾慰霊訪問の旅　紀行文集（抄）
40　知られざる「神蹟の遺跡」
41　臺灣日本関係協會・
　　台日文化經濟協會表敬訪問
43　台湾特別講演会

碑の前であいさつする小菅団長

宜蘭河堤防に建つ西郷庁憲徳政碑

表紙に寄せて ～ 西郷庁憲徳政碑

宜蘭平野の中心に位置する宜蘭市は、東は太平洋に面し、西側郊外には美しい田園風景が広がる。その中央を宜蘭河と呼ばれる台湾山脈に源を発する川がゆっくり東へ流れていく。宜蘭河が台湾山脈から運んでくる肥沃な土の堆積によって作られた宜蘭平野からは豊かな農作物が採れ、「竹風蘭雨」という言葉があるように水豊かにして昔からユートピアと呼ばれていた。しかし、風光明媚なその景色も、台風の直撃による暴風雨となると一変する。宜蘭河の濁流は堤を越え、あるいは堤を寸断して田畑や家を押し流し、伝染病を蔓延させた。住民はこのような洪水に長い間悩まされていた。

そのため西郷菊次郎は、宜蘭の住民の社会基盤整備に力を注いだ。河川工事、農地の拡大、道路の整備、樟脳産業の発展、農産物の増収政策を実施すると共に教育の普及にも力を入れたため、治安が良くなり住民の生活を安定させることに成功した。中でも一番力を入れたのが、宜蘭河の氾濫を無くすことであった。

台湾総督府と粘り強い交渉の末、1年5ヶ月の歳月と巨費を投じた13.7キロメートルの宜蘭河堤防は明治34年(1901)9月に完成した。このとき以降、宜蘭河の洪水は二度と起きなくなり、住民は歓喜し、菊次郎に対する称賛の声があふれた。

第20次台湾慰霊訪問の旅「学習資料」より

「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて

台北駐福岡經濟文化辦事處
處長　陳（ちん）　忠（ちゅう）　正（せい）

日華(台)親善友好慰霊訪問団主催、第17回台湾特別講演会のご開催、誠におめでとうございます。小菅団長をはじめ、役員、団員の皆様におかれましては、ご結成以来、台湾特別講演会や台湾慰霊訪問活動、並びに日曜討論番組などを通じて、わが国に関する問題を広く日本の皆様へアピールして戴きありがとうございます。台日間の相互理解や相互認識促進への長年にわたるご尽力に、深く感謝の意を表します。

お陰をもちまして、両国の関係は大変良好で、昨年は述べ679万5099人もの往来がありました。日本から台湾へは約197万人、台湾から日本へは約483万人と、その数は年々増加の一途をたどっています。台湾人の日本人気はもとより、日本の皆様の台湾への旅行も大変な人気となっており、海外旅行先として台湾は常にトップにランクインしています。また、日本の高校生の修学旅行の分野でも目覚しい伸びを見せており、日本全国修学旅行研究協会の調査によれば、2018年に日本から台湾への修学旅行の数は325校、53,940人で台湾がトップでした。2006年は3,552人でしたので、この12年の間に急増しております。若い世代の交流は、将来の友好関係に大きく寄与することでしょう。

他にも、文化・経済・スポーツ・青少年など、あらゆる分野で重要なパートナーとして友好・協力関係を深めています。特に、地方自治体間の交流が年々緊密になっており、台日の友好親善の重要な役割を果たしています。日台両国は、自由、民主、人権という普遍的価値観を共有するのはもちろん、お互いに好感を持ち、お互いを信頼している間柄であることが、順調な交流を支えていると思います。

その台湾の自由と民主主義は、いま脅威を受けています。中国が利益誘導でわが国と国交のある国を断交させ、国連をはじめとする国際機関への台湾の参加を妨害するなど、台湾への圧力をエスカレートさせています。例えば、国連機関の一つである「世界保健機関(WHO)」について、台湾は長年にわたって、毎年5月の総会(WHA)へ参加することを求めてきました。日本をはじめ米国・ヨーロッパ連合などの先進国の賛同は得られてはいるものの、中国の拒否権により参加が拒否され、いまだ台湾は参加を認められないのが現状です。台湾住民2,300万人が世界の医療ネットワークから不当に排除されることがあってはなりません。と同時に台湾は国際保健医療課題への積極的な貢献を続けて、台湾のこれまでの経験を世界に役立ててもらいたいと思っています。

私も微力ながら、台湾と日本との親善交流を促進し、より一層緊密な関係を築くことができるよう邁進していきたいと存じます。皆様におかれましては引き続き、ご支援とご協力の程お願い申し上げます。

結びに、日華華(台)親善友好慰霊訪問団のますますのご発展と小菅団長をはじめ、皆様方のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

中華民國（台湾）駐福岡總領事館 開設50年

この度は、台北駐福岡經濟文化辦事處が開設50年を迎えられることを心からお祝い申し上げます。

昭和47年(1972)12月2日に設立された台湾日本関係協会（旧亜東関係協会）は中華民國（台湾）の対日窓口であり、台北駐日經濟文化辦事處の台北本部です。一つの中国政策による制約下で、昭和47年(1972)9月29日の日台断交後は両国間に正式な外交関係が無くなりました。そのため、民間機関という名目で、亞東關係協會東京辦事處が設置され平成4年(1992)5月20日に現在の台北駐日經濟文化代表處に改名されました。形式的には非政府機関ですが、実質的には中華民國外交部(日本の外務省に相当)所管であり、「代表處」は事実上の大使館、「辦事處」は領事館です。

一方、日本側のカウンターパートナーは公益財団法人日本台湾交流協会（旧交流協会）です。亜東関係協会は平成29年(2017)5月17日に台湾日本関係協会と名称を変更しました。現在は、東京に台北駐日經濟文化代表處、横浜、那覇、札幌に分處が、大阪に台北駐大阪經濟文化辦事處、福岡に台北駐福岡經濟文化辦事處が設置されています。

台北駐福岡經濟文化辦事處は中華民國(台湾)が福岡県福岡市に設置している領事館級の外交代表機構です。日台両国に正式な国交が持たれていた昭和45年(1970)7月、中華民國駐長崎領事館が福岡へ移転して總領事館に昇格しました。

昭和47年(1972)12月、日台断交に伴い閉鎖された中華民國駐福岡總領事館に代わって、亞東關係協會大阪辦事處福岡分處が設置されます。平成4年(1992)5月15日、亜東関係協会の改名について日台両国で合意され、同月20日、台北駐大阪經濟文化辦事處福岡分處に改称されました。そうした経緯を経た台北駐福岡經濟文化辦事處は、昭和45年7月に中華民國駐長崎領事館が福岡へ移転して總領事館に昇格して以来、50年を迎えることになったのです。

台北駐福岡經濟文化辦事處と日華（台）親善友好慰霊訪問団との関係は、慰霊訪問団結成の平成11年(1999)、黄明朗處長に始まります。その後、黄諸侯處長へと続き、平成18年(2006)の第8次台湾慰霊訪問の旅からは、中華民國外交部との関係が始まります。

当時、台北駐福岡經濟文化辦事處處長だった周碩穎総領事に中華民國外交部への表敬訪問を勧められたことが契機でした。第8次訪問の折、あいにく、日曜日で役所が休日のため、総統府国策顧問の方仁恵台日文化經濟協會會長と外交部日本事務会の黄諸侯回部辦事を昼食にお招きしました。黄諸侯氏は、台北駐福岡經濟文化辦事處處長として在任の折には、ご夫妻で萩へバスツアーにご一緒するなど非常にお世話になりました。

平成11年(1999)の慰霊訪問団結成以来、歴代の総領事(黄明朗氏、黄諸侯氏、周碩穎氏、曾念祖氏、戎義俊氏)ならびに領事の皆さんには大変お世話になり、団の趣旨を理解され、台湾特別講演会にも多大なご支援を戴いています。尚、平成30年(2018)10月17日より台北駐福岡經濟文化辦事處處長には、陳忠正総領事が就任しています。

<福岡総領事館総領事>

黄明朗	平成11年1月18日着任	第1次～第3次
黄諸侯	平成14年3月6日着任	第4次～第7次
周碩穎	平成18年1月30日着任	第8次～第11次
曾念祖	平成22年7月16日着任	第12次～第14次
戎義俊	平成25年3月29日着任	第15次～第19次
陳忠正	平成30年10月17日着任	第20次～

<台湾総統と台湾慰霊訪問の旅>

李登輝	第1次
陳水扁	第2次～第9次
馬英九	第10次～第17次
蔡英文	第18次～

旅の目的 1

「大東亜戦争で散華された台湾人同胞3万3千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列」

11月22日(木)	台北／國民革命忠烈祠(写真①②)
11月23日(金)	台南／海尾朝皇宮(写真③)
	台南／飛虎将軍廟(写真④)
	高雄／保安堂(写真⑤⑥)
11月24日(土)	屏東／先鋒祠(写真⑦⑧)
	屏東／東龍宮(写真⑨⑩)
11月25日(日)	台中／宝覚寺(写真⑪⑫)
	イ.日本人墓地(日本人遺骨安置所)
	ロ.英魂観音亭と「霊安故郷」の慰霊碑
	新竹／濟化宮(写真⑬⑭)
11月26日(月)	宜蘭／西郷庁憲徳政碑(写真⑮⑯)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

原臺灣人元日本兵軍人軍屬英靈顕彰の旅
日台の魂の交流 日華(台)親善友好慰霊訪問団

⑧

⑨

⑩

⑪

原臺灣人元日本兵軍人軍屬英靈顕彰の旅
日台の魂の交流 日華(台)親善友好慰霊訪問団

⑫

⑬

明治維新150年
原臺灣人元日本兵軍人軍屬英靈顕彰の旅
日台の魂の交流 日華(台)親善友好慰霊訪問団

⑭

⑮

⑯

旅の目的 2

「領台時代の魂を継承する 現地台湾人との家族交流・兄弟交流」

11月22日(木)	台北／台湾日本関係協会(張淑玲秘書長)主催歓迎夕食会／上海郷村宴會館(写真①②)
11月23日(金)	台南／奇美博物館見学(写真③④) 台南／安平古堡見学(写真⑤⑥) 高雄／蓬38號艦 英霊返郷團(張吉雄会長)主催歓迎夕食会／保安堂(写真⑦⑧)
11月24日(土)	台中／台日友好協会(何月桂会長)主催歓迎夕食会／擔仔麵總店(写真⑨⑩)
11月25日(日)	台中／台湾台日海交会(周良仁会長)主催歓迎昼食会／香蕉新樂園餐廳 (写真⑪⑫) 台北／黄文雄先生主催歓迎夕食会／紫都(写真⑬⑭)
11月26日(月)	台北／台日文化經濟協会(杜恆誼会長)主催歓迎昼食会／海覇王(写真⑮⑯)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

承台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅

⑧

⑨

明治維新150年 慰霊碑建立20周年
承台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅
日台の絆の交流 日華(台)親善友好慰霊訪問団

⑩

⑪

親善友好慰霊訪問団
會場 台日溝交會

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

日台の家族（兄弟）交流のあゆみ

平成11年 3月 6日 第1次訪問旅行（3.6～3.9、23名）
※「結団式・解団式」含む
5月 15日 ライセンスメイトにて連載開始
11月 25日 慰霊祭参加（台中・宝覚寺、11.24～11.26、2名）
平成12年 11月 23日 第2次訪問旅行（11.23～11.26、17名）
※「結団式・解団式」含む
平成13年 5月 28日 読売新聞に一面広告掲載
6月 5日 福岡日華親善協会 定時総会参加（八仙閣1名）
10月 13日 第3次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店60名）
11月 8日 二の丸会全国農業土木技術連盟九州業界連盟研修会
「世界一の親日国・台湾の話」講話：小菅亥三郎 随行：古川（ホテル南風樓）
11月 23日 第3次訪問旅行（11.23～11.26、38名）
12月 22日 第3次訪問団解団式・報告会（平和樓本店50名）
平成14年 4月 1日 訪問団ホームページ開設
6月 6日 福岡日華親善協会 定時総会参加（八仙閣1名）
6月 8日 許國雄先生告別式参列（高雄・徳生長老教会、6.7～6.9、1名）
9月 10日 産經新聞に見開広告掲載
10月 21日 全国の学校（8,443校）にパンフレットを郵送し、台湾への修学旅行先選定を呼びかける
※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大学まで3,389校
11月 2日 第4次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店73名）
11月 6日 台湾中日海交協会（胡順来会長以下16名）歓迎晩餐会（台湾18名）
11月 23日 第4次訪問旅行（11.23～11.26、38名）
平成15年 1月 24日 第4次訪問団解団式・報告会（平和樓本店48名）
4月 26日 台湾在日福岡留学生会・新入生歓迎会参加（八仙閣1名）
6月 6日 福岡日華親善協会 定時総会参加（八仙閣1名）
6月 7日 第1回台湾特別講演会・懇親会（アーバン・オフィス天神・講演会134名／懇親会36名）
山口秀範先生（国民文化研究会事務局長）「台湾に根づく日本精神―六士先生を中心に」
8月 6日 福岡市中央倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」卓話：小菅亥三郎 随行：古川（KKRホテル博多）
11月 8日 第5次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店56名）
11月 23日 第5次訪問旅行（11.23～11.26、23名）
平成16年 1月 24日 第5次訪問団解団式・報告会（平和樓本店35名）
・帰朝報告会35名
・新年会 35名
2月 22日 第1回台湾シリーズ放送（FM-MiMi日曜討論、2.22～3.28、6回）
4月 29日 台中市日本文化協會（鐘子桓氏以下3名）来訪
5月 23日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加（八仙閣1名）
6月 5日 第2回台湾特別講演会・懇親会（講演会 アーバン・オフィス天神83名／懇親会 花万葉54名）
張国興先生（久留米大学法学部教授）「台湾の現状―総統選挙を中心に」
6月 9日 福岡日華親善協会 定時総会参加（平和樓本店1名）
6月 20日 沈・呉ご夫妻来訪
9月 9日 台湾福祉実習団（陳徹氏以下8名）来訪
11月 12日 福岡日華親善協会孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念祝宴参加（平和樓本店1名）
11月 22日 第6次訪問団結団式・壮行会（アーバン・オフィス天神6名）
11月 23日 第6次訪問旅行（11.23～11.26、8名）
12月 26日 第２回台湾シリーズ放送（FM-MiMi日曜討論、12.26～H.17.1.2、2回）
平成17年 1月 2日 第3回台湾シリーズ放送（FM-MiMi日曜討論、年末年始篇第4弾、1.2、1回）
1月 3日 第1回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名）
1月 22日 第6次訪問団解団式・報告会（平和樓本店30名）
・帰朝報告会 30名
・新年会 30名
6月 4日 第3回台湾特別講演会・懇親会（講演会 テルラホール100名／懇親会 チャタムダイニング70名）
黄文雄先生（文明史家）「反日教育を煽る中国の大罪―中国が反日・仇日に転じた本当の理由」
6月 10日 福岡日華親善協会 定時総会参加（八仙閣1名）
10月 22日 第7次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店51名）
11月 5日 何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会（平和樓本店16名）
11月 14日 福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念祝宴参加（八仙閣15名）
11月 23日 第7次訪問旅行（11.23～11.26、20名）
12月 11日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加（平和樓本店1名）
平成18年 1月 3日 第2回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名）
1月 8日 第4回台湾シリーズ放送（FM-MiMi日曜討論、1.8、1回）
1月 28日 第7次訪問団解団式・報告会（テルラホール38名）
・帰朝報告会 38名
・新年会 38名 ※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる
3月 22日 福岡ライオンズクラブ 例会「今、日本がおかしい～現代に生きる教育勅語・軍人勅諭」卓話：小菅亥三郎 随行：川添（ホテル日航福岡）
5月 14日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会（八仙閣1名）
5月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会（講演会 アーバン・オフィス天神156名／懇親会 テルラホール67名）
黄文雄先生（文明史家）「台湾・中国が衝突する日―これからの台・中・日・米関係の徹底分析」
6月 7日 福岡日華親善協会 定時総会参加（八仙閣1名）
10月 1日 第5回台湾シリーズ放送（StyleFM日曜討論、特別篇第5弾、10.1、1回）
10月 21日 第8次訪問団結団式・壮行会（テルラホール70名）
・旅程説明会（アーバン・オフィス天神）26名
・結団式
・壮行会70名
11月 13日 福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念祝宴参加（八仙閣1名）
11月 20日 役員・班長会（アーバン・オフィス天神6名）
11月 23日 第8次訪問旅行（11.23～11.26、35名）
平成19年 1月 3日 第3回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名）
1月 7日 第6回台湾シリーズ放送（StyleFM日曜討論、1.7、1回）
1月 27日 第8次訪問団解団式・報告会（平和樓本店68名）
・帰朝報告会68名
・新年会63名
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
5月 20日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加（八仙閣2名）
6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会（講演会 エルガーラホール 218名／懇親会 てら岡53名）
黄文雄先生（文明史家）「増大する覇権主義中国の軍事的脅威―日台はいかに対応すべきか？」
6月 13日 福岡日華親善協会 定時総会参加（八仙閣2名）
10月 5日 台湾双十節式典参加（ホテルオークラ10名）
10月 18日 REPの会例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」
卓話：小菅亥三郎 随行：林・吉村（パソナサロン）
10月 27日 第9次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店49名）
・旅程説明会19名
・結団式・壮行会49名
11月 23日 第9次訪問旅行（11.23～11.26、25名）
12月 22日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加（平和樓本店3名）
平成20年 1月 3日 第4回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／松風4名）
1月 25日 九州建設機械器具リース業協会賀詞交歓会「海の彼方のニッポンを訪ねて」
講話：小菅亥三郎 随行：黄（八仙閣）
1月 26日 第9次訪問団解団式・報告会（平和樓本店51名）
・帰朝報告会51名
・新年会51名
3月 9日 第7回台湾シリーズ放送（StyleFM日曜討論、3.9～4.13、6回）
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
6月 1日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会（八仙閣1名）
6月 8日 第6回台湾特別講演会・懇親会（福岡ガーデンパレス 講演会123名／懇親会63名）
黄文雄先生(文明史家)「日本人の道と精神(こころ)」
清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化の本質を知ろう―新『教育勅語』のすすめ」
6月 17日 福岡日華親善協会 定時総会参加（全日空ホテル1名）
9月 3日 台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店7名)
10月 9日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)
10月 25日 第10次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店48名)
・旅程説明会18名
・結団式・壮行会48名 ※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる
11月 22日 第10次訪問旅行(11.22～11.26、31名)
(甲班11.22～26 19名、乙班11.23～26、12名)
12月 14日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加（平和樓本店2名）
平成21年 1月 3日 第5回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／松風4名）
1月 24日 第10次訪問団解団式・報告会(平和樓本店64名)
・帰朝報告会64名
・新年会64名

平成21年 2月 22日 第8回台湾シリーズ放送（StyleFM日曜討論、2.22～3.29、6回）
3月 9日 台北駐福岡經濟文化辦事處　周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店8名)
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
5月 24日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加（平和樓本店3名）
6月 6日 台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)
6月 7日 第7回台湾特別講演会・懇親会（福岡ガーデンパレス　講演会170名／懇親会69名）
黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未来－台湾と中国の最終戦争は避けられるのか？」柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治と竹東大圳－今、甦る台湾水力発電の父」
6月 14日 産經新聞で「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載
9月 7日 李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)
9月 10日 李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)
9月 30日 産經新聞で第2回目の「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載
10月 31日 産經新聞で第3回目の「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載
11月 1日 第11次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)
・旅程説明会20名
・結団式・壮行会56名
11月 21日 産經新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載
11月 22日 第11次訪問旅行（11.22～11.26、30名）
11月 29日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加（八仙閣3名）
12月 20日 産經新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載

平成22年 1月 3日 第6回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／松風4名）
1月 3日 第9回台湾シリーズ放送（StyleFM日曜討論、年末年始篇第9弾、1.3、1回）
1月 23日 第11次訪問団解団式・報告会(平和樓本店61名)
・帰朝報告会69名
・新年会69名
1月 30日 日本会議福岡中央支部 新春祝賀会「日台の交流ー11年の活動を振り返って」
講話：小菅亥三郎　随行：黄・五郎丸（平和樓本店）
2月 21日 産經新聞で「慰霊を回復して人は国民になる」意見広告掲載
3月 7日 第10回台湾シリーズ放送（StyleFM日曜討論、3.7～4.11、6回）
3月 10日 中華民國（台湾）領事着任をお祝いする会（稚加栄、4名）
3月 13日 林溪和先生告別式参列（台中・三一基督長老教会、3.13～3.14、2名）
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
3月 21日 産經新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市教育委員会の態度には愛国心が感じられません」意見広告掲載
5月 16日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加（平和樓本店2名）
6月 5日 第8回台湾特別講演会・懇親会（福岡ガーデンパレス　講演会172名／懇親会58名）
明石元紹先生（明石元二郎令孫・画家）黄文雄先生（文明史家）
「郷土福岡が生んだ世界的英雄・偉人一明石元二郎台湾総督の生涯」
6月 27日 台北駐福岡經濟文化辦事處　周碩穎處長送別会（団長宅12名）
8月 4日 産經新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起つ」意見広告掲載
9月 25日 日本会議福岡中央支部　西部地区懇談会「日本と台湾は運命共同体ー台湾防衛は英霊との約束」
講話：小菅亥三郎　随行：原田・池田・黄（アーバン・オフィス天神）
10月 8日 台湾双十節式典参加（ホテルオークラ12名）
10月 14日 台北駐福岡經濟文化辦事處　曾念祖處長歓迎会（松幸26名）
10月 23日 第12次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店63名）
・旅程説明会21名
・結団式・壮行会63名
11月 21日 台湾在日福岡留学生会忘年会参加（平和樓本店2名）
11月 22日 第12次訪問旅行（11.22～11.26、46名）（甲班11.22～26　35名、乙班11.24～26　11名）

平成23年 1月 3日 第7回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名）
1月 22日 第12次訪問団解団式・報告会（平和樓本店65名）
・帰朝報告会65名
・新年会65名
2月 23日 福岡西ライオンズクラブ 例会「教育勅語・軍人勅諭」
卓話：小菅亥三郎　随行：高山（西鉄グランドホテル）
3月 15日 台北駐那覇經濟文化辦事處　粘信士處長表敬訪問（3.15～3.16、4名）
4月 3日 第11回台湾シリーズ放送（スタジオ日本　日曜討論、4.3～5.8、6回）
4月 23日 産經新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載
5月 28日 産經新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意見広告掲載

平成23年 6月 4日 第9回台湾特別講演会・懇親会（福岡ガーデンパレス　講演会159名／懇親会71名）
黄文雄先生（文明史家）「中国が沖縄を獲る日－中国の「千船保釣」を打ち砕こう!」
6月 12日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加（平和樓本店2名）
6月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
6月 24日 産經新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載
7月 3日 中華民國建国100年「聖火リレー」福岡到着記念撮影会参加（福岡市南公園2名）
7月 6日 あすなろ会　例会「台湾はなぜ世界一の親日国なのか～日華（台）親善友好慰霊訪問団団長12年の体験から」卓話：小菅亥三郎
随行：池田・黄・五郎丸・高山（ハーベストビル会議室）
7月 24日 産經新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」意見広告掲載
8月 21日 産經新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」意見広告掲載
9月 13日 福岡県立嘉穂高等学校修学旅行事前学習「台湾修学旅行～台湾はどういう国なのか」講話：黄楷棻　随行：池田（視聴覚教室）
9月 29日 産經新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる唯一の国・台湾」意見広告掲載
10月 7日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)
10月 17日 産經新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見広告掲載
10月 22日 第13次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店67名)
・旅程説明会26名
・結団式・壮行会67名
11月 20日 台湾在日福岡留学生会忘年会参加（平和樓本店2名）
11月 21日 産經新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を見誤ることなかれ」意見広告掲載
11月 21日 台北駐福岡經濟文化辦事處　曾念祖處長主催懇親会（鴻臚6名）
11月 22日 第13次訪問旅行（11.22～11.26、45名）（甲班11.22～26　38名、乙班11.24～26　7名）
12月 25日 産經新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の宝です」意見広告掲載

平成24年 1月 3日 第8回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／松風4名）
1月 6日 中華民國建国満100年祝賀式典参加（ホテルオークラ1名）
1月 19日 台北駐福岡經濟文化辦事處　曾念祖處長謝恩新年会（千羽鶴6名）
1月 21日 第13次訪問団解団式・報告会（平和樓本店65名）
・帰朝報告会65名
・新年会65名
1月 26日 産經新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す巡礼の旅」意見広告掲載
2月 22日 産經新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。」意見広告掲載
3月 25日 産經新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載
4月 1日 第12回台湾シリーズ放送（スタジオ日本日曜討論、4.1～5.6、6回）
4月 29日 産經新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載
5月 13日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加（平和樓本店2名）
5月 16日 台湾総統就任記念茶話会参加（平和樓本店3名）
6月 1日 産經新聞で「『恥ずかしい』と『感謝』の訪問」意見広告掲載
6月 2日 台湾支部長（黄・葉ご夫妻）歓迎晩餐会（花万葉13名）
6月 3日 第10回台湾特別講演会・懇親会（福岡ガーデンパレス　講演会167名／懇親会79名）基調講演：黄文雄先生（文明史家）「日本と台湾の過去・現在・未来～私たちが目指すべき日台の関係」
//パネルディスカッション：黄文雄先生（文明史家）・施光恒先生（九州大学大学院准教授）・柳原憲一先生（西日本台湾学友会前会長）
「東日本大震災から見えた日台の生命の絆～台湾国民は何故世界一のご支援をして下さったのか」
6月 7日 福岡日華親善協会 定時総会参加（八仙閣1名）
6月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
7月 15日 産經新聞で「東日本大震災から見えた日台の生命の絆（1）」意見広告掲載
7月 16日 産經新聞で「東日本大震災から見えた日台の生命の絆（2）」意見広告掲載
10月 5日 台湾双十節式典参加（ホテルオークラ5名）
※主催者より直接案内送付のため、今回から反省会参加者とする
10月 6日 台湾支部事務局長（黄楷棻）婚約式参列（高雄・饌巴黎大飯店、10.6～10.8、2名）
10月 13日 第14次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)
・旅程説明会18名
・結団式・壮行会69名
10月 26日 台湾支部事務局長（黄楷棻）結婚式参列（基隆・豪鼎飯店、10.26～10.28、2名）
11月 8日 中華民國（台湾）領事着任をお祝いする会（江藤家、4名）
11月 18日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加（平和樓本店2名）
11月 22日 第14次訪問旅行（11.22～11.26、38名）（甲班11.22～26　32名、乙班11.24～26　6名）

平成24年11月 23日 第13回台湾シリーズ放送（スタジオ日本 日曜討論、年末年始篇第12弾、12.23、1回）
平成25年 1月 3日 第9回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／松風4名）
1月 26日 第14次訪問団解団式・報告会（平和樓本店73名）
・帰朝報告会73名
・新年会73名
1月 23日 台北駐福岡經濟文化辦事處　曾念祖處長送別会（千羽鶴13名）
2月 24日 第14回台湾シリーズ放送（スタジオ日本　日曜討論、2.24～3.31、6回）
3月 6日 福岡日華親善協会　台北駐日經濟文化代表處　沈斯淳代表歓迎宴参加（ホテル日航福岡1名）
3月 20日 日台交流教育会　創立40周年記念懇親会参加（アルカディア市ヶ谷1名）
5月 1日 台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉　10名)
6月 2日 第11回台湾特別講演会・懇親会（福岡ガーデンパレス　講演会195名／懇親会134名）
基調講演：黄文雄先生(文明史家)「思想的背景から見た日台の魂の交流～日本人の生と死を見つめながら魂の深層を探る」／パネルディスカッション：黄文雄先生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「今後の日本と台湾の真の交流について～私たちがめざすべき日台の関係」
6月 3日 台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)美祢市表敬訪問
6月 4日 台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)山口市表敬訪問
6月 4日 台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)慰労会（団長宅11名）
6月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
6月 16日 ニュー有楽会お別れ総会参加(平和樓本店1名)
6月 21日 台北駐福岡經濟文化辦事處　戎義俊處長歓迎会(千羽鶴18名)
6月 29日 林徳華先生告別式参列(台中・林家宅、6.28～6.30、3名)
6月 29日 御創立記念日献詠披講式出席(靖國神社、6.29～6.30、1名)
6月 30日 台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(平和樓本店　2名)
7月 18日 台北駐福岡經濟文化辦事處　戎義俊處長主催懇親会(Sol　9名)
10月 4日 台湾双十節式典参加(グランドハイアット12名)
10月 12日 第15次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)
・旅程説明会9名
・結団式・壮行会69名
10月 20日 台日文化交流会　許世楷先生講演会参加(西南学院大学コミュニティセンター1名)
11月 1日 中華民國(台湾)福岡領事着任をお祝いする会(花万6名)
11月 10日 台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店5名)
11月 22日 第15次訪問旅行(11.22～11.26、32名)(甲班11.22～26　28名、乙班11.24～26　4名)
12月 29日 保安堂新廟落慶法要参加(12.28～12.30、3名)
平成26年 1月 3日 第10回台湾人留学生初詣おせち会（福岡縣護國神社／松風4名）
1月 25日 台北駐福岡經濟文化辦事處　戎義俊處長主催送別会（處長公邸2名）
1月 25日 第15次訪問団解団式・報告会（平和樓本店63名）
・帰朝報告会63名
・新年会63名
2月 23日 第15回台湾シリーズ放送（スタジオ日本　日曜討論、2.23～3.30、6回）
3月 23日 東龍宮（石羅界堂守以下6名）歓迎晩餐会（千羽鶴8名）
3月 27日 中華民國（台湾）領事着任をお祝いする会（花万3名）
3月 29日 富安宮新廟落慶法要参列（嘉義・富安宮1名）
4月 27日 台湾在日福岡留学生会　新入生歓迎会参加（八仙閣3名）
5月 18日 産經新聞に一面広告掲載
6月 7日 台湾支部事務局長歓迎晩餐会(海幸6名)
6月 8日 第12回台湾特別講演会・懇親会（福岡ガーデンパレス　講演会301名／交流会149名）
基調講演：黄文雄先生(文明史家)「日本人が台湾に遺した武士道精神～台湾と日本を結ぶ日本精神」／パネルディスカッション：私たちは日本を取り戻す」：黄文雄先生(文明史家)「私たち原日本人は大切なものを忘れてしまった」：施光恒先生(九州大学大学院准教授)「台湾の中のニッポン～日本人が取り戻すべき心とは」・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「台湾人戦犯死歿者の遺書について」
6月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
6月 17日 福岡日華親善協会　定時総会参加(八仙閣1名)
8月 16日 胡順來先生告別式参列(台中・篤行基督長老教会、8.15～8.17、2名)
10月 7日 台湾双十節式典参加(グランドハイアット6名)
10月 11日 旅程説明会(平和樓本店22名)
第16次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店71名)
10月 12日 台日文化交流会　桜井真先生講演会参加(福岡国際ホール1名)
11月 14日 台北駐福岡經濟文化辦事處主催　映画「KANO」試写会(T・ジョイ博多8名)
11月 22日 第16次訪問旅行(11.22～11.26、48名)(甲班11.22～26　45名、乙班11.24～26　3名)
平成26年11月 24日 第16次訪問団高雄市政府（李永得副市長、張乃千社會局長）表敬訪問※高雄市爆発事故復興支援義援金（619000円、台湾元3000元／122名）
12月 6日 台湾在日福岡留学生会忘年会参加(八仙閣5名)
12月 19日 台北駐福岡經濟文化辦事處　戎義俊處長主催忘年会(タワーベントハウス2名)
平成27年 1月 3日 第11回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／千羽鶴4名)
1月 24日 第16次訪問団解団式・報告会(平和楼本店82名)
・帰朝報告会82名
・新年会82名
2月 22日 第16回台湾シリーズ放送（スタジオ日本　日曜討論、2.22～3.29、6回）
4月 13日 山口県美祢市総合観光部（藤沢和昭部長以下7名）　来訪
4月 26日 台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加（八仙閣3名）
5月 23日 産經新聞に一面広告掲載
6月 15日 ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行
6月 16日 沖縄県中部倫理法人会　例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」卓話：小菅亥三郎　随行：なし（プラザハウス）
台北駐那覇經濟文化辦事處　蘇啓誠處長表敬訪問（6.15～6.16　2名）
6月 21日 第13回台湾特別講演会・交流会（西鉄グランドホテル　講演会338名／交流会141名）
基調講演：黄文雄先生（文明史家）「太陽花學生運動　統一地方選　そして総統選へ―台湾の若者が示した勇気と献身」／パネルディスカション「終戦70年と私たちの課題―『KANO』を制作した台湾の言語空間」：黄文雄先生（文明史家）「ネット世代に活路を見出す台湾の言語空間―華夷秩序からの脱却」・施光恒先生（九州大学大学院准教授）「想像力の回復に向けて」・柳原憲一先生（西日本台湾学友会前会長）「領台初期の台湾語教育とその影響」
7月 11日 産經新聞に一面広告掲載（「福岡宣言」発表）
8月 8日 台日文化交流会　排湾古謡コンサート（西南学院大学コミュニティセンター1名）
9月 14日 保安堂靖國参拝団（洪海上氏以下32名）お出迎え（靖國神社11名／明治神宮8名）
10月 9日 台湾双十節式典参加（ホテルオークラ10名）
10月 10日 第17次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店93名）
・旅程説明会16名
・記念講話：戒義俊先生（台北駐福岡經濟文化辦事處處長）「八田與一と日本精神」93名
・結団式・壮行会63名
※「沖縄支部設立」兼ねる
掲載記事：産經新聞10月11日、フクニチ11月27日
10月 31日 台日文化交流協会　桜井真先生講演会参加（福岡市市民福祉プラザ2名）
11月 18日 日本道経会福岡支部　例会「海の彼方のニッポンを訪ねて―なぜいま「軍人勅諭」か」
卓話：小菅亥三郎　随行：なし（八仙閣1名）
11月 22日 第17次訪問旅行（11.22～11.26、32名）（甲班11.22～26　30名、乙班11.24～26　2名）
12月 13日 台湾在日福岡留学生会　忘年会参加（ヒルトンシーホーク3名）
12月 14日 中華民國（台湾）領事着任をお祝いする会（松風4名）
12月 25日 台北駐福岡經濟文化辦事處　戎義俊處長主催忘年会（タワーベントハウス2名）
12月 27日 第17回台湾シリーズ放送(スタジオ日本日曜討論、12.27、1回)
平成28年 1月 5日 第12回台湾人留学生初詣おせち会（水鏡天満宮／花万葉10名）
1月 23日 第17次訪問団解団式・報告会（平和樓本店72名）
・記念講話：戒義俊先生（台北駐福岡經濟文化辦事處處長）「暗黙知と日本精神」62名
・帰朝報告会59名
・新年会5名
※「永田昌巳顧問を偲ぶ会」兼ねる
掲載記事：産經新聞1月24日、フクニチ住宅新聞2月5日、日本時事評論2月19日
2月 21日 第16回台湾シリーズ放送（スタジオ日本　日曜討論、2.21～3.27、6回）
4月 7日 山口県美祢市総合観光部（古川和則所長以下2名）来訪
4月 26日 黄明山支部長台南市政府（鄭俊傑社會局秘書室主任）表敬訪問※台南市地震被害復興支援義損金（363000円／88名）
5月 14日 台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会（八仙閣2名）
5月 27日 台湾台日海交會による熊本地震被害再建支援捐援金（251,000円）を産經新聞厚生文化事業団に寄託
掲載記事：産經新聞5月28日、6月21日
5月 28日 産經新聞に一面広告掲載
5月 29日 海原会主催豫科練戦没者慰霊祭参列（陸上自衛隊武器学校内　雄翔園1名）
6月 5日 第14回台湾特別講演会・交流会（ソラリア西鉄ホテル　講演会298人/交流会151人）

基調講演 黄文雄先生（文明史家）「台湾総統選(戦)が切り拓く世界新秩序～日本・米国・台湾の新しい展開」／パネルディスカッション「戦後体制から躍り出た台湾人の台湾～私たちはどう向き合うべきか」：黄文雄先生（文明史家）、「台湾と世界の未来」：施光恒先生（九州大学大学院准教授）、「言語空間の奪還が創造した偉大な地平」：柳原憲一先生（西日本台湾学友会前会長）「誠心（まごころ）で台湾人を団結させた若き指導者、蔡英文」
掲載記事：産經新聞6月6日、フクニチ住宅新聞11月4日

平成28年 6月 15日 ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行
7月 8日 台北駐那覇經濟文化辦事處 蘇啓誠處長表敬訪問（7.8～7.10 1名）
8月 23日 台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会（好記7名）
10月 6日 台湾双十節式典参加（ホテルオークラ16名）
10月 8日 第18次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店169名）
・旅程説明会23名
・記念講話：戎義俊先生（台北駐福岡經濟文化辦事處處長）「台湾の歴史教育と日台関係」 81名
・結団式・壮行会 65名
※「永石辰郎顧問を偲ぶ会」兼ねる
掲載記事：産經新聞10月9日、フクニチ住宅新聞12月2日
11月 22日 第18次訪問旅行（11.22～11.26、50名）（甲班11.22～26 44名、乙班11.24～26 6名）
12月 10日 台湾在日福岡留学生会 忘年会（ホテルクリオコート博多2名）
12月 21日 台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会（ヴェガ2名）
12月 28日 第19回台湾シリーズ放送（スタジオ日本日曜討論12.28、1回）

平成29年 1月 21日 第18次訪問団解団式・報告会（平和樓本店 84名）
・記念講話：戎義俊先生（台北駐福岡經濟文化辦事處處長）「蔡英文新政権を語る」 60名
・帰朝報告会 59名
・新年会 64名
掲載記事：産經新聞1月22日、フクニチ住宅新聞3月10日、臺灣新聞2月6日
4月 2日 第20回台湾シリーズ放送（スタジオ日本日曜討論、4.2～5.7、6回）
4月 20日 山口県美祢市観光商工部（西田良平部長以下6名）来訪
4月 28日 東龍宮増建拜庭完竣暨田中將軍紀念館啓用祭典 参列（屏東・東龍宮、4.27～4.30 1名）
5月 14日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会（アークホテルロイヤル福岡天神 2名）
5月 18日 中華民國（台湾）領事着任をお祝いする会（桃林3名）
5月 28日 産經新聞・東海新報に一面広告掲載
6月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
6月 18日 独自ドメインによる「日華（台）親善友好慰霊訪問団(Nippon-taiwan.org)」のホームページが完成
6月 18日 第15回台湾特別講演会・交流会（ソラリア西鉄ホテル 講演会289名／交流会165名）
基調講演：黄文雄先生（文明史家／和漢両棲ノンフィクション作家）「『一つの中国』の否定とグローバリズムの挫折～日本は台湾との関係をいかに構築すべきか」／パネルディスカッション「強力な台湾アイデンティティを持つ天然独～私たちの代で作ろう、世界も羨む二国間関係を」：黄文雄先生（文明史家／和漢両棲ノンフィクション作家）「台湾の新『新人類』天然独の時代社会条件を探る」・施光恒先生（九州大学大学院准教授）「台湾の新しい国づくりに日本はどう応えるべきか～坂井徳章の足跡を通じて」・柳原憲一先生（西日本台湾学友会元会長）「政権発足一年目の蔡英文總統～その展開と可能性」掲載記事：産經新聞6月19日、フクニチ住宅新聞11月10日
6月 30日 台北駐那覇經濟文化辦事處 蘇啓誠處長表敬訪問(6.30～7.21名)
8月 9日 産經新聞に一面広告掲載（「南京アピール」発表）
8月 12日 保安堂(趙麗惠氏以下2名)歓迎午餐会(千羽鶴 5名)
8月 15日 第1回終戦記念日 護國神社参拝(福岡縣護國神社 17家族41名)
9月 6日 沼田岩夫名誉顧問葬儀参列(別府・セルモ玉泉院別府会館、2名)
9月 13日 中華民國(台湾)領事着任をお祝いする会(桃林 4名)
10月 6日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ25名)
11月 3日 第19次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店170名)
・旅程説明会30名
・記念講話：戎義俊先生(台北駐福岡經濟文化辦事處處長)
「日本精神～日台を結ぶ目に見えない絆」 76名
・結団式・壮行会64名
掲載記事：産經新聞11月4日、フクニチ住宅新聞12月1日
11月 22日 第19次訪問旅行(11.22～11.26 62名)(甲班11.22～11.26 56名、乙班11.24～11.26 6名)
12月 22日 台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(アーフェリーク迎賓館福岡 2名)
12月 31日 第21回台湾シリーズ放送「第19次台湾慰霊訪問の旅を終えて」(スタジオ日本日曜討論、年末年始篇第25弾、12.31、1回)

平成30年 1月 10日 第13回台湾人留学生初詣おせち会(花万葉4名)
1月 20日 第19次訪問団解団式・報告会(平和樓本店69名)
・記念講話：戎義俊先生(台北駐福岡經濟文化辦事處處長)
「明治維新150年と台湾」 69名
・帰朝報告会57名
・新年会50名
掲載記事：産經新聞1月21日、フクニチ住宅新聞4月20日
2月 25日 第22回台湾シリーズ放送「日台の魂の交流／南京攻略80年～原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅」(スタジオ日本日曜討論、本篇第118弾、2.25・3.18～4.1、4回)
3月 6日 台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会(友楽7名)
3月 24日 崇教真光博多小修験道場 春季男志会「海の彼方の日本を訪ねて～なぜいま「軍人勅諭」か」卓話：小菅亥三郎 随行：1名(研修室
4月 13日 山口県美祢市観光商工部（神田高宏所長以下2名）来訪
5月 13日 台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会（八仙閣2名）
5月 23日 産經新聞に一面広告掲載
6月 9日 東海新報に一面広告掲載
6月 10日 第16回台湾特別講演会・交流会(ソラリア西鉄ホテル 講演会283名／交流会174名)
基調講演：黄文雄先生(文明史家／和漢両棲ノンフィクション作家)「明治維新の精神～領台50年と戦後70年の台湾の歩み―台湾の改革維新にどうつなげるか」／パネルディスカッション「明治日本の拡散～私たちの学ぶべきこと―今に生きる明治維新・大日本帝國の精神」：黄文雄先生(文明史家／和漢両棲ノンフィクション作家)「国交を超えるような日台交流とは」・施光恒先生(九州大学大学院准教授)「明治維新の理想と現在の国際秩序」・柳原憲一先生(西日本台湾学友会元会長)「戦艦大和からのメッセージ」
※「台北駐福岡經濟文化辦事處戎義俊處長送別会」兼ねる
※台湾東部・花蓮沖地震復興支援義捐金/法名簿（300,000円/26名）掲載記事：フクニチ住宅新聞11月2日・11月9日、日本時事評論7月6日
6月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行
7月 6日 台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催感謝の会（アーフェリーク迎賓館福岡3名）
7月 13日 台北駐福岡經濟文化辦事處 陳忠正総務部長表敬訪問（2名）
8月 9日 産經新聞に一面広告掲載(「領土アピール」発表)
8月 15日 第2回終戦記念日護國神社参拝(福岡縣護國神社家族参加20組59人、単身参加26人、計85人)
9月 9日 崇教真光博多小修験道場月並祭参列（1名）
10月 5日 台湾双十節式典参加（ホテルオークラ30名）
10月 13日 第20次訪問団結団式・壮行会（平和樓本店194名）
・旅程説明会33名
・記念講話：陳忠正先生（台北駐福岡經濟文化辦事處處長）「ご恩返しの～私が受けた日本人の恩恵」94名
・結団式・壮行会67名
※「台北駐福岡經濟文化辦事處陳忠正處長歓迎会」兼ねる
11月 22日 第20次訪問旅行（11.22～11.26、73名）（甲班11.22～26、63名/乙班11.24～26、10名）
11月 30日 九州・台湾商工会忘年会（西鉄グランドホテル1名）
12月 8日 台湾在日福岡留学生会忘年会（八仙閣2名）
12月 18日 台北駐福岡經濟文化辦事處 陳忠正處長主催忘年会（八仙閣2名）
12月 30日 第23回台湾シリーズ放送「明治維新150年 慰霊団結成20年～原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅」（スタジオ日本日曜討論、年末年始篇第28弾、12.30・1.6、2回）

平成31年 1月 16日 第14回台湾人留学生初詣おせち会（花万葉3名）
1月 19日 第20次訪問団解団式・報告会（平和樓本店67名）
・記念講話：陳忠正先生（台北駐福岡經濟文化辦事處處長）「日台の魂の交流～110歳の日本人元教師と台湾人日本語世代の交流」57名
・帰朝報告会67名
・新年会52名
2月 19日 宝覚寺慰霊祭継続打合せ（2.19～21、2名）

日華(台)親善友好慰霊訪問団 結成20周年

『海の彼方のニッポンを訪ねて』

日華(台)親善友好慰霊訪問団
団長　小菅　亥三郎

日本と台湾との関係は123年前に遡る。明治27年7月我が国は朝鮮の独立をめぐって清国と戦端を開きました。8ヶ月に及ぶ戦いのすえ勝利、翌28年4月台湾が我が国に割譲されました。以後、昭和20年8月15日に大東亜戦争で敗れ、ポツダム宣言を受諾し、台湾の主権を放棄するまでの50年間我が国は台湾を統治しました。清国から「化外の地」と言われていた台湾に我が国の父祖は莫大な国費を投じ、風土病の撲滅・公衆衛生の推進、教育の普及、殖産興業、社会資本の整備を行い、近代国家の礎を築いたのです。

しかし戦後、支那大陸で毛沢東率いる中国共産党との戦いに敗れた蒋介石の國民党が台湾に逃れ、それに伴い大陸から多くの外省人が流入し、本省人(父祖の時代から台湾に住んでいる人)との間に様々な軋轢を生み出しました。24年には全土に戒厳令が敷かれ、やがて日本語・台湾語の教学禁止令が布告、反日教育が進められていきました。また47年の日本と中国との国交締結に伴い、台湾との国交は断絶。以後、日本との公式な交流は途絶えてしまいます。しかし、63年に李登輝総統が登場し國民党一党支配の政治は終焉、台湾は一気に民主国家へと突き進みました。国交断絶後も民間レベルで続いていた日本との文化・経済の交流は更に加速され、今日に至っています。

21世紀のアジアの平和と繁栄は、日本と台湾との強固な関係なくしては存在しません。日華(台)親善友好慰霊訪問団（略称、訪問団）結成20年の節目にあたり、台湾に父祖が築いてくれた遺産や歴史を正しく顕彰するとともに、一日も早い日本と台湾との国交正常化を願って訪台している私たちの活動をご紹介し、関係各位のご理解とご支援をお願いする次第です。

台湾人の英霊顕彰こそ
日台の生命の絆

「日台の生命(いのち)の絆 死守せむと 吾 日本の一角に起つ」

訪問団の信条であるこの標語の通り、私たちが台湾を訪問する第一義の目的は、大東亜戦争で日本兵として亡くなられた台湾人3万3千余柱に、日本人国民として追悼と感謝の誠を捧げ、顕彰することです。

大東亜戦争が我が国の自存自衛とアジア解放であったことは歴史が証明しています。幾世紀にも及ぶ白人による植民地支配の歴史を終焉させ、民族の独立と自由を勝ち取る大義に、我が国の先人や父祖、そして当時日本領土であった台湾及び朝鮮の人々は立ち上がり、生命をかけて戦われました。大東亜戦争を経験した台湾の高砂族のある古老は次のように語っています。「我々は台湾に来たオランダにも鄭成功にも、清国に対しても屈従しなかった。しかし、日本だけは別だった。それは大東亜戦争の魅力に勝てなかったからだ。」

しかしこの崇高な行為に対して、戦後我が国は台湾の同胞に十分な償いをしていません。終戦後、インドネシアの独立に際して約2000人の日本人が現地に残り、蘭軍や英軍と熾烈な独立戦争を戦いその半数が生命を落としましたが、インドネシアは彼ら日本人をカリバタ英雄墓地に祀り、最高の栄誉と感謝の誠を捧げています。一方、南北朝鮮では執拗な反日教育により我が国の真意と努力が〔国民レベルでは〕曲解されている点が多々あるものの、我が国は昭和40年の日韓基本条約締結で、朝鮮戦争で疲弊し尽くした国土復興のため巨額の支援を行い、経済再建・民族自立への道を提供しました。このことは大東亜戦争に尽くされた朝鮮人戦死者に報いる行為でした。

これに較べて台湾に対しては、戦後、蒋介石率いる國民党に支配

されて以降、今なお「一つの中国」政策に縛られた我が国政府は「台湾は台湾人のもの」との声に耳を傾けていません。これではかつて我が国及びアジアの国々の独立の為にわが身を顧みず尽くしてくれた原台湾人の元日本兵軍人軍属の皆様に対して申し訳が立ちません。私たち訪問団は台湾を訪れる以上、それら台湾人同朋の英霊に日本人国民として追悼と感謝の誠を捧げる行為なくして真の交流はないとの判断のもと、英霊顕彰を目的にした訪問団を結成することにしたのです。

英霊に導かれた私たちの訪問団

私たち訪問団の結成は平成11年です。毎年団員を募って組織し、昨年で20回を数えました。これまでの参加者は第1次より第20次までで延べ714人、正味399人、滞在は3200人日です。（なお、冠婚葬祭まで含めますと延べ729人、正味399人、滞在3244人日です。）

さて、平成11年（第1次訪問団）は3月6日から9日までの3泊4日で実施されました。この訪問団の立ち上げに際しご指導戴いたのは、当時、福岡県郷友会事務局長の日高清先生でした。日高先生から「せっかくお金と時間をかけて台湾に行くのであれば団に名称をつけなさい。ただの旅行の一団では先方にも忘れられ、私たちの記憶も限りなく曖昧になってしまう。そして名称には必ず『慰霊』という文字を入れるように。これがなければ意味がない」とアドバイスを戴きました。第1回目（第1次訪問）は社員旅行を兼ねていたこともあり、団の命名にまで考えは及んでいませんでした。しかしそのご指摘を深く受け止め、団体の名称は「日華親善友好慰霊訪問団」と定めました。この命名によってこそわが訪問団の運命は予想を越えた展開をすることになります。英霊との深い関係が生まれていったことがその要因ではないかと思っています。

第1次訪問の2日目のことでした。宿泊した台湾東部の花蓮から中央部にある日月潭へ向かう途中、太魯閣峡谷を通過しました。観光名所で有名なこの峡谷は、両岸を断崖絶壁が20キロにも亙って続き、その下を縦横に曲折する渓流が水しぶきをあげています。私たち一行のバスは、眼下に数10メートルもの崖を見下ろしながら山の中腹を縫うように走っていました。ところが、途中からバスの運転手は、私たちの前を走っていた遅い車による時間的遅れを取り戻すために、片側一車線の左右にカーブするこの危険な道路で、次々と前の車を追い抜く暴走運転を始めました。加えて眠気さましに檳榔椰子を齧り、その興奮も手伝って速度は更に上がり、心中穏やかならぬ団員の気持ちもよそにバスは猛スピードで急カーブに突入。対向車との正面衝突は危うく避けましたが、その切り返しで谷側のコンクリート製のガードレールに衝突。バスの左前方部はガードレールを越え、峡谷の上にはみ出して止まる事故を起こしました。一歩間違えれば峡谷に転落、全員即死という大惨事でした。私たちは揺れるバスの後部の非常口から慎重に脱出しました。しかし、付近は人家もなければ携帯電話も届きません。日月潭に到着すべき予定の時刻は刻一刻と迫っているのに為す術がありません。そのときでした。1台の大型のクレーン車が偶然通りかかり、私たちのバスを道路に戻してくれ、料金も請求せず去っていったのです。

翌朝、代替のバスが手配されました。それは日本海軍の旭日旗を会社のマークとする朝日バスでした。後で分かったことですが、朝日バスの社長の蕭興従氏は、かつて大日本帝國海軍の軍属でした。私たち一行が台中にある宝覚禅寺の日本人墓地で国旗「日の丸」を掲揚して、国歌「君が代」を斉唱し、慰霊式を行っているときに、バスで待機していた運転手が私たちを日本から来た戦友会と勘違いされ、父であり社長である蕭興従氏に報告されたのです。日本に帰国した3ヵ月後の6月、蕭興従氏より11月25日に宝覚禅寺で実施されている慰霊祭の案内状が届きました。このとき初めて同日同場所で元日本軍人軍属による慰霊祭が行われていることを知ったのです。その年、次女と2人で訪台しそれに参列させて戴いたことを機に、翌年からの訪台は、11月25日の慰霊祭に合せて実施することにしました。

顧みれば、このとき太魯閣峡谷で事故に遭わなければ、クレーン車に助けられて翌日代替の朝日バスに出会うことも、蕭興従氏との知遇を得ることもなく、11月25日の慰霊祭のことも知らなかったのです。しかも不思議なことに蕭興従氏と私の父は終戦後、フィリピンにあった米軍のカランバン捕虜収容所に一緒に因われていたのです。ここまでの偶然があるでしょうか。私は第1次訪問を体験して余りにも度重なる偶然の多さに驚き、明らかに英霊の導きを確信した次第です。今思えば、「慰霊」の文字を掲げ日本人として亡くなられた台湾人軍人軍属に日本人国民として追悼と感謝の誠を捧げる訪問団の趣旨と行動を、心か

ら歓迎し私たちと地元台湾の戦友会とを結びつけて下さったのは、ほかならぬ台湾人3万3千余柱の英霊ではないかと感謝しています。

宝覚禅寺の台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭に参加

私たちの4泊5日(第10次訪問団より)の訪問団は、南部の屏東(3度だけ最南端のガランピー岬まで足を運ぶ)、高雄から台南、台中を通り、台北まで300キロ以上の行程を5日間かけて縦走し、元日本人の軍人軍属が祀られている場所や碑を訪れて各地で慰霊の誠を捧げています。これまでの20次に及ぶ訪問の中で私たちが慰霊で訪ねた場所は、南から潮音寺、東龍宮、先鋒祠(以上屏東縣)、保安堂、日本人墓地、台湾無名戦士紀念碑（以上高雄市）、飛虎将軍廟、烏山頭水庫（以上台南市）、貞愛親王殿下登陸紀念碑（台南縣）、富安宮（嘉義縣）、宝覚禅寺（台中市）、勧化堂、濟化宮（以上新竹縣）、海明禅寺（桃園市）、芝山公園（台北市）、明石元二郎総督墓所（新北市）、高砂義勇隊戦沒英霊紀念碑（新北縣）等があります。これらの慰霊地を毎年6箇所以上選定し、戦没者の方々に敬虔な祈りと感謝の誠を捧げています。それらの中で私たち訪問団にとって最も大切な慰霊祭は、11月25日、地元の台湾台日海交会等が主催して行われる宝覚禅寺での「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」です。

台湾では、昭和63年に38年に及んだ戒厳令が解除されたのを機に、大東亜戦争で戦死した元日本兵軍人軍属3万3千余柱と戦争の犠牲者となった住民を祀る事業が、台湾の戦友会と日本の戦友会の協力のもとに進められました。地元福岡でも台湾の澎湖島出身の元軍医・森晴治氏（第5次、第6次訪問団に参加。平成17年の第7次訪問を前に91歳で逝去）が募金活動に尽力され、ご自身の多額な寄付や観音像の寄贈などその努力が実を結び、平成2年11月25日、宝覚禅寺に「和平英魂観音亭」が建立されました。その隣には、李登輝総統（当時）によって「霊安故郷」と揮毫された慰霊碑が建てられています。まさしく宝覚禅寺は、先の大東亜戦争で亡くなられた元日本兵軍人軍属だけでなく戦災で犠牲になられた民間人までもが一同に祀られている、台湾における慰霊の中心地です。

毎年慰霊祭は、午前10時から「霊安故郷」慰霊碑の前で行われます。参加者は私たち一行を含めて約100名です。慰霊祭はまず中華民國（台湾）と日本両国の国歌斉唱で始まります。続いて黙祷。次に地元の主催団体の献香、献花、献果、そして祭文が奏上され、最後に訪問団を代表して団長が祭文を捧げています。祭文は訪問団の目的を述べるだけでなく、私的な一民間団体とはいえ日本国民を代表する一行として心を込めて書き上げられています。その内容は、欧米の植民地支配の軛から黄色人種解放という世界史的偉業に一命を捧げられた崇高な行為に対し敬意と感謝の誠を捧げ、日台両国の国交正常化と運命共同体としての絆を一層深めていくことを祈念しています。このあと参列者全員で「海ゆかば」を奉唱し、約1時間に亙る行事は終了します。

私たち訪問団は毎年この行事に参加するのみならず、台湾各地にある元日本人の慰霊地にできるだけ足を運び、慰霊の誠を捧げています。そうした私たちの努力が実り、第8次（平成18年）に初めて南天山濟化宮（新竹縣）という神社を訪れました。日本の書籍では余り紹介されていない場所です。この神社が分かったのは、私たち訪問団と長く交流のある元従軍看護婦の陳清子さん（台湾在住）から手紙と一緒に新聞の切り抜きが送られてきたからです。

その記事を頼りに初めて濟化宮を訪問したとき、現地の人より「濟化宮に観光バスで日本人が来たことも、またご案内したことも今回が初めて」と言われました。濟化宮は神社といっても神社風の建物ではなく、本堂や7階建ての建物で構成されています。その7階建ての寶塔には、昭和57年10月25日に靖國神社から持ち込まれた台湾人御祭神の霊璽簿をもとに作成された「〇〇霊璽」（位牌のこと）約4万体が納められています。靖國神社に祀られている台湾人は27,593人なので、その差約1万人は日本では「戦死」と見なされなかった人々だといわれています。当時、遺族は日本の靖國神社まではとても参拝にいけないので、濟化宮の建立はとても喜ばれたといいます。現在ここは「台湾の靖國神社」と呼ばれています。先の大戦で亡くなられた人々の供養は、ここで今日まで地元の有志によって営まれているのです。

訪問団の成果

20次に亙る訪問団を実行することによって私たちが得た成果は幾つかあります。

1つは、先の大戦で亡くなられた人々（英霊）への慰霊を通して、日本と台湾は魂からの真の交流ができることです。私たち一行が4泊5日で受ける歓迎はどこの

地でも熱狂的です。そして毎年帰国する日には、団員の両手は現地の人たちから戴いたお土産で一杯になっています。初めて参加した団員の誰もがその熱烈な歓迎ぶりに驚きます。観光や商売で台湾を訪れる人は多くいます。しかし亡くなられた台湾の人々への慰霊のみを目的に訪問する団体はまずありません。それだけに私たちの真心には深く感謝され、今日まで家族的、兄弟的な交流が続くのです。第1次から20次までに交流した人々は1000名以上にのぼり、その数は年々増えています。

2つ目は、明治28年から昭和20年まで50年に及ぶ父祖の統治が如何に台湾の人々のために大きな功績を残したか、その歴史の真実に触れることができることです。日本統治時代の教育を受け、その時代を知る人たちの生の言葉や現地でその足跡に直接触れることは、戦後の誤った歴史観（台湾を植民地支配）を一掃してくれます。そして何よりも、父祖が台湾に寄せた愛情、努力の大きさにわが身が正されるのです。

次は、台湾訪問中に私たちが直接聞いた言葉です。「日本の統治時代は夜でも戸を開け放って寝ることができた。大変治安が良かった」、「日本の教育を受けた。だから私は時間には遅れない。嘘をつかない」、「日本人は自分よりも遥かに小さかった。しかしどうしても勝てなかった。柔道を教わった。日本人は文武両道だ」、「日本人は話し合いをする。そしていつまでも自説を固持しない。相手のことを大切にする」、「日本の文化、日本の価値観、日本の美意識が世界標準になれば、世界は幸福になる」

3つ目は、4泊5日という短い体験ながらもこの訪問を経験することによって、団員一人ひとりに自国に対する愛情と日本人国民としての自信と誇りが鮮やかに蘇ってくることです。戦後、個人主義の教育を受け、民族や公（おおやけ）の民（たみ）としての自覚を持つ体験が殆どなかったにもかかわらず、忘れていた大切なことを思い出させてくれます。それは日本の国に生れた喜びを持ち、日本の国をこよなく愛し、美しく思う心です。元日本人であった人々の言動から「日本はどういう国であったか」を考えさせられ、「日本人はどのように生きてきたか」を教えられるのです。英霊への深甚なる感謝と慰霊の訪問が、逆に私たちをして日本人としての自覚と責任を生ましめるのです。これほどの得がたい体験があるでしょうか。

更に訪問団では、李登輝元総統とも関係の深い許國雄氏(東方工商専科学校学長/平成14年逝去)や許文龍氏（奇美実業股份有限公司会長）、あるいは蔡焜燦氏（偉詮電子股份有限公司会長/平成28年逝去）や羅福全氏（元台北駐日經濟文化代表處處長）、黄天麟氏（元台日文化經濟協會會長）等にお会いし、50年に及ぶ日本統治から戦前の教育、歴史、文化などについてお話を伺う機会を設けています。これは台湾での私たちの体験をより深め、より正確に学ぶことのできる貴重な時間です。

台湾防衛は台湾人英霊との約束 そして世界一の道義国家・日本の再建へ

顧みれば、21年前『台湾と日本・交流秘話』の学びを機に社員旅行から始まったこの訪問団が、今や私たち自身の人生を変えていく、或いは日本人として自立させていく機会になろうとは夢にも思いませんでした。確かに私たち自身がこの訪問によって受ける恩恵は計り知れません。しかしそれと共に、私たちの父祖や台湾の英霊の方々が私たちに対して「日本は台湾のことを忘れてはならない」「日本と台湾は運命共同体だ」と呼びかけられているように思われてなりません。

戦後、蒋介石率いる國民党の圧政に苦しみながらも日本精神を胸に秘め、元日本人としての矜持を断固守り抜いてきた台湾。九州より少し小さい領土に2000万人を超える人口を擁し、他国籍の軍隊を一兵卒も置かず国土を防衛し続けてきた台湾。国民皆兵を堅持し、共産党一党支配の中華人民共和国と互角に渡りあってきた台湾。日本の敗戦を悔しがり、戦後日本人が台湾を放棄し、引き揚げてしまったことを残念がる世界一の親日国・台湾。日本精神を高く評価し、世界に誇る民主国家を築き上げた台湾。このような台湾でありながらも、「台湾の主人公は台湾人」という悲願が国際社会で認知されていません。この台湾の人々の切実な思いに我が国、そして私たち日本人は如何に応えていくのか、その覚悟と責任が問われています。「台湾防衛は台湾人英霊との約束」そして「世界一の道義国家・日本の再建」、これが私たち訪問団の結論です。

父祖の志を継承する者として、英霊のご加護を賜りながら、今後も訪問団を組織し、微力を尽くしていく所存です。

明治と遭遇させてくれた台湾。明治日本の生き方、考え方、そして有り様を是とし、戦前のわが国を肯定する台湾。明治・大正・昭和を教科書から塗りつぶし、国民の記憶から消し去ろうと血道をあげる日本。「出藍の誉」という言葉がありますが、青である台湾は藍である日本から出ましたが、藍より青くなっているのではないでしょうか。戦死された英霊はいずれの国を祖国と思うでしょうか。

平成十一年以来、私達は宝覚寺における「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列させていただき、三万三千余柱の御霊の安らかならんことをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、更に充実・拡大し、「日台の魂の交流事業」として次世代に継承していくことが、「日本人として散華された英霊」にお応えする私達の務めであると考えています。それは、この道こそが、民主的な平和国家として独立している台湾を支援し、真の友好関係を打ちたて、両国を結ぶ「生命の絆」をより一層深めてゆくことにほかならないからです。加えて、これらの行為が、日台両国の安全と国益に合致し、ひいては東アジア全体の平和と安定に寄与するものと確信するからです。私達は、この道を邁進することによって、日台国交正常化へ向けた国民運動の大きなうねりを創出してゆくことをご霊前にお誓い申し上げます。

以上の決意も新たに、わが国の近代史に比類なき勇気と献身を刻まれた英霊のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。

日台の生命の絆　死守せむと

吾　日本の一角に起つ

平成三十年
民國百七年
皇紀二千六百七十八年

十一月二十五日

日華(台)親善友好慰霊訪問団
団長　小菅　亥三郎

台湾訪問の旅　訪台者一覧（第1次より第20次までの団員399名）

青木　繁政
赤松　公昭
浅見　晃甲
安倍　輝彦
阿部　敏彦
安部　雅俊
阿部　政美
天野　敬介
新垣　和也
荒津　雅也
荒牧　賢二
有吉　忠助
有吉　弘子
安藤　政明
安藤　由紀子
飯島　志津子
家村　茂美
池田　裕二
石川　秀久
石塚　俊雄
石塚　妙子
石原　章臣
石原　一二三
石原　祐教
石橋　三之助
石橋　美佐子
泉　邦芳
市川　憲三
市来　徹夫
井手田　洋基
伊藤　清子
稲田　健二
井上　俊治
井上　昌俊
井上　誠二
井上　理恵子
井口　セツ子
井口　保二
井口　婦美子
井原　四郎
今村　之昭
岩崎　美加
岩重　誠
岩附　辰夫
岩渕　宣仁
岩元　清一
岩元　ひとみ
岩元　照周
岩本　敏弘
岩本　宣善
岩元　みさ
ウイクラマスレンドラサニー
牛島　慶一
牛島　康智
江藤　敏伸
江頭　伸一
江崎　君公
江崎　孝
江藤　憲一
エドワーズ博美
大石　憲
大嶋　俊英
太田　玲子
大塚　ヨシ子
大坪　龍彦
大西　敬吾
大西　雅樹
大橋　昭仁
大庭　道夫
大林　さやか
大山　猛
岡田　敏江
緒方　俊美
小川　聡子
岡根　智美
小倉　和彦
小倉　弘子
小倉　美帆
小副川　克江
鬼塚　圭子
鬼塚　曜
鬼塚　芳治
小野　辰治
小野　正明
小濱　善和
折居　一志
折居　正規
柿元　慎司
柏田　伸幸
柏原　正弘
加藤　聖三
梶栗　勝敏
片岡　実里
金澤　明夫
金澤　千代美
金澤　礼
金子　孝夫
亀渕　武士
亀渕　喜久子
茅野　輝章
茅野　紀子
茅野　櫻
茅野　慧
河野　一寿
神田橋　勉
我那覇　隆裕
我那覇　真子
我那覇　舞輝
木須　治彦
北浜　道
木付　辰生
木付　靖子
城所　尚代
木下　栄次
木下　嘉平
木村　権作
木村　賢二
木村　秀人
木村　孝子
清瀬　武子
清瀬　空
桐谷　勝
桐野　尚枝
桐野　隆徳
國武　利貴弥
國友　健男
久保　直子
久保山　一雄
倉田　栄
倉田　光男
黒田　賢太郎
黒田　務
小池　房子
康　因熹
高良　ミネ子
古賀　聖子
古賀　誠
古賀　靖啓
小菅　紀武吾
小菅　亥三郎
小菅　順子
小菅　健太郎
小辨野　聖也
小松　友子
小松　正隆
小柳　陽太郎
五郎丸　浩
五郎丸美佐江
齋藤　梅子
榊原　みどり
坂田　弘
坂田　照子
阪中　三幸
坂本　彰
櫻井　英夫
佐護　美和子
佐々木　建城
佐々木　朗子
佐々木　佳重
佐竹　秀三
佐竹　冬子
佐藤　敏子
佐藤　正子
佐藤　吉彦
讃井　健三
塩先　晋照
重松　源吉
重松　博子
篠原　章好
柴崎　一郎
柴田　知則
柴田　好章
柴田　英明
島　啓三
島　むつみ
嶋田　謙三
下田　健一
下田　純子
白水　キミ子
新開　崇司
新谷　章
菅沼　寛
菅沼　由美
杉浦　航也
杉山　雄一
角　洋一郎
妹尾　和之
関　文彦
高須賀　俊一
高田　信一
高野　治之
高橋　成子
高橋　幸久
高原　裕之
髙間　光廣
高松　信秋
滝井　芳子
田口　俊哉
竹下　尚志
武田　真理子
田尻　雄一
田中　勝弘
田中　典子
田中　伯央

『日華(台)親善友好慰霊訪問団を代表し、
原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の御霊の御前にて
慎んで祭文を奏上いたします。』

祭　文

今、英霊として眠っておられる台湾の皆様は、先の大東亜戦争において、私達と一緒に日本人として、南海の島々や熱帯の密林で白人圧政者の軍隊と、また支那大陸で蒋介石率いる重慶軍や毛沢東の共産匪賊と生死を賭けて戦った同胞でした。国家国民の総力を挙げた三年と九ヶ月に亘る戦いにも拘わらずわが国は敗れましたが、国体を護り、大東亜解放の壮図を成し遂げました。

とまれ、わが国が軍事的敗北を余儀なくされたとはいえ、四百年以上に及ぶ欧米列強の植民地支配に終止符をうち、アジアにおける全ての権益を失わせしめ、結果、民族自決の潮流を澎湃として巻き起こしたのは紛れもない世界史的事実です。

これを偉業といわずして一体何と呼べばいいのでしょうか。陛下の臣民として東洋平和のために共に血と汗を流した同志的兄弟感・一体感はかくして形成されました。台湾の皆様が五十年間の日本統治時代の伝統や文化、はては「大和魂」を高く評価し、これらを「日本精神」として継承している世界に類を見ない親日的な国家・国民である由縁はここに淵源があります。

私達は、このような台湾の皆様の誠心に応えていくと共に、私達日本人に民族としての自覚と誇りを高めていくために、兄弟交流・家族交流を深め、兄弟感・一体感を強固なものにしていくことが肝要であると考えています。

今年は明治維新百五十年、慰霊訪問団結成二十年の節目の年にあたりますが、二十回の訪台での最大の発見は「明治との出会い」でした。領台時代、あるいは日本統治時の価値観が、文化が、生き方が現在進行形で丸ごと形を残してくれているのが台湾です。明治日本から限りなく遠ざかる現代日本に住んでいる私たちにとって、台湾ほど郷愁を感じさせる国が一体世界のどこにあるというのでしょうか。

田中　純夫
田中　秀男
田中　キミヨ
田中　美咲
田中　道夫
田中　秀幸
谷　亜希子
谷尾　侃
谷口　祐子
田村　邦明
田渕　俊次
反田　邦彦
反田　由美子
團　宝誠
陳　怡勲
塚田　征二
塚本　能久
辻森　弘美
津田　建一
土山　彬
鶴　修輔
津留　毅
鶴井　博理
鶴岡　邦彦
鶴田　栄一郎
鶴澤　美枝子
出口　清
徳田　慎也
戸田　幸雄
冨田　昇一
冨田　隆子
富原　浩一朗
富原　浩
堂端　聖子

中尾　博憲
中島　公明
中島　重夫
中嶋　大介
中島田　信輔
中園　公浩
中野　一則
中畑　利介
中村　カツ子
中村　哲
中村　卓
中村　朝子
中村　那津子
中村　英夫
中村　裕一
中山　茂
中山　雄夫
永石　辰郎
永田　昌巳
永田　タマミ
永濱　武司
永濱　浩之
永渕　裕章
長嶺　保介
永吉　正紀
名越　譲二
名越　美智子
成田　千秋
南條　實
西田　一也
西村　靖子
西村　安弘
西山　洋
丹邉　憲治

庭木　正二郎
沼田　岩夫
沼田　真清
根之木　昭憲
野口　ヨシエ
野田　正治
野見山　優亮
羽音　修平
橋本　政憲
花田　康彦
濱田　修
原　千里
林　克紀
林　雅子
原田　和典
原田　種雄
原田　經子
原田　泰宏
伴　尚志
東　昭臣
久野　貴子
久野　智教
久野　睦子
日高　誠
日吉　淳治
日吉　悦子
平泉　弘美
平泉　由紀子
平尾　武敏
平尾　文洋
平永　明伍
平永　由子
平野　和彦
平野　壽

平松　扶二雄
廣石　金典
廣石　有美
廣瀬　智子
福岡　滋子
福田　章枝
福田　史子
福原　洋子
藤川　楷棻
藤田　達男
藤末　潔
藤末　耕一郎
藤村　一
藤本　豊
古迫　民雄
舩津　邦彦
星野　孝典
星野　友秀
堀　明彦
堀　純生
堀川　克巳
本田　茂夫
本田　和代
本田　武敏
本間　潤子
前田　久美子
真栄田　強
前田　治義
前田　マツヨ
前原　清美
前原　照美
愼尾　亮順
牧之瀬　千保子
又丸　斉次

松岡　祐貴
松下　美佳
松下　実
松俵　義博
松俵　茂子
松永　亜弥
松永　達始郎
松葉　邦子
真鍋　光広
道崎　光義
道崎　貴子
簑原　政裕
宮崎　勇気
宮地　恵津男
宮地　芳子
宮野　秀樹
三好　誠
虫本　隆夫
向井　百合子
村山　淳
村山　初美
森　敬惠
森　晴治
森　靖子
森澤　満子
森岡　敬子
森下　秀典
森下　学
守田　昭雄
矢ヶ部　大輔
安河内　康彦
八尋　妙子
山鹿　好史
山口　自然

山口　秀範
山口　智子
山口　英明
山口　衛
山下　亜希子
山下　賢悟
山城　竜治
山田　悟
山本　正
山本　博久
湯下　雅俊
横尾　秋洋
横山　勝美
吉岡　卓郎
吉武　勲
吉田　喜久子
吉田　周司
吉村　恭二
吉村　幸徳
頼永　博朗
力武　崇樹
脇山　博文
渡邉　一弘
渡邉　瑞枝
渡辺　晋作

敬称略50音順
但し、家族は「長幼の序」に従った

㉚明石元二郎総督墓所
㉔芝山公園
桃園国際空港
㊽忠列祠
㊺海明禅寺
㊽夜市
㊴中華民國外交部
㊼台湾日本関係協会
㊹台湾総統府㊻二二八紀念公園
②忠烈祠
③龍山寺
㊶林森公園
㊵台北101ビル
①故宮博物院
㊱ 濟化宮
台北
台北県
⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑
⑥⓪烏來酋長文化村
新竹県
宜蘭県
台湾海峡
苗栗県
㊿勧化堂
⑦⓪西郷庁憲德致碑
⑥①篤行基督長老教會
④⑦三一基督長老教會
③③台中公園
⑤④台中市政府
⑧宝覚寺
⑨日本人墓地
③②孔子廟
③④夜市
⑥ 梨山
⑤ 太魯閣峡谷
台中県
台中
③⑤国史館台湾文献館
南投県
㉗九族文化村
⑦ 日月潭
花蓮県
花蓮
④ 阿美文化村
彰化県
雲林県
澎湖諸島
澎湖県
嘉義県
④③富安宮
③⑦貞愛親王殿下登陸記念碑
④①鹽水國民小學
④②八角樓
㉖南栄技術学院
㉓烏山頭ダム
㉕八田與一記念館
④⑥殉工碑
⑥⑨古蹟後壁黄家
台南県
⑤③八田與一記念公園
台南
⑩飛虎将軍廟
⑱孔子廟
④⑨海尾朝皇宮
⑤⑥台南武德殿
⑤⑦台南市政府
⑤⑤新化國民小學御眞影奉安殿
⑪
㉒奇美博物館
安平古堡（紅毛城）
高雄県
東方技術学院 ⑫
育英医護管理専科学校 ⑰ ⑳徳生長老教會
⑥②高雄市政府⑬夜市
㉑愛河
㉘日本人墓地
高雄
⑭寿山公園
⑯ 蓮池潭
⑮ 澄清湖
屏東県
高雄国際空港
⑥③台湾無名戦士記念碑
③①保安堂
台東県
台東
太平洋
⑤⑧二峰圳（地下ダム）
⑤⑨喜楽發發森林公園
⑤②東龍宮
⑥⑧先鋒祠
墾丁
潮音寺 ㉙ ④④ 鵝鑾鼻公園
④⑤巴士海峡

〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉（訪問年月日順／日付は初回訪問日）

①故宮博物院／ H11.3.6
②忠烈祠(台北)／ H11.3.6
③龍山寺／ H11.3.6
④阿美文化村／ H11.3.6
⑤太魯閣峡谷／ H11.3.7
⑥梨山／ H11.3.7
⑦日月潭／ H11.3.7
⑧宝覚寺／ H11.3.8
⑨日本人墓地（台中）／ H11.3.8
⑩飛虎将軍廟／ H11.3.8
⑪安平古堡（紅毛城）／ H11.3.8
⑫東方技術学院（旧東方工商専科学校）／ H11.3.8
⑬夜市（高雄・六合路）／ H11.3.8
⑭寿山公園／ H11.3.9
⑮澄清湖／ H11.3.9
⑯蓮池潭／ H11.3.9
⑰育英医護管理専科学校／ H12.11.24
⑱孔子廟（台南）／ H12.11.24
⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑／ H13.11.26
⑳徳生長老教會／ H14.6.8
㉑愛河／ H14.11.23
㉒奇美博物館／ H14.11.24
㉓烏山頭ダム（烏山頭水庫）／ H14.11.24
㉔芝山公園／ H14.11.26
㉕八田與一記念館／ H15.11.24
㉖南栄技術学院／ H15.11.24
㉗九族文化村／ H15.11.25
㉘日本人墓地（高雄）／ H16.11.23
㉙潮音寺／ H16.11.24
㉚明石元二郎総督墓所／ H16.11.26
㉛保安堂／ H17.11.23
㉜孔子廟（台中）／ H17.11.25
㉝台中公園／ H17.11.25
㉞夜市（台中・中華路）／ H17.11.25
㉟国史館台湾文献館／ H17.11.25
㊱濟化宮／ H17.11.25
㊲貞愛親王殿下登陸記念碑／ H19.11.24
㊳夜市（台北・士林区）／ H19.11.25
㊴中華民國外交部／ H19.11.26
㊵台北101ビル／ H19.11.26
㊶鹽水國民小學／ H20.11.24
㊷八角樓／ H20.11.24
㊸富安宮／ H20.11.24
㊹鵝鑾鼻公園／H21.11.23
㊺巴士海峡／H21.11.23
㊻殉工碑／H21.11.24
㊼三一基督長老教會／H22.3.13
㊽忠列祠（桃園）／H22.3.14
㊾海尾朝皇宮／H22.11.23
㊿勧化堂／H22.11.25
(51)林森公園／H23.11.22
(52)東龍宮／H23.11.23
(53)八田與一記念公園／H23.11.24
(54)台中市政府／H23.11.24
(55)新化國民小學御眞影奉安殿／H24.11.23
(56)台南武徳殿／H24.11.23
(57)台南市政府／H24.11.23
(58)二峰圳（地下ダム）／H25.11.23
(59)喜楽發發森林公園／H25.11.23
(60)烏來酋長文化村／H25.11.26
(61)篤行基督長老教會／H26.8.16
(62)高雄市政府／H26.11.24
(63)台湾無名戦士記念碑／H28.11.23
(64)台湾総統府／H28.11.26
(65)海明禅寺／H28.11.22
(66)二二八紀念公園／H28.11.26
(67)台湾日本関係協会／H29.11.22
(68)先鋒祠／H30.11.24
(69)古蹟後壁黄家／H30.11.24
(70)西郷庁憲徳政碑／H30.11.26

現地メディアの取材を受ける小菅団長（台北）

〈交歓先〉（交歓年月日順／日付は初回交歓日）

許國雄先生／ H11.3.8
台湾中日海交協会／H11.11.24
蘇金淵先生／ H11.11.25
蕭興従先生／ H11.11.25
詹徳寛先生／ H14.11.23
許文龍先生／ H14.11.24
何怡涵・陳清華ご夫妻／ H15.11.24
台灣台日海交會（旧「台灣台日海交聯誼會」）／H16.11.24
台中市日本文化協會／H16.11.25
王春茂・馮英鳳ご夫妻／ H16.11.25
沈芳以・呉月雲ご夫妻／ H17.11.25
蔡焜燦先生／ H18.11.26
台日文化經濟協會／ H18.11.26
黄明山・葉美麗ご夫妻／ H20.11.24
黄崑虎先生／H21.11.24
ラバウル會／H22.11.24
黄文雄先生／H25.11.22
蓬38號艦 英靈返郷團／H30.11.23
台日友好協會／ H30.11.24

台湾慰霊訪問の旅　訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6~9 土~火 ガイド 李 燕光 神僧職 なし 旅行社 ヤマトトラベル （15ヶ所）	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村 （花蓮泊）	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭 （日月潭泊）	⑧宝覚寺 ⇒日本人墓地（慰霊式） ⑨飛虎将軍廟（慰霊式） ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学校 ⇒交歓会（許國雄先生） ⑫夜市 （高雄泊）	⑬寿山公園 ⑭澄清湖 ⑮蓮池潭
第2次訪問 17名 H.12.11.23~26 木~日 ガイド 陳 賜賢 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト （9ヶ所）	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 （高雄泊）	④育英医護管理専科学校 ⇒東方工商専科学校 ⇒交歓会（許國雄先生） ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎将軍廟（慰霊式） （台中泊）	⑧宝覚寺⇒ 日本人墓地（慰霊式） ⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑨交歓会（台湾中日海交協会） （台北泊）	
第3次訪問 38名 H.13.11.23~26 金~月 ガイド 陳 賜賢 神僧職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト （9ヶ所）	①故宮博物院 ②夜市 （高雄泊）	③東方工商専科学校 ⇒交歓会（許國雄先生） ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎将軍廟（神事） （台中泊）	⑦宝覚寺⇒日本人墓地（神事） ⇒霊安故郷碑 （慰霊祭／神事） ⑧交歓会（台湾中日海交協会） （台北泊）	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑（神事）
第4次訪問 38名 H.14.11.23~26 土~火 ガイド 呂 見涛 神僧職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト （12ヶ所）	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河⇒交歓会 （詹徳寛先生） ④夜市 （高雄泊）	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 ⇒交歓会（許文龍先生） ⑦飛虎将軍廟（神事） ⑧烏山頭ダム （台中泊）	⑨宝覚寺⇒日本人墓地（神事） ⇒霊安故郷碑 （慰霊祭／神事） ⑩交歓会（台湾中日海交協会） ⑪日月潭 （台中泊）	⑫芝山公園（慰霊式）
第5次訪問 23名 H.15.11.23~26 日~水 ガイド 呂 見涛 神僧職 堀川克巳 旅行社 近畿日本ツーリスト （9ヶ所）	①飛虎将軍廟 （神事） （台南泊）	②烏山頭ダム⇒八田與一・ 外代樹夫妻墓所（神事） ⇒八田與一記念館 ③奇美博物館 ⇒交歓会（許文龍先生） ④南栄技術学院 ⑤交歓会（何怡涵・陳清華 ご夫妻）　（台中泊）	⑥宝覚寺⇒日本人墓地（神事） ⇒霊安故郷碑 （慰霊祭／神事） ⑦九族文化村 ⑧交歓会（台湾中日海交協会） （台中泊）	⑨芝山公園（慰霊式）
第6次訪問 8名 H.16.11.23~26 火~金 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト （11ヶ所）	①日本人墓地 （慰霊式） ②寿山公園 ③夜市 （高雄泊）	④潮音寺（慰霊式） ⑤飛虎将軍廟（慰霊式） ⑥交歓会（台灣台日海交聯 誼會） （台中泊）	⑦宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式） ⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑧交歓会（台湾中日海交協会） ⑨交歓会（台中市日本文化協會） ⑩交歓会（王春茂・馮英鳳ご夫妻） （台中泊）	⑪明石元二郎総督墓所 （慰霊式）
第7次訪問 20名 H.17.11.23~26 水~土 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト （14ヶ所）	①保安堂（献花式） ②寿山公園 ③交歓会（何怡涵・ 陳清華ご夫妻） （台南泊）	④飛虎将軍廟 （慰霊式） ⑤奇美博物館 ⑥烏山頭ダム⇒ 八田與一・ 外代樹夫妻墓所 （慰霊式） ⑦交歓会 （台灣台日海交聯 誼會） （台中泊）	⑧宝覚寺⇒ 日本人墓地（慰霊式） ⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑨交歓会 （台湾中日海交協会） ⑩交歓会 （台中市日本文化協會） ⇒孔子廟⇒台中公園 ⑪交歓会 （沈芳以・呉月雲ご夫妻） ⑫夜市 （台中泊）	⑬明石元二郎総督墓所 （慰霊式） ⑭芝山公園（慰霊式）

※ ⇒について　①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊訪問の旅　訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第8次訪問 35名 H.18.11.23～26 木～日 ガイド　簡 添宗 神僧職　なし 旅行社　協進観光 （12ヶ所）	①保安堂（慰霊式） ②交歓会（何怡涵・陳清華ご夫妻） （台南泊）	③飛虎将軍廟（慰霊式） ④奇美博物館⇒交歓会（許文龍先生） ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒八田與一記念館 ⑥交歓会（台湾中日海交協会） （台中泊）	⑦宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑧交歓会（台灣台日海交會） ※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台湾文献館（調査） ⑩濟化宮（献花式） （台北泊）	⑪高砂義勇隊戦没英霊記念碑（慰霊式） ⑫講話（蔡焜燦先生）⇒交歓会（台日文化經濟協會）	
第9次訪問 25名 H.19.11.23～26 金～月 ガイド　簡 添宗 神僧職　なし 旅行社　協進観光 （14ヶ所）	①保安堂（慰霊式） ②奇美博物館⇒交歓会（許文龍先生） ③交歓会（何怡涵・陳清華ご夫妻） （台南泊）	④飛虎将軍廟（慰霊式） ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会（台灣台日海交會） ※台中市日本文化協會合流 （台中泊）	⑧宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑨交歓会（台湾中日海交協会） ⑩濟化宮（献花式） ⑪夜市 （台北泊）	⑫中華民國外交部 ⑬台北101ビル ⑭交歓会（台日文化經濟協會）	
第10次訪問 31名 H20.11.22～26 土～水 ガイド　簡 添宗 神僧職　なし 旅行社　ＪＴＢトラベル九州 （19ヶ所）	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑（慰霊式） ②芝山公園（慰霊式） （台北泊）	③保安堂（慰霊式） ④東方技術学院 ⑤奇美博物館⇒交歓会（許文龍先生） ⑥飛虎将軍廟（慰霊式） ⑦交歓会（何怡涵・陳清華ご夫妻） （台南泊）	⑧烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所（慰霊式）⇒八田與一記念館 ⑨鹽水國民小學⇒八角樓 ⑩交歓会（黄明山・葉美麗ご夫妻） ⑪貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑫富安宮 ⑬交歓会（台灣台日海交會） （台中泊）	⑭宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑮交歓会（台湾中日海交協会） ⑯濟化宮（献花式） ⑰夜市 （台北泊）	⑱中華民國外交部 ⑲交歓会（台日文化經濟協會）
第11次訪問 30名 H21.11.22～26 日～木 ガイド　簡 添宗 神僧職　なし 旅行社　JTBトラベル九州 （20ヶ所）	①保安堂（慰霊式） （墾丁泊）	②鵝鑾鼻公園 ③潮音寺（慰霊式） ④巴士海峡（献花式） ⑤奇美博物館⇒交歓会（許文龍先生） ⑥飛虎将軍廟（慰霊式） ⑦交歓会（黄明山・葉美麗ご夫妻） ⑧夜市 （高雄泊）	⑨烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑（献花式）⇒八田與一記念館 ⑩交歓会（何怡涵・陳清華ご夫妻） ⑪鹽水國民小學（歓迎式典）⇒八角樓 ⑫交歓会（黄崑虎先生） ⑬交歓会（台灣台日海交會） （台中泊）	⑭宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑮孔子廟 ⑯交歓会（台湾中日海交協会） ⑰濟化宮（慰霊式） （台北泊）	⑱高砂義勇隊戦没英霊記念碑（慰霊式） ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会（台日文化經濟協會）

※ ⇒について　①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊訪問の旅　訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第12次訪問 46名 H22.11.22～26 月～金 ガイド　簡 添宗 徐 永隆 神僧職　なし 旅行社　JTBトラベル九州 （19ヶ所）	①芝山公園（慰霊式） ②講話（蔡焜燦先生） （台北泊）	③烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一記念館 ④交歓会（何怡涵・陳清華ご夫妻） ⑤海尾朝皇宮（献花式）⇒飛虎将軍廟（慰霊式） ⑥保安堂（慰霊式） ⑦交歓会（黄明山・葉美麗ご夫妻） （高雄泊）	⑧鹽水國民小學（歓迎式典） ⑨交歓会（ラバウル会） ⑩宝覚寺(A班)、台中公園(B班) ⑪交歓会（台灣台日海交會） ⑫夜市 （台中泊）	⑬宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑭交歓会（台湾中日海交協会） ⑮勧化堂（献花式） ⑯濟化宮（献花式） （台北泊）	⑱高砂義勇隊戦没英霊記念碑（慰霊式） ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会（台日文化經濟協會）
第13次訪問45名 H23.11.22～26 火～土 ガイド　簡 添宗 呂 芳儀 神僧職　塩先晋照 旅行社　JTBトラベル九州 （17ヶ所）	①中華民國外交部 ②高砂義勇隊戦没英霊記念碑（慰霊式） ③交歓会（台日文化經濟協會） ④林森公園 （台北泊）	⑤飛虎将軍廟（慰霊式） ⑥奇美博物館⇒交歓会（許文龍先生） ⑦東龍宮（慰霊式） ⑧交歓会（黄明山・葉美麗ご夫妻） （高雄泊）	⑨保安堂（慰霊式） ⑩烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑（献花式）⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪台中市政府 ⑫交歓会（台灣台日海交會） （台中泊）	⑬宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑭交歓会（台湾中日海交協会） ⑮濟化宮（献花式） （台北泊）	⑯明石元二郎総督墓所（慰霊式） ⑰芝山公園（慰霊式）
第14次訪問38名 H24.11.22～26 木～月 ガイド　簡 添宗 曾 英明 神僧職　なし 旅行社　JTB九州 （20ヶ所）	①保安堂（慰霊式） ②交歓会（黄明山・葉美麗ご夫妻） （高雄泊）	③東龍宮（慰霊式） ④新化國民小學御眞影奉安殿 ⑤台南武德殿 ⑥飛虎将軍廟（慰霊式） ⑦台南市政府 （台南泊）	⑧鹽水國民小學（歓迎式）⇒八角樓 ⑨貞愛新王殿下登陸記念碑（献花式） ⑩富安宮（慰霊式） ⑪交歓会（台灣台日海交會） （台中泊）	⑫宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭） ⑬孔子廟 ⑭交歓会（台湾中日海交協会） ⑮濟化宮（献花式） ⑯交歓会（台日文化經濟協會） （台北泊）	⑰芝山公園（慰霊式） ⑱中華民國外交部 ⑲林森公園 ⑳交歓会（蔡焜燦先生・黄文雄先生）
第15次訪問32名 H25.11.22～26 金～火 ガイド　簡 添宗 謝 添基 神僧職　なし 旅行社　JTBトラベル九州 （16ヶ所）	①忠烈祠（献花式） ②中華民國外交部 ③林森公園 ④交歓会（黄文雄先生） （台北泊）	⑤二峰圳（地下ダム）⇒喜楽發發森林公園 ⑥東龍宮（慰霊式） ⑦保安堂（慰霊式） ⑧交歓会（黄明山・葉美麗ご夫妻） （高雄泊）	⑨海尾朝皇宮（献花式）⇒飛虎将軍廟（慰霊式） ⑩烏山頭⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所（慰霊式）⇒殉工碑（献花式）⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪歓迎会（台灣台日海交會） （台中泊）	⑫宝覚寺⇒日本人墓地（慰霊式）⇒霊安故郷碑（慰霊祭）⇒台中公園 ⑬交歓会（台湾中日海交協会） ⑭濟化宮（献花式） ⑮交歓会（台日文化經濟協會） （台北泊）	⑯高砂義勇隊戦没英霊記念碑（慰霊式）⇒酋長文化村

※ ⇒について　①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊訪問の旅　訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第16次訪問 48名 H26.11.22～26 土～水 ガイド　簡 添宗 呉 志仁　范 智凱 神僧職　なし 旅行社　近畿日本ツーリスト （18ヶ所）	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑（慰霊式）⇒酋長文化村 ②林森公園（献花式） ③交歓会（黄文雄先生） （台北泊）	④烏山頭ダム⇒八田與一記念館⇒殉工碑（献花式）⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式)⇒八田與一記念公園 ⑤東龍宮(慰霊式) ⑥交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) （高雄泊）	⑦保安堂(慰霊式) ⑧高雄市政府 ⑨飛虎将軍廟（慰霊式） ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台灣台日海交會) （台中泊）	⑫宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會) （台北泊）	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民國外交部
第17次訪問 32名 H27.11.22～26 日～木 ガイド　簡 添宗 鄭 清川 神僧職　なし 旅行社　近畿日本ツーリスト （17ヶ所）	①明石元二郎台湾総督墓所（慰霊式） ②交歓会（黄文雄先生） （台北泊）	③台湾無名戦士紀念碑（慰霊式） ④東龍宮(慰霊式) ⑤交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) （高雄泊）	⑥保安堂(慰霊式) ⑦高雄市政府 ⑧飛虎将軍廟（慰霊式）⇒海尾朝皇宮(参拝) ⑨奇美博物館 ⑩交歓会(台灣台日海交會) （台中泊）	⑪宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑫台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協会) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會) （台北泊）	⑯中華民國総統府 ⑰中華民國外交部
第18次訪問 50名 H28.11.22～26 火～土 ガイド　簡 添宗 鄭 清川 神僧職　なし 旅行社　近畿日本ツーリスト （17ヶ所）	①海明禅寺・富田直亮将軍墓所（慰霊式） ②中華民國外交部 ③交歓会（黄文雄先生） （台北泊）	④昭和天皇(裕仁皇太子)御手植え榕樹⇒原臺歩兵第2連隊本部、兵舎跡⇒衛戍病院跡 ⑤海尾朝皇宮(参拝)⇒飛虎将軍廟（慰霊式） ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) （高雄泊）	⑧保安堂(慰霊式) ⑨烏山頭ダム⇒八田與一記念館⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式)⇒八田與一記念公園 ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台灣台日海交會) （台中泊）	⑫宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑬台中国家歌劇院 ⑭交歓会(王春茂・憑英鳳ご夫妻) ⑮濟化宮(献花式) （台北泊）	⑯芝山公園(慰霊式) ⑰中華民國総統府⇒二二八記念公園
第19次訪問 62名 H29.11.22～26 水～日 ガイド　簡 添宗 瞿 紹成 張 祐銘 陳 偉博 神僧職　なし 旅行社　新亜旅行社（アイティオージャパン） （17ヶ所）	①海明禅寺・富田直亮将軍墓所（慰霊式） ②交歓会（台湾日本関係協会） （台北泊）	③富安宮(慰霊式) ④八角樓⇒鹽水國民小學(歓迎式) ⑤飛虎将軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) （高雄泊）	⑧鵝鑾鼻岬(献花式)⇒鵝鑾鼻公園 ⑨潮音寺(慰霊式) ⑩東龍宮(慰霊式) ⑪交歓会(訪問団) （台中泊）	②宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑫孔子廟 ⑬交歓会(台灣台日海交會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(黄文雄先生) （台北泊）	⑯芝山公園(慰霊式) ⑰交歓会(台日文化經濟協會)

※ ⇒について　①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊訪問の旅　訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第20次(H.30)72名 H30.11.22～26 木～月 ガイド　簡 添宗 張 顕栄 鄭 清川 荘 智隆 神僧職　なし 旅行社　新亜旅行社 (アイティオージャパン) (17ヶ所)	①忠烈祠(献花式) ②交歓会(台湾日本関係協会) (台北泊)	③奇美博物館 ④安平古堡 ⑤海尾朝皇宮(参拝)⇒飛虎将軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(蓬38號艦英霊返郷團) (高雄泊)	⑧先鋒祠(献花式) ⑨東龍宮(慰霊式) ⑩古蹟後壁黄家 ⑪交歓会(台日友好協會) (台中泊)	⑫宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑬交歓会(台灣台日海交會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(黄文雄先生) (台北泊)	⑯西郷庁憲徳政碑(献花式) ⑰交歓会(台日文化經濟協會)

※ ⇒について　①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

◆ご協力ありがとうございました◆

《特別協賛　協賛》

台北駐福岡經濟文化辦事處　九栄会　山口県日台交流協会　関家具　中部鋼材　エース・コーポレーション　浜崎理想瓦製造所　台湾新亜旅行社　中部自動車整備工場　九州不動産専門学院グループ

美祢市観光商工部　ＨＡＳ　国際不動産鑑定所　悠悠　大道印刷　栄電舎　柳原皮膚科クリニック　中野建築事務所

《広告協賛》

松俵建設　光志興産　ハイ・グッド引越センター　ホリスコーポレーション　PiPaRa-ピパラ　ジャスト・イン・タイム　メガパワージャパン　堀内恭彦法律事務所

《個人協力》

永濱　浩之	大山　猛	宮原　泉	田口　俊哉	原田　種雄	木下　修	田口　雅章	高橋　幸久
田渕　俊治	矢野幸次郎	山本　駿一	冨田　昇一	稲員　稔夫	小串　善行	江角きくえ	戸川　恭彦
小林　正子	高山由紀子	林田千代子	湯下　雅俊	奥　貴之	柴﨑　一郎	中村　裕子	深水　良洋
真栄田　強	藤川　将之	西川とも忞	久保山一雄	篠原　隆	塩山　敏彦	新開　崇司	小玉　敬吾
兵動　和郎	角　洋一郎	倉田　光男	石塚　俊雄	久米　哲次	秦　友喜	石嶋　浩	森岡　寛治
井口　保二	佐竹　秀三	津田　建一	山口　敏昭	井元　智子	坂本文比古	林　俊郎	石川　哲也
原田　泰宏	青木　繁政	山崎　嘉明	中山　茂	武田真理子	佐々木朗子	中村　邦明	安倍　輝彦
岩元　照周	森　敬惠	田中　孝雄	上野　和彦	滝井　芳子	平野　壽	横山　修二	松永達始郎
高田　訓	吉田　重治	渕　幸代	山口　幸一	井浦　真二	森田　哲也	江崎　輝信	福田　昺明
西田　勝士	野田　稔	濱田　秀逸	堀ノ江善仁	内山　敬子	他匿名3名		

（順不同・敬称略）

●ご協力ありがとうございます。

㈲ハイ・グッド引越センター
☎(092)629-0700
〒813-0062 福岡市東区松島6-14-12

㈱ホリスコーポレーション
代表 堀　純生
☎(092)874-1994
〒814-0161 福岡市早良区飯倉4-20-40-105

㈲PiPaRa -ピパラ-
代表取締役 森　眞一
☎(090)8668-6782
〒816-0855 春日市天神山4-27

㈱ジャスト・イン・タイム
代表取締役 麻生　法晴
☎(092)737-0703
〒810-0022 福岡市中央区薬院2-3-10-203

㈱メガパワージャパン
代表取締役 鶴岡　邦彦
☎(0834)64-7255
〒746-0016 周南市中央町2-3

堀内恭彦法律事務所
弁護士 堀内　恭彦
☎(092)751-7355
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-13-10-8階

第20次 台湾慰霊訪問の旅　帰朝報告

期間　平成30年11月22日(木)～26日(月)　　参加者　72名

■11月22日(木)

陳忠正處長のお見送りと戎義俊前處長のお出迎え

今次訪問団員72名のうち、22日福岡出発の53名は、午前8時に福岡空港国際線出発ロビーに集合し、荷物を預けた後、特別待合室で出発式を行いました。台北駐福岡經濟文化辦事處の陳忠正處長ならびに洪臨球総務部長がわざわざお見送りに来て下さいました。慰霊訪問の旅の20年の歴史の中で初めてのことでした。

早速、陳處長にご挨拶をいただき、続いて小菅団長より訪問の目的、意義、体制の説明があり、原田泰宏、田中道夫両団長代行に団旗が交付されました。その後、久保直子添乗員からの諸注意事項等の説明を受け、陳忠正處長、洪臨球総務部長を交えて記念写真を撮影して出発式を終え、出国手続きを済ませ、チャイナエアライン111便に搭乗しました。天候の関係で約30分遅れで離陸した飛行機は、気流の関係で途中激しい揺れに見舞われましたが、12時50分に無事桃園国際空港に着陸しました。

入国手続きを済ませ、到着ロビーに出ると、台北駐福岡經濟文化辦事處の前處長の戎義俊氏をはじめ、新亜旅行社の張政美社長、ガイドの簡添宗さんや現地合流組の6名の団員の皆さんが温かく出迎えて下さいました。初日と最終日の同行を申し出て下さった戎前處長もご一緒に早速、2台の専用バスで最初の訪問先である台北の國民革命忠烈祠へと向かいました。

忠烈祠で国賓級の献花式を斎行

中華民國の戦死者33万の将兵が祀られている忠烈祠に着くと、奥にある大殿の献花式場へと案内されました。国賓級の人しか参列できない場所で、小菅団長が中華民國の所作に従い花環を捧げ、追悼の誠を捧げました。凛とした空気の張り詰める中、荘厳な雰囲気のもとで行われた献花式は実に感動的なものでした。献花式の後、國民革命忠烈祠の管理組組長の張家揚氏の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、大殿前で記念写真を撮り、丁度始まった衛兵の交代式を間近で見学させていただきました。

忠烈祠の衛兵交代式は多くの観光客の目玉ですが、衛兵が立つ意味などの説明を直接国軍関係者から伺い、団員の皆様にも貴重な経験となったことと思います。

「鶴亀」と「屋島」の仕舞を披露

一旦ホテルに寄って荷物を降ろした後、四国からの3名の団員と合流し、台湾日本関係協会主催の歓迎夕食会に臨みました。会場は昨年と同じ、上海郷村宴会館で、儀仗の甲飛喇叭隊第11分隊の原知崇隊長以下3名の皆さんも同席されました。同協会の謝柏輝副秘書長の歓迎の祝意、小菅団長の答礼の辞と続いた所で、主催者代表の張淑玲秘書長がお見えになりました。丁度、同時刻に札幌親善協会の夕食会と重なっていて、その合間を縫って駆けつけて下さったのです。張淑玲秘書長の流暢な日本語での挨拶、ユーモア溢れるお話の後、久野貴子班長による「鶴亀」のお謡と仕舞、原田泰宏団長代行が「屋島」の仕舞を披露され、開宴となりました。テーブルには団員各自のネームプレートが置かれ、美味しい料理の他に外交部（外務省）特注のワインも用意されていて、改めて関係協会のご配慮に感じ入りました。和やかな雰囲気での懇親交流の後、宿泊先の三徳大飯店に戻り、初日の旅の疲れを癒しました。

■11月23日(金)

新しい奇美博物館を見学

ホテルで少し早めの朝食を摂った後、8時21分台北発の台湾高速鉄道(新幹線)で台南まで南下しました。台南駅で専用バスに乗り換え、この日の最初の訪問先である奇美博物館を訪れました。新しくなった奇美博物館を訪れるのは2回目ですが、前回は休館日と重なり、郭玲玲副館長の計らいで特別に楽器類を見せていただきましたが、本格的な見学は今回が初めてでした。

広大な敷地のギリシャ神話の大噴水を過ぎ、オリンポスの神々の彫刻の施された橋を渡るとギリシャ様式の白亜の宮殿のような博物館に至ります。館内に入ると既に郭副館長が待っておられ、一行を歓迎して下さいました。彫刻や動物の剥製、銃剣類や鎧兜、絵画、楽器などをじっくり鑑賞し、時間が経つのを忘れるほど多数の芸術作品に触れ、感動しました。館内にあるレストランで昼食を戴き、博物館を後にしました。

次に向かったのは安平古堡（ゼーランジャ城）です。台湾の歴史の原点とも言えるところで、オランダ人が17世紀に植民地支配の拠点として築いた台湾で一番古い城砦で、オランダの栄光時代の最後の象徴なのです。現在は修復もよく行き届き、望楼も空港の管制塔のようです。中庭には日本とも関係の深い、台湾の祖といわれる鄭成功の像が建ち、赤レンガの城壁は半ば剥げ落ち、熱帯植物がからまり、太い根の束を城壁にそって垂らし、見事な古跡と言っていいものでした。庭には当時の大砲が並べられ、鄭成功の時代の台湾に思いを馳せながら次の訪問先、海尾朝皇宮へと向かいました。

海尾朝皇宮へ着くと班別に整列し、御祭神である保生大帝に黙祷を捧げ、横尾秋洋顧問による献花、挨拶に続き小菅団長の補足説明で献花式を執り収めました。

飛虎将軍聖誕祭のお祭りに遭遇

献花式を終えた一行は、末社に当たる飛虎将軍廟へと向かいました。丁度、この日は飛虎将軍の聖誕祭のお祭りの日ということもあり、堂庭に張られた天幕には多数の供物が並べられていました。廟の前の道路には数台の車が並べられ、飛虎将軍の物語が人形劇で演じられていました。廟周辺は多くの地元の方々で大賑わいでした。このお祭りの日にお詣りするのは今回が初めてです。

早速、整列し、国旗敬礼、国歌斉唱に続いて小菅団長が祭文を奏上し、全員で杉浦茂峰少尉の御霊の平安を祈念して黙祷しました。その後、小菅団長の献花、挨拶に続いて、儀仗の原隊長が軍隊式儀仗ラッパを奏上、最後に飛虎将軍廟の郭秋燕さんの挨拶で慰霊式を執り収めました。郭さんの勧めで

煙草を献上し、杉浦少尉も満足された様でした。祭りの賑わいの中、多くの地元の皆さんに見送られてバスは廟を後にし、次の訪問先、高雄の保安堂へ向かいました。

保安堂前庭での最大規模の歓迎夕食会

保安堂でも多くの地元の皆さんが待っておられました。到着すると早速、慰霊式を斎行しました。国旗敬礼、国歌斉唱、小菅団長の祝詞奏上、黙祷に続き、保安堂とのご縁の深い松俵義博常任顧問の義弟の倉田光男班長が献花され、松俵顧問の意を汲んで挨拶され無事代理を務められました。また儀仗のラッパが奏上され、慰霊の誠を尽くしました。

平成25年の第15次台湾慰霊訪問の旅で、私たちは「38にっぽんぐんかん」の特定を依頼されました。そのため慰霊団では各方面に働きかけ、調査しましたが特定するまでには至りませんでした。しかし、有力情報として「38にっぽんぐんかん」は「第38号哨戒艇“蓬(よもぎ)”」で艦長、高田又男予備大尉以下145名ではないかというところまで辿り着き、翌年の第16次訪問の折、資料を添えて報告した次第でした。

その後、保安堂関係者による調査の結果、「第38号哨戒艇“蓬(よもぎ)”」の艦長、高田又男予備大尉以下145名の乗組員の名前が判明し、今年、保安堂建廟70余年を記念して海上招霊法会が実施されました。慰霊団も御神体「38にっぽんぐんかん」の縁起に大きく寄与することとなりました。

そのことも含め、慰霊式の後、初めて保安堂の前庭にて大規模な歓迎夕食会が開催されました。満月の下、前庭には20卓を越えるテーブルが所狭しと並べられ、各テーブルには地元の皆さんが数名づつ配されていました。主任委員の張吉雄氏が歓迎の挨拶をされ、小菅団長の答礼の挨拶の後、歓迎会はスタートしましたが、145名の名前の入った提灯、各人の名前の染め抜かれた幟旗がはためき、英霊を交えての大歓迎会となりました。美味しい手料理が次々と運ばれ、地元の沢山の皆さんと楽しく飲食、歓談し、時を忘れてのひと時でした。

明日の行程もありお暇乞いをし、堂の前で全員で記念撮影をし、宿泊先の華王大飯店へ帰りました。ホテルへ着くと、昨年までの保安堂の主任者であった趙麗恵さん達が待っておられ、一年振りの再会をロビーで喜び合いました。

■11月24日(土)

龍安寺「先鋒祠」を始めて訪問

3日目は朝食後、屏東の東龍宮へ向かいました。道路が混んでいなかったため、予定より1時間早く着きましたが、丁度この日は台湾の統一地方選挙の投票日で、東龍宮の皆さんが投票からまだ戻っておられず、近くにある龍安寺を訪れることにしました。

本堂の脇に「先鋒祠」があり、樋口勝見上等機関兵曹が祀られています。実はここは行程には組み込まれてはいませんでした。と、いうのも樋口兵曹は生前は台湾とご縁のない海軍軍人なのです。では、なぜ台湾の人は彼のために祠やご神体を造り、神として崇めているのでしょうか。

実は、樋口兵曹は昭和19年10月25日、レイテ沖海戦で散華した帝國海軍将兵でした。時が移り、昭和58年12月に遺族たちによってレイテ沖海戦の洋上慰霊祭が行われました。そこで海に投下された位牌が、2年弱の歳月を経て龍安寺のある枋寮に流れ着いたのです。その位牌を祀っているのが「先鋒祠」です。

ここで国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷を捧げて樋口兵曹の御霊の平安を祈念して手を合わせ回向しました。丁度、祠に居られた祠守の張さんから位牌発見当時のお話などを伺い、本堂の休憩室で甘味のご接待等を受け、お寺を後にしました。

東龍宮に着くと、お宮の皆さんが温かく出迎えて下さいました。早速慰霊式を斎行し、国旗敬礼、国歌斉唱に続いて小菅団長が祭文を奏上し、黙祷の後、大山副団長が献花、挨拶をし、儀仗のラッパで田中将軍の御霊をお慰めしました。最後に堂主の石羅界さんにご挨拶をいただき慰霊式を執り収めました。拝庭から見た日の丸、旭日旗、台湾の青天白日満地紅旗は、抜けるような青空に一際輝いていました。その後、石羅界様等と近くのレストランで海鮮料理の昼食に舌鼓を打ちました。

黄崑虎先生のご自宅
古蹟後壁黄家を訪問

昼食を終えた一行は、一路台南市の後壁にある古蹟後壁黄家を訪れました。この住宅は総統府国策顧問を務められた黄崑虎先生のご自宅です。諸外国の要人も訪れるという大変由緒ある建物です。大正15年(1926)に建てられ、福建様式の中庭(四合院)を持つ台湾で現存する数少ない住宅のひとつで、平成20年(2008)に台湾の文化資産として古蹟に指定されています。

当主の黄崑虎先生が一行を温かく出迎えて、住宅内部を案内して下さり、よどみない綺麗な日本語で丁寧に説明して下さいました。柱には家訓が掲げられ歴代当主の写真も飾られていました。

慰霊団では平成21年の第11次の折に訪問して以来、2度目の訪問でした。初めての訪問以来、黄文雄先生主催の歓迎夕食会で何度もご一緒させていただき、都度お誘いを受けていましたが、第20次という節目に当たる今回、ようやく再訪問することが出来ました。体調があまりすぐれないにも拘らず、快く訪問を受け入れて下さったのは、日本に強い愛着を抱いておられるからだろうと確信しました。

その後、台中での台日友好協会主催の歓迎夕食会へ向かいました。

会場に着くと、何月桂会長以下会員の皆さんが拍手で迎えて下さり、二泊三日のBプランの7名の団員とも無事に合流ました。台日友好協会は女性中心の会員とその家族で、以前の胡順來氏の中日海交協会の時とは異なる雰囲気でした。何会長の歓迎の辞で開会し、会食は和やかに進みました。何会長は体調不良の中、無理を押しての参加で申し訳なく、早く快復され元気な姿を取り戻して欲しいと願わずにおれませんでした。会の皆さんと別れた後、宿泊先の全国大飯店に戻って深い眠りに就きました。

■11月25日(日)

慰霊祭存続の危機
継承が喫緊の課題

慰霊訪問の旅の最大の目的である台湾台日海交会主催の「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列するため、ホテルを出発して宝覚寺へ向かいました。到着すると、先ず境内の一角にある「日本人遺骨安置所(日本人墓地)」で慰霊式を執り行いました。墓前に整列し、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷に続き、横尾秋洋顧問が献花、挨拶をされ、その後、兵庫県から参

加の真言宗僧侶、槙尾亮順氏の読経が流れる中、団員全員が線香をたむけ、回向しました。慰霊式を見守っておられた日本人観光客の方々にお声を掛けると、多くの皆さんが一緒に献香して下さり、同じ日本人としてこの日本人墓地の存在を知って戴き、台湾の地で亡くなられた多くの先達のことを心に留め置いていただければと思いました。日本人墓地での慰霊式を終え、霊安故郷碑前の慰霊祭の席に着くと、訪問団員の数に比して、ご遺族、戦友会の皆様の少なさを昨年以上に感じました。次世代への慰霊祭の継承は喫緊の課題であり、日台双方で実践していかないと先細りし、衰退の運命をたどりかねません。

慰霊祭は、儀仗のラッパで開始され、日台両国の国旗掲揚、国歌斉唱、軍艦旗掲揚、主催者を代表して台湾台日海交会の周良仁会長の挨拶と続きました。周会長が挨拶で「台湾でのこの祭礼を、日本に帰られたら一人でも多くの日本人に伝えて欲しい。そして皆さん後を頼む!」と涙ながらに、私たち慰霊訪問団に何度も訴えられた背景には、この現実があり、嘆きの声に胸を抉られる思いでした。

その後、献香、献花、献菓と進み、小菅団長の祭文奏上が行なわれました。最後は全員による「海ゆかば」の合唱で締めくくられましたが、万感胸に迫るものがありました。台湾の皆さんと一緒に記念写真を撮り、境内を散策し、台湾台日海交会主催の歓迎昼食会に臨みました。

会場に着くと、既に台湾の皆さんが待っておられ、熱い拍手で迎え入れられました。台湾の皆さんの熱烈な歓迎振りは何年経ってもいささかも変わりません。周会長の主催者挨拶、小菅団長の答礼の挨拶で開宴となり、各テーブルで話が盛り上がりました。1年振りの再会の方々も多く、旧交を温める姿があちこちで見られました。団員の石橋三之助氏によるお謡い「高砂」の披露、甲飛喇叭隊による軍隊式ラッパの説明など、あっという間に時間は過ぎて行きました。宴たけなわの中、周会長が挨拶に立たれましたが、本当に名残惜しくて仕方ないご様子で、声を詰まらせておられたのが強く心に残りました。1年後の再会を固く約し、後ろ髪を引かれる思いで会場を後にしました。

慰霊団の到着を待っておられた
94歳の蕭鸞飛さん

台中を発って2時間ほどで次の訪問先である濟化宮に到着しました。あいにくの小雨まじりでしたが、いつもの様に謝鏡清董事長とお宮の皆さんが笑顔で出迎えて下さいました。本殿で謝董事長の説明を伺った後、小菅団長が祝詞を奏上し、全員で二礼二拍手一拝でお参りし、班長を代表して第四班の湯下雅俊班長が献花、挨拶をして献花式を終えました。献花式後、靖國神社から分祀された4万余柱の霊璽を拝見させて戴き、ご英霊に追悼の誠を捧げました。

献花式を終えた小菅団長に声を掛ける一人の老人がいました。94歳になられる蕭鸞飛さんでした。どういう経緯で慰霊団がこの日のこの時間に濟化宮を訪れることを知ったのか判りませんが、毎年英霊の慰霊に訪れる団長に一目会いたいと30代のお孫さんと待っておられたそうです。団員の皆さんへと、手作りの資料を携えていました。

社務所の前で、いつもの美味しいお餅とお茶をいただき、山門で記念写真を撮った後、バスで新竹駅へ向かいました。新竹駅で新幹線に乗り換え、台北駅に到着後、黄文雄先生主催の歓迎夕食会の会場「紫都」を目指しました。

慰霊訪問事業の最強の
支援者黄文雄先生

会場に着くと、黄先生をはじめ、この日のために海外や台湾各地から馳せ参じられた各界を代表する方々が待っておられました。第15次訪問以来、毎年このような場を設けて一行を歓迎して下さる黄先生のご配慮に感謝すると同時に先生のご人脈の広さに改めて敬服しました。黄先生の歓迎の辞に続いて、元駐日經濟文化代表處代表の羅福全氏が挨拶され、小菅団長の答礼の辞の後開宴となりました。病気療養中と伺っていた台日文化經濟協会の名誉会長黄天麟氏のお姿もあり、少し安心しました。

前日の統一地方選で民進党が議席を大幅に減らしたにも拘わらず、それを跳ね返すようなパワーで大いに盛り上がりました。歓談が一息ついたところでお開きとなり、この日の宿泊先である三徳大飯店に帰り、旅の疲れを癒しました。

■11月26日(月)

西郷隆盛の子・菊次郎の
「郡守徳政碑」

最終日であるこの日は、戎義俊前處長から是非と勧められた宜蘭にある西郷庁憲徳政碑を初めて訪れました。バスの中で戎義俊前處長から詳しい説明があり、西郷菊次郎の善政や功績を直接聞くことができました。碑は宜蘭河の堤防に建っており、きちんと整備され、碑の前で黙祷と献花を行い、簡単な献花式を執り行いました。高橋幸久統制による献花、挨拶に続いて戎前處長も挨拶され、西郷菊次郎の偉業を偲びました。明治維新150年に相応しい訪問であったと思います。

碑を後にした一行は台北市内に戻り、ショッピングを楽しんだ後、台日文化經濟協会主催の歓迎昼食会に臨みました。

更に親密さを深めた
台日文化經濟協会

黄天麟会長から杜恆誼新会長に替わり、初めての歓迎会でした。杜会長が諸用のため、代理として周福南副会長が接待して下さいました。鄭祺耀名誉会長はじめ数名の理事の皆さんも同席され、美味しい海鮮料理をいただきながら親交を深めました。月曜日でお忙しいにもかかわらず、幹部の皆様には従来にも増して歓迎していただいたことに感謝すると共に、今後益々友好関係を強くしてゆかねばと改めて思いました。

協会の皆さんと別れた一行は、桃園国際空港へと向い、空港で搭乗手続きを済ませ、沖縄組の団員、お見送りの戎前處長ならびに5日間お世話になったガイドの簡添宗さん等に厚く御礼を述べ、来年の再会を約して出発ゲートへと向かいました。

桃園国際空港を離陸したチャイナエアライン116便は19時35分に無事福岡空港に着陸しました。入国手続きを済ませ、空港ロビーで簡単に解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなし、そしてわざわざお出迎えに来て下さった陳忠正處長に感謝しました。

沢山の想い出、お土産を手にして1月の帰朝報告会・新年会での再会を楽しみにして家路につきました。

（文責　原田和典）

第20次 台湾慰霊訪問の旅　紀行文集（抄）

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員の順とした。

「学習資料」により知識を深めた

顧問　横尾（よこお）　秋洋（あきひろ）氏

私にとって新しい訪問先は「安平古堡」と「古跡後壁黄家」の2か所でした。「安平古堡」はオランダと台湾との歴史であり、「鄭成功」は著名ですから名前は知っていたものの詳細については知りませんでした。「古跡後壁黄家」についての知識は皆無でした。オーナーの黄崑虎氏のお話を聞いているうちに一度お会いしたように感じたので帰国して名刺を繰っていたら平成28年11月22日に「黄文雄先生主催の晩餐会」で名刺交換していました。肩書きは「台灣之友會 總會長 黄崑虎」となっていました。2年ぶりの再会だったのです。

さて、訪問団の目的の宝覚禅寺境内の「日本人遺骨安置所」の慰霊式が、一般の日本人観光客が見守る中で厳粛に行なわれました。そして「霊安故郷」慰霊碑前での慰霊祭、小菅団長の祭文奏上と続き、慰霊訪問団の目的が果たされました。その後、台北へ戻り、「黄文雄先生主催の歓迎夕食会」です。尊敬する羅福全先生（元駐日大使）、台日文化經濟協會名誉會長の黄天麟先生等々、台湾の著名な方々との夕食会、あっという間の楽しいひと時でした。

最後に感謝しなければならないのは、陳忠正台北駐福岡經濟文化辦事處處長のお見送りとお迎え、台湾での戎義俊前處長のお迎えとお見送りです。

台湾慰霊訪問団が誕生して20歳（はたち）になりました

団長代行　田中（たなか）　道夫（みちお）氏

台湾慰霊訪問団が結成され、今年で第20次になります。私は第3次訪問から参加していますが、人間で謂えば3歳の時から20歳になり、成人しました。長かったような、短かったような一つの歴史です。日本人として散華された英霊たちは、今の日本を見てどう思われているのでしょうか。大東亜という日本の理想は、植民地にされたアジアの多くの国々を救うことが出来たのかも知れませんが、現在多くの日本人が日本人としての誇りを失ったと見えているかも知れません。たった一つの命を捧げ、亡くなった英霊に申し訳ない気持ちです。

11月25日に宝覚寺において慰霊祭が行われました。式の終わりに、当時19歳で現在93歳になる元従軍看護婦の陳恵美さんが想いを話して下さいました。青春時代を日本軍と共に戦地で戦い、終戦になり台湾に引き揚げになったことを涙で話された言葉の中には、恨みなどは全く感じませんでした。一生懸命生きてこられたのでしょう。涙したのは私一人だけではなかったと思います。訪問の時は、いつもお会いしていた4名の元従軍看護婦の方々がおられましたが今年は来られていません。皆さんご高齢になられました。お元気で過ごされることを祈るばかりです。

小菅団長を支える支柱として慰霊訪問団を継続する決意

団長代行　原田（はらだ）　泰宏（やすひろ）氏

さて、20回目の参加者は過去最大の79名になりました。これだけの人数ですと移動そのものに時間が掛かり、予定通りの訪問が出来ないのではないかとの懸念を持ちましたが、今まで以上に団員の方が自発的に他の団員の方を誘導するなど、団の運営に当事者として係った方が多く見られました。団として、より団結力が強くなってきたのではないかと思います。慰霊訪問団の活動はご先祖様に対して、孫子に対して誇ることが出来ることであり、外国に対してもその正当性を主張できるものです。もっと多くの日本人に知ってもらいたい、賛同を得たいものです。

旅の栞には、「台湾防衛は台湾人英霊との約束」「世界一の道義国家・日本の再建」が掲げられています。第20次の慰霊訪問団に参加して、小菅団長を支える支柱となり、慰霊訪問団を継続し、台湾防衛と日本の再建の実現に向けて尽力する、との決意をより強く持ちました。

毎回忘れがたい感動と思い出がある

副団長　富原（とみはら）　浩（ひろし）氏

今回の第20次台湾慰霊訪問の旅で

●ご協力ありがとうございます。

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長　陳　忠　正

☎(092)734-2810

〒810－0024　福岡市中央区桜坂3-12-42

美祢市観光商工部

☎(0837)52-1532

〒059-2292

山口県美祢市大嶺町東分326-1

も幾つもの心に残る場面がありました。

紙面の都合もあり、1つだけ書きます。日本軍艦を祀ってある高雄の保安堂を訪問した時です。例年のごとく、私たちが到着すると同時にたくさんの爆竹や花火で歓迎してくれました。ポールには大きな日章旗が掲げられ、風に勢いよくはためいていました。お堂の周囲には軍艦旗が幾つも並び、韓国の軍艦旗拒否のことがあるだけに、何たる違いかと思いました。

堂内での慰霊式は小菅団長の祭文奏上で終わり、お堂の前の広場では歓迎夕食会が準備されていました。円卓のテーブルが20卓ほど準備され70数名の団員を地元の人たちが歓迎して下さいました。それぞれのテーブルに地元の方々が入り、慣れない言葉で御馳走をいただきながらの交流でした。

4泊5日の慰霊の旅は、日本と関わりのある史蹟やお寺、お堂を回り、昼食会や夕食会では地元の方々や財界、政界、政府の関係者などとの交流があり、「日台の魂の交流」というに相応しい旅でした。いつも台湾慰霊訪問の旅に参加して感じることは、台湾の方々の日本への熱い思いです。もはや兄弟、家族のような関係だと思います。

慰霊訪問の旅は命ある限り続けなければなりません

新団長　田口（たぐち）　俊哉（としや）氏

台湾は、明治から終戦までは日本の一部であり、皆が日本語を話していました。本土と同じ教育が行なわれていました。正真正銘の日本だったのです。その当時の台湾の人は、当然ながら台湾で生まれて、台湾で育ちましたが、心の中は、日本精神を備えた立派な日本人でした。

言わずもがな、わが国は大東亜戦争で敗戦し、連合軍の統治下に置かれ、国内の情勢は一変してしまいました。敗戦のショックに絶望した国民に占領軍から差延べられた「戦いのない平和」は、日本精神を少しづつ蝕んでいきました。有能な指導者たちは、次々と消され、公職を追われ、或いは金で魂を占領軍に売り渡しました。国を守るため、領土を守るため、国民を、家族を守るため、命を賭して戦場に散華された英霊は、この惨状を見てどう思うでしょうか。

そして同様、台湾人もこの戦いで、自らを皇軍と自負し、軍隊に志願し、大日本帝國軍人として約3万3千余の若者が戦地に散りました。日本人として命を賭したのです。その心の内は如何ばかりかと、空しい限りです。戦後、台湾と日本は国交が絶たれ、離ればなれになり、現在もなお国交はありません。しかしながら、国交が有ろうと無かろうと関係はありません。この慰霊訪問の旅は、命ある限り続けなければなりません。

百聞は一見にしかず

統制／副団長　大山（おおやま）　猛（たけし）氏

今回最も感動したのは2日目の夜、高雄市郊外にある保安堂での歓迎夕食会である。保安堂の御神体は2メートルにもなる「38にっぽんぐんかん」と云う軍艦模型である。第15次訪問の折、艦の特定を依頼された訪問団の調査により、「駆逐艦“蓬”」と判明した。そしてこの度、艦長高田又男予備大尉以下、144名の乗組員の名前が判明。今年は、乗組員お一人お一人の名前の入った提灯145個、幟旗145本が掲げられてあった。その中で、地元の方々、約百名との交歓夕食会が開催された。若い人も年長者も、男も女も皆で手作り料理の大御馳走。空は晴れ渡り、満月の下で繰り広げられた。

感動をもう一つ。台湾南部の屏東縣枋寮に流れ着いた日本人の位牌を祀っている龍安寺「先鋒祠」がある。昭和58年、レイテ沖海戦(昭和19年)で散華された英霊の洋上慰霊祭が同海域で行われた。その時、海に投げ込まれた花束、酒、位牌。その位牌の一つが、昭和60年、枋寮の地に流れ着いた。それを地元の人にお祀りして戴いているのだ。そのような話は、台湾では各地にあり、行く処々、何処にでもそんな感動的秘話が連続する。

台湾と英霊

統制　高橋（たかはし）　幸久（ゆきひさ）氏

行程の全てが感動の連続ですが、元軍人の方と日本語で話すことは最も感動的なことの一つです。25日の濟化宮では、蕭鸞飛(しゅうらんひ)さんという方がお孫さんと思われる方と、我々訪問団がこの日時にこの地に来るのを待っていて下さいました。日本人と全く変わらない日本語で、日本名はカワタムツオ、第1次陸軍特別志願兵制度により日本軍人となり、バリ島で戦ったことを話されました。今回初めて訪問団と面会したそうです。蕭さんが73年間この時を待っていたのかと思うと、込み上げるものがあります。

日清戦争の後、明治28年(1895)から日本国となった台湾は、昭和20年(1945)8月の日本敗戦により、中華民国に接収されました。その後、日華平和条約が昭和27年(1952)に締結され、中華民国(台湾)と日本は国交を結びま

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり　まちをつくり　くにをつくる
九州不動産専門学院グループ
代表　小菅 亥三郎
☎(092)714-4131
〒810－0001　福岡市中央区天神1-3-38

台日友好協會
会長 何 月桂
☎(04)2225-0177
〒403-0042
台中市西區法院前街8之1號

したが、昭和47年(1972)に破棄されたので、現在、日本と台湾の国交は断絶しています。しかしながら、台湾人は50年間日本人と同じ教育を受け、日本精神を共有しており、大東亜戦争で散華された共通の英霊の存在のお蔭で、日本と正式な国交が無くても誠心のこもった交流を続けています。世界情勢が混沌とする中、こんな誠心があるかぎり日本と台湾は同胞、戦友であり続けることが出来ます。この旅では多くの学びがありますが、英霊が領土を守るために戦い、多くの犠牲の上に、今の日本国があることを忘れてはいけません。

数々の節目の年に参加できて感謝

第１班 班長　榊原（さかきばら）　みどり 氏

鹿児島では今年、明治維新150年の節目、そして岩川でも戊辰戦争150年の節目、台湾慰霊訪問団は、20回目の節目。また台湾では4年に一度の選挙の節目という大切な年に参加でき、台湾の高齢になられた方々とも心の絆が深まりました。今年は新しい訪問先もあり、鹿児島出身の西郷庁憲徳政碑に献花することが出来、本当に感動致しました。宜蘭川の氾濫により堤防を築き、市民の生命と財産を守った偉人の足跡を辿ることが出来ました。英霊を顕彰する、そして共に一緒に戦い、祖国に帰れなかった英霊に、追悼と感謝の誠を捧げるために参加できたことに感謝です。

車内での小菅団長の話の中で、日本の領土が外国人の手により買占められていることを知り本当に残念です。法律を早急に作り、日本の領土はしっかりと自分達の手で守ることが歴史を継続することだと思います。

胸をえぐられた 周良仁会長の「皆さん後を頼む!」のひとこと

第２班 班長　柴崎（しばさき）　一郎（いちろう） 氏

台湾で一番頭が下がりましたのは、各地の至る所で戦前の日本の事績や祭神、史跡等を、大切に守り続けて下さっていた事です。

そして最も憂いを感じましたのは、同国の北京語教育の趨勢で台湾語を使う世代が減少し、日本語世代の高齢化と共に、戦前の日本精神の継承が世代的に困難な時代になったことです。台中・宝覚寺で原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭を主催された台湾台日海交会の周良仁会長が「台湾でのこの祭礼を、日本に帰られたら一人でも多くの日本人に伝えて欲しい。そして皆さん後を頼む!」と我々慰霊団に何度も訴えられた背景にはこの現実があり、心中をお察ししますと胸がえぐられる思いでした。10年前は慰霊団は小数で刺身のつまのような存在で、あくまで主体は大勢の台湾人日本軍戦友会や軍人軍属会が担っておられたそうです。しかし、年を経るごとに高齢の台湾人参列者は減り続け、今では慰霊団の方が数が増え、祭礼に不可欠な程に主客が逆転してしまったとの事でした。また国交のあった昭和47年までは、この慰霊祭や宝覚寺境内の日本人墓地へは日本の大使も参拝していたと聞き、無念と共に将来への危機感を抱いての帰国となりました。

平成の御世、最後の慰霊訪問の旅

第３班 班長　倉田（くらた）　光男（みつお） 氏

問の度に感激させられます。後壁の黄家は、総統府国策顧問であった黄崑虎先生のご自宅で、文化遺産として古蹟に指定された由緒ある場所です。福建様式の中庭（四合院）を持つ台湾で現存する数少ない住宅のひとつです。先生の親切丁寧な説明と案内に感動しました。

4日目の11月25日、台中市にある宝覚禅寺では、台湾の方々によって守られ、祀られている日本人墓地での慰霊式を斎行しました。慰霊式では、一般の日本人観光客の方々も多数参拝されました。

続いて行なわれた「霊安故郷碑」での原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭では、儀仗隊によるラッパでの鎮魂、台湾台日海交会の周良仁会長による祭文が奏上され、「英霊よ安らかにお眠り下さい」とお祈りしました。最後は小菅団長が祭文を奏上し、追悼と感謝の誠を捧げ、日台の絆が一層深くなることを祈り、「海ゆかば」を歌い、厳粛の内に慰霊祭は終了しました。

今回の旅では、各地での歓迎昼食会や夕食会と、多くの方々のおもてなしを受け、感謝・感激でした。次回も参加し、日本人、日本兵として散華された英霊に追悼と感謝の心を捧げたいと思っています。

「独立自尊」を教えられた旅

第４班 班長　湯下（ゆした）　雅俊（まさとし） 氏

今回は「独立自尊」を教えられた旅でした。中国、朝鮮、台湾、そして日本の4ヶ国の近代史を知れば知るほど、日本がアジアの中で行ってきたことの正しさを再認識できます。日本が統治した朝鮮、台湾を植民地にしたと言われるが、当の台湾が日本統治時代のインフ

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい　学びあい　助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会
九 栄 会
会長　松尾　嘉三
☎(092)714-4341
〒810－0001　福岡市中央区天神1-3-38

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価
社団法人 日本不動産鑑定協会正会員
㈱国際不動産鑑定所
代表取締役 不動産鑑定士　山口 勝彦
☎(092)483-3350
〒812-0013
福岡市博多区博多駅東1-12-5
博多大島ビル4階

ラを大切に守り、教育の面では、道徳を守り、大国中国に対しても独立を守り、国に対し愛国心と自信と誇りを持っている姿には、日本人として大いに学ぶべきと思います。

今回の旅では統一選挙に出くわし、台湾を取り巻く環境について深く考えさせられました。台湾の置かれた複雑な事情にも拘わらず、台湾人は、独立心が強く、自分たちは台湾人であり、決して中国人ではないと、台湾人であることに誇りをもっています。そのため、中国はあらゆる面で工作を行なっているようです。しかし、台湾の人は、真実を見極める力を持っています。その証は、大東亜戦争で日本兵として出征し、戦死された英霊の慰霊祭を行う際に、国旗掲揚は日の丸が最初です。これは英霊が日本兵として戦ってくれたお陰で、今の台湾があると、感謝の気持ちで祀っていることからも判ります。

戒厳令下で、学校で反日教育を受けた子供たちに、家庭では、それは間違いだと日本統治時代のことを話して聞かせたそうです。真実を伝え、真実を見極めることの大切さを戦後73年ずっと守り続けたその結果は、いたるところで見られます。教育の大切さ、家族の絆の大切さ、今の日本に一番欠けていることではないでしょうか。

「付き添い」であった私が夢中になった

第７班 班長　鬼塚（おにづか）　曜（よう）氏

毎年、台湾特別講演会には聴講させていただいていたのですが、台湾慰霊訪問が夢であった83歳の母の予てからの希望で、第20回目の記念の年に初めて参加させていただきました。

参加者全員が英霊への「慰霊」という大きな目的のもとに集まった「慰霊訪問団」であり、観光旅行とは大きく違います。私にとって初めての慰霊訪問は日を追うごとに英霊への顕彰の思いが強くなり、当初「付き添い」であった私が夢中になっていました。そして、ゆく先々での歓迎、交流を通して温かい台湾の方々の思いに触れ、台湾が大好きになりました。

帰国してから周りの方に素晴らしい慰霊訪問の旅についてお話させていただきました。「ぜひ参加したい」という賛同者がたくさんいらっしゃいます。若い世代が愛国心を持つことができるように、台湾の皆さまが愛して下さった日本を取り戻すために台湾慰霊訪問を継続し、より多くの人々へ広く伝えていく使命を感じています。また、帰国して靖國神社へ参拝させていただきたいと強く思いました。日本のために命を落とされた全ての英霊に対し、心から感謝の誠を捧げ顕彰させていただきたいです。

英霊の御霊のお陰様で、私たちの暮らしがある

第８班 班長　久野（ひさの）　貴子（たかこ）氏

「人は二度死ぬ。一度目は肉体の死、二度目は忘却による死」。全ての人が、その人の存在を忘れてしまった時に、本当に人は死ぬ。一度目の死は、誰もが決して避けることが出来ません。しかし、二度目の死は回避することが出来ます。そんなことを実感する11月でもありました。

今回の訪問の最初の地である台北の「忠烈祠」は、中華民國建国および革命、戦争などにおいて国軍として戦没した英霊を祀る祠で、中華民國国防部の管轄下にあります。

日本統治時代には台湾護國神社があった場所に建立されているそうです。小菅団長に対する、戎義俊前台北駐福岡經濟文化辦事處處長の厚い信頼のもと、立ち入り禁止区域内の大殿での正式参拝、特別見学でした。一糸乱れぬ衛兵交代は、鍛え抜かれた精鋭の兵士によるもので、言わば日本にとっては敵国の戦死者ではありますが、「戦いが終われば、昨日の敵は今日の友」、意味を知って見学すると感激もひとしおでした。

日本には靖國神社、護國神社があります。中共、韓国が何と言おうと、日本国の英霊に日本人が手を合わせるのはごく当たり前のことです。日本国と地域の政を司る方々には、断乎として、終戦記念日に正式参拝をお願いしたいものです。

大きな達成感と清々しい気持ちで帰宅

第９班 班長　岩附（いわつき）　辰夫（たつお）氏

訪問した先々での私たちへの、心のこもった歓迎とお言葉に、初参加の私は大きな感銘を受けました。

現在、異国の地、台湾に3万3千余柱の同胞が心安らかに眠っておられます。この御霊に、台湾の方々が私たちに代わって、常日頃から慰霊して下さっている姿を拝見し、心より感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。「良き日本人の故郷」を訪ねて、台湾の皆様を更に身近に感じる慰霊訪問でした。軍艦マーチ、旭日旗のはためく中での歓迎、菊の御紋の入った垂れ幕、これらどれをとっても、慰霊訪問団の20年の永い歴史を感じました。慰霊式での儀仗の心に響

●ご協力ありがとうございます。

㈱　関　家　具
代表取締役社長　関　文彦
☎(0944)88-3515
〒831－0033　福岡県大川市幡保98-7

快適な住空間の創造
ハウジング アーキテクチャー システム
㈱ＨＡＳ
代表取締役 田中 道夫
☎(092)663-5510
〒813-0002
福岡市東区下原4-19-17
エトワール21-605

く喇叭の音色、きっとご英霊の皆様の心に響き渡ったことと思います。台南の飛虎将軍廟でお聞きした、零戦とグラマン機との戦い。零戦が被弾し、墜落の運命にありながらも市街地を避けた操縦によって、其処に住む住民を守り、自分はグラマン機に銃撃され、自らを犠牲にしてまで多くの命を救った杉浦茂峰兵曹長の物語。これが本来、日本人が持っていた武士道の教えであったのでしょうか。私は今回の慰霊訪問の旅によって、改めて台湾の人々への親近感を肌で感じることができました。

海の彼方のニッポンを訪ねて

第１班 副班長　牧之瀬（まきのせ）　千保子（ちほこ）氏

今回初めて参加しました。父が大東亜戦争に召集され、衛生兵としてビルマ（現ミャンマー）にて従軍した為、戦争で亡くなった方々を慰霊することに興味があったからです。

台湾の方は大変な親日家だとは思っていましたが、日本統治時代に安心、安全、自由な日々を体験されたことによると理解しました。日本人として出兵された台湾の方々と同じように、日本人の戦死者の御霊を戦後半世紀以上経過したのちまで、大切に祀っていらっしゃることに感激しました。このことは、広く日本の方々にも知らせるべき尊い行為であり、知るべきことだと痛感しました。「これからの日本を創りあげる尊い頭脳や力を戦争で沢山失った」と、父が生前よく語っていました。所属したのが野戦病院だったので「医師や日赤の看護婦さんも亡くなったから、小指の先だけでも一緒に国に連れて帰って来たかった」「日本は、植民地から解放したから現地の人も協力的だった」とも。戦前に生まれ、青春時代を戦争の中で過ごし、戦後は高度成長時代を労働者として支え続けた人々のこと、自分の意志によらず遠く離れた地で死んでしまった人々のお陰で、現在の日本の繁栄があることを忘れず、次世代へ語り継ぎたいと思います。

夢に出てきた森川巡査

第３班 副班長　根之木（ねのき）　昭憲（あきのり）氏

今回の旅も「富安宮」の森川巡査との再会に胸を踊らせた。そして20次の旅の栞が届いたとき、全日程の中に富安宮が見当たらなかったが、何かの間違いと都合よく解釈し、11月22日福岡空港に向かった。出発ロビーで小菅団長と顔が合った時、私の心を見透かしたように団長から、「今回は富安宮は無いですもんね」と言われ、記載漏れの期待はたちまち消えてしまった。

旅の2日目、日本軍人が神と祀られた「鎮安堂飛虎将軍廟」のきらびやかな造りや、大理石の柱に刻まれた「正義」「護國」などを見たとき富安宮の光景と重なり、国境を越えた台湾の人々の心の温かさをつくづく感じた。そして夕刻、海に散った日本海軍を供養するため造られた「保安堂」の慰霊式では軍艦マーチが鳴り響き、松俵顧問が奉納した龍の柱2本がしっかりとお堂を支えており、ここでも日本人と台湾人の力強い絆を見た。保安堂前庭で行なわれた開放感溢れた夕食会での紹興酒は特に美味しく、血中アルコール濃度が200パーセントに達してしまった。

ところがその夜のことだった。私の深酒を諭すためか定かではないが、なんと森川巡査の富安宮が夢に出てきて驚いて目が覚めた。もっと紹興酒を控えていたら夢の中身を覚えていたのにと悔やまれたが、とにかく私は今回の旅ではただ一人、富安宮を訪れたと自己満足している。

台湾の地なら今後も訪れたい心境です

第５班 副班長　真栄田（まえだ）　強（つよし）氏

大東亜戦争でアジア独立のため、共に散華された3万3千余柱の台湾国英霊への慰霊顕彰と、東日本大震災で多額の義捐金を頂いた世界一の親日国家である台湾への「第20次台湾慰霊訪問の旅」へ参加できたことを心より感謝しております。

初日は、厳粛のなか忠烈祠において献花式が催行されました。忠烈祠は、辛亥革命から中華民國建国ならびに革命、支那大陸での事変、台湾海峡危機等で戦死した国軍の英霊や国民を含む33万人を追悼する祠ではありますが、台湾国が総力を挙げ、荘厳かつ厳粛に管理され、かの有名な衛兵交代式では陸、海、空軍から選抜された衛兵によって1時間毎に実行されます。完全なる民間団体である一法人が、殉国の士246万6千余柱の英霊を祀る、わが国の靖國神社との相対的な相違など、情けなさを実感させられました。

私は日頃、道徳＝清潔と思っています。今回、台湾国での5日間の縦断の旅では、各地区ともに日本の都市よりも潔で、田舎町でも更に実感しました。それは、正に教育の賜物だと思っています。

今回の慰霊訪問の旅では、各神社仏閣の参拝ならびに各種団体との会清食を通し、日本の教育を受けた祖先が子孫へ「日本精神」を継承した結果、

●ご協力ありがとうございます。

㈱アイティオージャパン
新亞旅行社股分有限公司　福岡事務所
☎(092)451-7511
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-17-19安田第5ビル8階

総合印刷
大道印刷㈱
☎(092)582-0927
〒816－0873
春日市日の出町6-23

英霊を神と祀り、大切に信仰しているのは、やはり日本統治が正当だった証と確信し、台湾の地なら今後も訪れたい心境です。

台湾における慰霊の在り方やその継続性について考えさせられた

第６班 副班長　堀（ほり）　明彦（あきひこ）氏

宝覚寺では昨年同様、日本人墓地で慰霊式を行なった。霊安故郷碑での慰霊祭終わりの台日海交会　周良仁会長の挨拶が印象深いものであった。それは、会員は少なくなり参列者も年々少なくなる中で、自分たちの後を継ぐ者はおらず、自分たちがいなくなった後にこの慰霊祭はどうなるのか、日本からは年々多くの人が参列してくれており感謝しているが、自分は台湾でそうしたことが出来ていないといった趣旨の話であった。濟化宮では献花式を行った。濟化宮には靖國神社から昭和40年(1965)に分祀された2万8千余柱に、台湾で独自に認めた戦死者1万余柱の約4万柱の祭神が祀られており、靖國神社と同じように春秋の大祭が催されると聞く。この大祭に遺族、関係者はどれ程参列されているのだろうか。

高雄の保安堂に参拝し慰霊式を行った。今回は保安堂主催の夕食会が催され堂前に丸テーブルが所狭しと並べられ、野外での大夕食会となった。その際、海上招魂祭のビデオが流された。どういう祭りかと言えば、元々遺骨と海軍軍艦の模型を祀っていたが、方々手を尽くして調べた所、船名(第38号哨戒艇「蓬」)と艦長以下145名の乗組員が判明したことから、その未だ彷徨っている霊魂を保安堂に集める招魂の祭りのことであった。

こうした歴史に鑑みれば、大陸中国との距離感は別としても、台湾人(タイワニーズ)の意識が生ずるのも理解できる。この意識が、台湾人の人々のこれまでの分裂したアイデンティティを統合するアイデンティティとなるのだろうか。

今回の旅は、台日海交会会長の嘆きの声に触発されて、台湾における慰霊の在り方やその継続性について考えさせられた。これは日本の問題でもある。

人のために生きる心が足りていない

第７班 副班長　宮崎（みやざき）　勇気（ゆうき）氏(専修学校2年)

専修学校の授業の一環での台湾研修でした。授業で「明治維新」について教わり、その中で「明治の精神」に興味を持ち、色々な話をして戴き、台湾統治の歴史も教わりました。ですから、今回の台湾研修を楽しみにしていました。

台湾到着後、最初の訪問先は忠烈祠です。衛兵の交代式で有名な観光地ですが、今回の目的は献花式です。ここは、中華民國のために戦死した約33万人の将兵が祀られる祠です。日本でいえば靖國神社に当たり国軍が管理する場所です。その大殿での献花式です。鎮まりかえった堂内には凛とした空気が張り詰め、初めての経験でした。日本の靖國神社は一宗教法人で民間施設、忠烈祠は国の施設だとバスの中で聞きました。どちらも国のために命を落としたご英霊が祀られています。しかも天皇陛下や首相が参拝できない日本の姿に、何だか疑問を感じました。

慰霊訪問の旅では毎日歓迎会が催されます。おかげで歓迎会では沢山の方々と交流出来ました。台湾の方々からは何処に行っても、優しく、温かく接して戴き、私の知らない日本の歌を教えて戴いたりもしました。中でも、台日文化經濟協会主催の歓迎昼食会でお話した呂さんは、特別変わった話をした訳でも長時間話した訳でもないのですが、またお会いして話がしたいと思うような不思議な人でした。今回の台湾研修で学んだことは、自分の事ばかり考えず、人のために何かする、人のために生きる心が足りていないと感じたことでした。大きな事は出来ませんが、人のために何かすることを日々心掛け、小さな事でも継続していきたいと思います。

初めてだった父との二人旅

第８班 副班長　江藤（えとう）　敏伸（としのぶ）氏

この20年間で台湾へは178回ほど訪台していました。実に年に9回程度訪台していたことになります。今回の“旅”は、この20年間で、最も印象深いものとなりました。父との二人旅が初めてだったのに加え、敢えて“旅”と表現したのも、こんなにゆっくりと時間をかけて台湾と日本を眺めたことがなかったからです。

訪台中、個人のFacebookで思うことを書き、時には共に参加していた父と台湾について語り会いました。普段、Facebookに真面目な投稿の少ない私なので、「どうしたの？突然？」という予想されるリアクションの中、「今度、そういう台湾を案内してよ」との反応を少なからずいただきました。ただ、印象的だったのは、普段は投稿をチャッカしてくる台湾と日本の若者層からは殆どリアクションがありませんでした。政治的な傾向を避ける傾向にある若者の反応は台湾も日本も同じようです。

この20年、ゆっくり台湾を眺めたことはありませんでしたが、日本的な懐かし

●ご協力ありがとうございます。

㈲浜崎理想瓦製造所
代表取締役　山下　康仁
☎(092)201-4010
〒891－0101　鹿児島市五ヶ別府町3786-12

柳原皮膚科クリニック
理事長 柳原　憲一
☎(092)586-7012
〒816-0943
福岡県大野城市白木原4-1-6

さの様なものが、次第に失われていることは薄々感じていました。

今回の旅を通じて、台湾には日本的なものが僅かながら残っていることを感じながら、新しいステージに入った東アジアでの日本の立ち位置を考えさせられました。今後も、その動向を見守りつつ、日本人として、どう振舞うべきかを問うていきたいと思います。

今の自分に出来ることは、継続してこの旅に参加すること

第９班 副班長　木下（きのした）　栄治（えいじ）氏

以前から、日本に帰ることができずに海外で眠られている英霊の方々に手を合わせたいと思っていました。

行く先々で行なわれた様々な各イベントで、参加されている団員の皆様と一緒に大東亜戦争で自らの命を捧げた英霊の方々に黙祷を捧げ、国歌君が代を歌っている時は、団員の皆が心ひとつとなった感じでとても感動的でした。また、各イベント及び慰霊式の際に小菅団長から受けた説明がとても分かりやすく、過去の経緯をよく知らない自分にとって理解し易く、とても助かりました。いろいろ説明など受けましたが、初めて行く場所で、初めて聞く説明に特に感動しました。しかし、残念ながら書き記そうとしても言葉としてなかなか出てこないのですが、それでも記憶に残っている言葉をつないで自分なりに心に留めている事があります。

「亡くなられた英霊の方は自ら動く事が出来ず、ただ来てくれるのを待つだけです。皆さんが、此処に来られ、祈りを捧げるだけで、英霊の方々は喜ばれている。また、英霊の方々の慰霊のために、力のある方が出来ることが、皆が同じように出来るわけではありません。それでは、出来ない人はどうすればよいのか。それは、継続です。これは、力のない人でも出来るのです。」と、このようなことを言われました。このお話で私も心に決めました。年に一度ではありますが、英霊の方々の前で手を合わせる、このことが今の自分に出来る事だと思い、今後も状況が許される限り、この旅に継続して参加するつもりです。

国を愛し、家族を愛し、頑張らなくてはと痛感

第１班 榊原班　中山（なかやま）　雄夫（たけお）氏

4泊5日の慰霊訪問中での各地の台湾の方々の熱烈な歓迎と日本人に対する思いが充分に伝わり、感謝と感動の連続でした。台湾の方々が国を愛し、家族を愛し、我々慰霊訪問団員との交流の輪を広げて戴く熱い思いに驚いております。

今回の慰霊訪問の第1日目は、台湾到着後「忠烈祠での献花式」でした。儀仗兵による1時間毎の交代式や献花式が、一般には立ち入れない忠烈祠奥の大殿で実施されたことに驚きました。夜は台湾日本関係協会主催の歓迎夕食会でした。また台湾各所で催されたある歓迎会でのことでした。私たちのテーブルには85歳の長老がおられ、日本の歌を上手く歌われ、全員で大合唱され、大変盛り上がりました。出された料理の多さと美味しさに、只々感謝、感動でした。台湾の高齢の方々の笑顔溢れる御元気なお姿の背景には、食生活の素晴らしさもあるのではと思いました。

我々日本人は、平和ボケする事なく、国を愛し、家族を愛し、頑張らなくてはと痛感させられました。愛国心や大和魂を持ち続け、しっかりと歴史や日本の伝統芸能等に精通し、次世代に継承して行く努力が必要と思います。

世界から尊敬される日本国に蘇らせなければならない

第１班 榊原班　松永（まつなが）　達始郎（たっしろう）氏

慰霊訪問20年目、明治維新150年という節目に参加できたことは、幸運というか、因縁すら感じざるを得ません。11月25日の宝覚寺での慰霊祭に合わせて慰霊訪問が挙行されるのですが、その前後で毎回外されない飛虎将軍廟、保安堂、濟化宮、さらに台湾各地の寺・宮・廟・祠での功績のあった日本人等々の慰霊式や献花式を斎行する行程にはいつもながら感涙致します。

今回新たに忠烈祠(献花式)、奇美博物館、安平古堡、海尾朝皇宮(献花式)、古蹟後壁黄家の「福建様式の中庭」を参拝や訪問できたことは誇りに思います。更に宜蘭の西郷廳憲徳政碑（西郷菊次郎の郡守徳政碑）に献花し、NHK大河ドラマに出てくる菊次郎の功績を目の当たりに出来たことは、明治維新150年に相応しく感動しました。

大東亜戦争で台湾の同胞を含む膨大な数の人々が散華されました。戦後日本は復興し高度経済成長を遂げたとはいえ、現在は少し状況が変わってきているように思います。

台北駐福岡經濟文化辦事處の戎義俊前處長が、以前講演で言っておられました。「世界で一番好きな国、世界で一番親しみを感じる国は、日本。台湾人が再び明治維新の影響力を評価すべきではないかと思っている。日本が世界に尊敬される理由は『明治維新』にあったと思う」と。日本人こそがその真髄

●ご協力ありがとうございます。

山口県日台交流協会
会長　重富　剛克
☎(0820)56-5001
〒742－1102　山口県熊毛郡平生町平生村851-1亜細亜物産内

㈲悠悠
代表取締役 徳山　世雄
☎(092)623-2667
〒812-0851
福岡市博多区青木1-11-27

を思い起こし礼節を敬う、世界から尊敬される日本国に蘇らせなければならないと考えます。

残念だったのはいつもお会いする方々と再会できなかったこと

第２班 柴崎班　本間（ほんま）　潤子（じゅんこ）氏

今回は、新しくなった奇美博物館や鄭成功の安平古堡(ゼーランジャ城)や古蹟後壁黄家の中庭や宜蘭の西郷庁憲徳政碑等を見せて戴き感銘を受けました。奇美博物館のスケールの大きさは日本にもないのではないかと思われました。鄭成功の物語は以前読んだ事があったので一度行って見たいと思っていました。西郷菊次郎はNHKの大河ドラマで見ていて台湾での事業を知りたいと思っていました。あの堤防から見た風景が素晴らしかったです。各所での歓迎会に招いて下さった台湾の方々とも温かく歓談することが出来ました。しかし、残念なことは、昨年、一昨年とお会いしお話させて戴いた従軍看護婦の皆さんにお会い出来なかったことでした。かなりご高齢の方々だったので無理もないかも知れません。

もう一つ残念だったことは、私たち慰霊訪問団が訪台中に行われた台湾の統一地方選挙で民進党が大敗した事です。きっと、中国からの経済的圧力や利益誘導があったに違いありません。共産党一党独裁の政治体制が台湾の国民を幸福にするとは思えませんが、どうか政治的に賢く乗り切って、いつまでも繁栄し続けていって欲しいと心から願いました。再び、二二八事件等が起きることがないようにと祈ります。

「歴史を知らない自分に気づかされた」大発見の旅

第２班 柴崎班　森澤（もりさわ）　満子（みつこ）氏

今回初めて参加させて戴き、献花式、慰霊式と今まで経験したことのない真意を掴み、魂に触れる旅でした。毎日が日々感動、日々発見の旅でしたが、同時に私自身が何と歴史を知らなかったことかと恥じる旅でもありました。

思い起こせば小学校時代、GHQの進駐により、歴史、地理、修身教育を教えられることは禁じられました。小学校入学時「徳をおさめ、知恵を研き･･･」という歌を教わり、日本國と書く教育を受けましたが、途中、主権国家としての国民意識を喪失させられ、武道、書道、茶道といった文武両道の全ての日本の教育が禁止された時代に育ちました。GHQの占領政策で2DK住宅が建ちはじめてから、祖父母と共に暮らす大家族制度も壊され、歴史、伝統が祖父母と一緒にいる孫に伝えられることも少なくなりました。保安堂で隣席の張さんから毎月曜日以外は近隣のお年寄りが持ち寄って軽い夕食、おしゃべり中心に集い、御英霊の御位牌を大切にお祀り下さっていることを知らされ、深く感動し涙が出てきました。

昔は、神社やお寺でよく遊び、講話や昔話を聞かされた懐かしい日々を思い出し、日本精神がここには残されていて、目前の温かい心のこもったおもてなしに心うたれ、私達日本人の日常の振舞いに少し恥ずかしい思いを致しました。祖父が40年間、日本人と分け隔てなく台南で教育に携わり、どれ程の努力と苦労があったか考えさせられ、私がこのような形で台南に来られたことを、祖父や母はどれだけ喜んでいることでしょう。

尊敬される国に戻りたい

第２班 柴崎班　茅野（かやの）　櫻（さくら）氏(中学3年)

私が今回、台湾慰霊訪問の旅に参加して一番強く感じたことは「尊敬される国に戻りたい」ということです。

台湾の方々は、私たちが行くととても喜んで下さり、盛大な歓迎をして下さいました。また、昔の日本と台湾のこと等、慣れない日本語で一生懸命教えて下さいました。日本のことが大好きで、とても尊敬してくれているのだなと感じる機会がたくさんありました。とても嬉しかったです。でも、それと同時に今の日本は台湾の方々の期待に応えることが出来るのだろうかと不安になりました。

私は最近、「カエルの楽園」という本を副団長の田口さんから薦められて読んでみました。とても面白くて一気読みしました。でもカエル達の世界を今の日本に置き換えてみると、とても恐ろしくなりました。この本のように、今の日本はバラバラで、中国、韓国、北朝鮮、ロシア等たくさんの国に国土を奪われたり、狙われたりしているのに、国民は危機感を持っていません。このままでは、尊敬されるどころか馬鹿にされてしまいます。

今の日本の状況を少しでも良くするためには、私たちの取り組みをもっと伝え、広げていくことが大切だと思います。日本が明治の頃のように活気があふれ、尊敬される国に戻ることを願って、これからも毎年参加していきたいです。

●ご協力ありがとうございます。

㈱ 中 部 鋼 材
取締役会長　富 原　浩
☎(098)938-1318
〒904－0012　沖縄県沖縄市室川2-6-7

台灣台日海交會
會長 周　良仁
☎(04)2529-5350
〒420-0050
台中市豊原區育英路24巷2號5樓

私達にもできること

第２班 柴崎班　茅野（かやの）　慧（けい）氏(中学1年)

私がこの台湾慰霊訪問の旅に参加するのは今年で2回目です。2回目なので去年と違う見方で訪問することが出来ました。また、2回目で慣れていたけれど、やはり台湾に行くと改めてすごいなと思うことが多かったです。

特に私がすごいと思ったのは、まず台湾の方々が上手な日本語を話されることです。台湾ではどのお寺に行っても、どこの食事会に呼ばれても、ほとんどの方が上手な日本語を話されていました。その中には、今の日本人の知らない「教育勅語」や「軍人勅諭」などを暗唱している人もいました。台湾の方々は日本のことを本当に信頼してくれていて、心の底から感動できる旅でした。でも、戦争で亡くなられた日本人のためにお寺を建てたり、日本人に親切にして下さる台湾の方々に、私たちは国として何かをしたでしょうか。台湾の兵隊さんのためにお寺を建てましたか。何も出来ていませんでした。

ただでさえ国交が断たれている今、台湾とではなく、中国と仲を深めようとしている人の方が多いです。そんな中、20年前、祖父がこの慰霊訪問団を立ち上げ、こんなにも団員が増えています。この慰霊訪問団は祖父のたくさんの努力と、たくさんの方々の協力のお陰だと思っています。今では、台湾と日本を繋ぐ数少ない存在となってしまいました。これからは、台湾と日本の国交が回復することと、この慰霊訪問団が末永く続くように、私も参加していきたいです。

慰霊訪問の主旨が理解でき感激もひとしお

第３班 倉田班　石橋（いしばし）　三之助（さんのすけ）氏

初めて参加させて戴いた感想を述べます。慰霊訪問団として台湾に行くことは理解していましたが、あんなに過密スケジュールとは思いませんでした。同行されていた80代の元気さにビックリしました。私も、もう少し体力を付けねばと思いました。話は変わりますが、小菅団長の話を聞くうちに慰霊団の主旨が理解出来るようになり、感激もひとしおでした。戦争中に生まれた私としては、台湾のことはあまりにも無知でしたが、理解できたように思います。スタッフの方々には大変お世話になりました。有り難うございました。

将来の日本国の危機を想う

第３班 倉田班　道崎（みちざき）　光義（みつよし）氏

今回の旅で一番感じたことは、各訪問先での台湾の方々の熱烈な歓迎と戦死された日本兵を台湾の人々が神として祭祀される姿、また、日本の先人たちが台湾に残した偉業に触れ、日本人として誇りを感じたことでした。台湾で最初の訪問先は忠烈祠で、中華民國33万人の将兵を祀る日本の靖國神社に当たる所で、廟は軍(国)が管理し、門には陸、海、空軍から選抜された衛兵が、交代までの1時間、全く身動きもせず勇壮に立ち、また交代式も威風堂々とした行動で、大変頼もしさを感じました。また、「鎮安堂飛虎将軍廟」、高雄の「保安堂」では台湾で戦死した日本兵を神として丁重に祭祀しておられ、日本魂、心の豊かさ、日本武士道の精神「惻隠の情」（弱きものを思いやる心）が受け継がれていることを強く感じました。

日本では、国のために戦死した方を民間の靖國神社に祭祀してありますが、国家として慰霊すべきではないのかと思いました。しかし、今の日本はどうでしょうか。日本魂、神話、忠誠心、愛国心などは薄れ、国家、国民、家族を守るために戦死された方を国家として慰霊しない国となってしまいました。このような国はどこにもないと思います。米国がいつまでも他国日本を守るとは限りません。自分の国は自分で守るように言われた時、日本の周りは台湾を除いて敵国ばかり、北方領土のように一旦領土を取られたら、国際法に訴えても何もできず、武力がなければ取り戻すことは出来ません。領土を守るということは国民の生命、財産を守ることです。果たして、今の日本では国民を守ることができるでしょうか。

日本人の魂が失われ、完全に平和ボケした国民、これから少子化社会を迎え、自衛隊に入隊する者も少なくなり、軍事防衛力は弱く、いつまでも安保条約が続くか判らない世界情勢を考える時、将来の日本、子孫に不安を感じます。

慰霊訪問への参加が私の価値ある生き方と確信

第４班 湯下班　津田（つだ）　建一（けんいち）氏

私事、今年で68歳になりますが、65歳を過ぎた頃から、色々な病気をするようになりました。様々な治療を繰り返していくうちに、病気が次から次へと舞い込んできます。このまま治療を続けて健康寿命を延ばしていくことについて、随分考えさせられました。

生き甲斐という言葉は外国にはない

●ご協力ありがとうございます。

㈱中部自動車整備工場
代表取締役　山 城　竜 治
☎(098)937-3388
〒904－0012　沖縄県沖縄市安慶田1-1-24

㈱中野建築事務所
代表取締役 中野　雅彦
☎(092)915-8771
〒816-0873
福岡県春日市日の出町5-38

と言われます。人として生を受け、価値ある生き方を思うとき、先の大戦で若くして、国の為、公の為、家族の為に、ましてや台湾の若者が日本兵として戦って生命を捧げられたご英霊に対し、追悼の誠を捧げる慰霊訪問の旅が毎年続けられています。そこに参加させて戴き、後世に語り継ぎ、その僅かなお役に立たせて戴けるならばと思い、少しでも元気になり、また皆さんとお会いしたいと思っています。旅行にも行かない、釣りにもゴルフにも行かない。地域の役職は殆どさせて戴き、農家の後を継ぎ、後継者も出来、ここまで歩いてきました。これも、妻をはじめ家族の協力の賜物です。常に感謝を忘れず、これからも慰霊訪問の旅には参加させて戴きたいと思っています。これが私の「価値ある生き方」と確信しています。

第20次台湾慰霊訪問の旅が意味するものとはなにか

第４班 湯下班　福田（ふくだ）　章枝（あきえ）氏

今年は飛虎将軍廟での慰霊式は過去2回とは違う重みを感じた。説明して下さった郭秋燕氏が、飛虎将軍(杉浦茂峰)が日本の水戸へ里帰りした際「本当に不思議なことがいっぱいあった」と言われたことに、私は「永遠の命を得る、死は決して終わりではない」などの聖書の御言葉がぐるぐると脳裡を駆け巡った。折りしもこの日は飛虎将軍の旧暦の誕生日であった。お供え物が溢れるほどの物凄い量であり、私はこんな光景を今まで見たことがなかった。現地の方がこんなに盛大に、今も感謝の中にお参りを続けていることに、私は日本は英霊を粗末にし続けてはいけないと強く思った。遺族の方に一任するのではなく、日本国として感謝の気持ちをもつ働きをしていくことを考えなくてはいけないと思った。私たちの国の総理大臣が靖國神社に堂々と参拝が出来るように小さくても国民運動を少しづつ始めなくてはならない。今、私たちの国は足を掬われるような状況にある。

聖書に「求めよ。さらば与えられん」とある。この御言葉からどうすればよいのだろうかと求め続けている私には、次々と様々なチャンスがやってくるように感じている。この慰霊訪問の旅がまさにそうである。

生まれて初めての「天皇陛下万歳」の三唱に感動

第６班 岩崎班　宮地（みやち）　惠津男（えつお）氏

桃園空港到着後、到着ロビーで記念撮影する時に、何気なく横を見ると我那覇真子さんがおられて、思わず二度見した。班長が、おおらかな人（適当な人？）で救われた。常日頃午後9時には就寝しているので、特に2日目の深夜までの夕食会が辛かった。ガイドの鄭さんが良かった。人柄がすごく良いのが分かった。

1日目のバスのスピーカーの調子が良くなくて、団長のお話が何を言っているのか分からないどころか、頻繁に「キーン」と金属音がして、殆ど拷問に近かった。(笑)バスの2号車から悲鳴が上がっていた。新幹線の移動が良かった。乗り心地最高！後期高齢者の方が4日目の新幹線によくぞみんな間に合ったものだと、今でも感心する。特に3人娘(老婆？)たち。各慰霊式、献花式では、それぞれ心が熱くなった。

生まれて初めて「天皇陛下万歳」を三唱して、感動した。

黄文雄先生の夕食会が一番楽しかった。桃園空港で、我那覇隆裕さんと握手していただき嬉しかった。福岡空港に到着し、やっと帰れると思ったら、解散式とまたまた集合写真撮影があり、家に帰ったのが深夜であった。

この慰霊訪問こそ子供達の修学旅行に相応しい

第６班 岩崎班　宮地（みやち）　芳子（よしこ）氏

主人に誘われ一緒に行くと決めてから、不安で一杯でした。どんなことをするのか想像がつかず、ましてや慰霊の知識も無く、ドキドキでしたが、台湾に到着してみると国内の様でした。バスからの風景も何処か懐かしい感じで不安感も無くなりました。慰霊に行く先々で人々の温かい思いが伝わってきて、台湾の方々の優しさを感じました。そして、こんな慰霊を子供達の修学旅行に取り入れて欲しいとしみじみ思いました。隣国での反日情報ばかりで正しいことが報道されない日本。台湾に来て日本人に対する温かい思いを感じて、日本人としての誇りを持って欲しいと思いました。今まで何度も君が代を歌ってきましたが、慰霊での君が代は歌っていると涙が込み上げて来ました。こんな気持ちになったのは初めてでした。各所で催される歓迎食事会では、著名な方々の参加と豪華なおもてなしを受けましたが、私は何ひとつ役に立てないことを心苦しく思います。

団員の方々とお話をしても歴史に対する価値観が同じで、心和む思いでした。

●ご協力ありがとうございます。

㈱エース・コーポレーション
代表取締役　沼田　真清
☎(03)3408-0523
〒107－0061　東京都港区北青山2-7-18第1真砂ビル5階

㈱栄電舎
取締役 飯笹　実
☎(0942)38-1211
〒830-0047
福岡県久留米市津福本町南都都留2348-8

訪問を重ねる毎に学びと交流が深まっていくことを実感

第７班 鬼塚班　大石（おおいし）　憲（けん）氏

今回も台湾の方々が熱烈な歓迎をして私達訪問団を温かく迎え入れて下さいました。私達訪問団と1年ぶりにお会いするのが待ち遠しくて仕方がないといった感じで満面の笑顔で再会できた喜びを表わしておられました。

11月25日に行われました宝覚寺での慰霊祭では、いつになく日本と台湾の絆をしみじみと感じました。慰霊祭終了後、台湾の90歳になられる男性の方とお話致しましたが、日本統治時代を昨日のことのように懐かしく語られるお姿が印象に残っております。同日午後は台湾の靖國神社といわれる南天山濟化宮に行きましたが、天井の高い所までびっしりと数多く並べられた位牌をみて、この戦死者の方々のことを語り継いで行かなければという思いになり、慰霊と顕彰の大切さを感じました。

11月26日には宜蘭川の河畔にある西郷庁憲徳政碑への献花式に臨みました。西郷菊次郎が西郷隆盛の子であることは知っていましたが、その業績については全く知りませんでした。宜蘭川堤防を作るなど台湾の治水事業は勿論、道路の整備や産業の発展など台湾の近代化に大きく貢献した人物であることを知り、西郷菊次郎のように自己犠牲を厭わず台湾のために尽くした偉大な人物がたくさんおられたからこそ、台湾の方々が今日に至るまで日本への感謝を忘れず、日本を愛して下さるのだと思いました。

台湾慰霊の旅を終えて

第８班 久野班　泉（いずみ）　邦芳（くによし）氏

今年の夏、黒田賢太郎君が私の家に来て、「秋に台湾に行くから5日間、時間を作って。」と言ってくれたのです。私が忙しいことを知っての早めの誘いだったのです。私は慰霊訪問の旅は今回が初参加ですが、訪問先における地元住民の皆さんの歓迎に小菅団長はじめスタッフの皆様の献身的努力を伺い知ることが出来ます。よくぞあれまでの人間関係ができたものだと感心する次第です。来年も是非参加したいと思います。

今回も出発前日の21日まで病院で点滴を打って、医者からは絶対に安静にと言われていた中での参加でした。そのせいで思考力が無くて、パスポートも古い方を持って来てご迷惑をおかけした次第です。スタッフの皆様のお陰で出発に間に合って、台湾の慰霊の旅も無事に終わることが出来ました。

湾生なのに台湾のことを何も知らなかった

第８班 久野班　江藤（えとう）　憲一（けんいち）氏

昭和15年12月に台中州南投縣埔里で私は生まれました。定年後、台湾に5回行きましたが、3万3千余柱の台湾人が、日本人として死んでいる真実は、今回の慰霊訪問で初めて知ることが出来ました。湾生の自分が台湾のことを何も知らなかったことを改めて反省させられました。第1次訪問の時に、日月潭を目指していたバスが事故になり、その時助けて下さった方と小菅団長のつながりを学習資料で知り、運命的出会いに感激致しました。小生5歳まで日月潭のすぐ近くに住んでいて、幼心にも同所は美しい所という思い出があり、色々な事が繋がりました。

宝覚禅寺は別名「台湾の靖國神社」と呼ばれているそうで、霊安故郷と刻まれる碑には3万3千余柱の英霊が祀られており、11月25日には毎年慰霊祭が行われている事も、今回の旅で初めて知ることが出来、良かったと思います。

4泊5日の慰霊訪問の行く先々で大歓待を受けた裏には、台湾人が日本を好きという言葉だけでは済まされない、小菅団長の熱意とリーダーシップに加え、サポートされる皆様の強い協力があってのことだと感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、台湾の置かれている立場の大変さについて考えさせられました。

あの感動は言葉では表わせません

第９班 岩附班　井口（いのくち）　保二（やすじ）氏・婦美子（ふみこ）氏

台湾慰霊訪問の旅では大変お世話になりました。台湾は旅行としては何度か訪ねておりまして、知識としては知っていたつもりでしたが、今回の旅では身体全体で台湾の方々の熱き思いを感じることが出来き、感動の旅でした。

皆様方の20年という長い間に積み重ねられた「日台の生命の絆」の上に、今回は私共も参加させて戴き、本当に感謝しております。

感想文をと思い筆を取りましたが、筆を握ったまま台湾での感動の日々が甦り、なかなか言葉にすることが出来ません。とても言葉では表せない感動の日々でした。おそらく団員の皆様も同じお気持ちだと思います。言葉に出来ず、御礼の言葉にてお許し下さい。

●ご協力ありがとうございます。

松俵建設㈱
代表取締役 松俵　義博
☎(0948)42-1033
〒820-0205 福岡県嘉麻市岩崎1554-10

光志興産有限会社
代表取締役 松俵 茂子
☎(0948)42-6660
〒820-0203 福岡県嘉麻市平607-1

スタジオ日本日曜討論 日本人講座
幹事 田口 俊哉
☎(092)721-0101
〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38-13階

日華(台)親善友好慰霊訪問団 台湾支部
支部長 黄 明山
☎(07)751-4906
〒830-0092 高雄市鳳山區南正一路２巷11弄5號

第20次 台湾慰霊訪問の旅　紀行文集（抄）

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員の順とした。

「学習資料」により知識を深めた

顧問　横尾（よこお）　秋洋（あきひろ）氏

私にとって新しい訪問先は「安平古堡」と「古跡後壁黄家」の2か所でした。「安平古堡」はオランダと台湾との歴史であり、「鄭成功」は著名ですから名前は知っていたものの詳細については知りませんでした。「古跡後壁黄家」についての知識は皆無でした。オーナーの黄崑虎氏のお話を聞いているうちに一度お会いしたように感じたので帰国して名刺を繰っていたら平成28年11月22日に「黄文雄先生主催の晩餐会」で名刺交換していました。肩書きは「台灣之友會 總會長 黄崑虎」となっていました。2年ぶりの再会だったのです。

さて、訪問団の目的の宝覚禅寺境内の「日本人遺骨安置所」の慰霊式が、一般の日本人観光客が見守る中で厳粛に行なわれました。そして「霊安故郷」慰霊碑前での慰霊祭、小菅団長の祭文奏上と続き、慰霊訪問団の目的が果たされました。その後、台北へ戻り、「黄文雄先生主催の歓迎夕食会」です。尊敬する羅福全先生（元駐日大使）、台日文化經濟協會名誉會長の黄天麟先生等々、台湾の著名な方々との夕食会、あっという間の楽しいひと時でした。

最後に感謝しなければならないのは、陳忠正台北駐福岡經濟文化辦事處處長のお見送りとお迎え、台湾での戎義俊前處長のお迎えとお見送りです。

台湾慰霊訪問団が誕生して20歳（はたち）になりました

団長代行　田中（たなか）　道夫（みちお）氏

台湾慰霊訪問団が結成され、今年で第20次になります。私は第3次訪問から参加していますが、人間で謂えば3歳の時から20歳になり、成人しました。長かったような、短かったような一つの歴史です。日本人として散華された英霊たちは、今の日本を見てどう思われているのでしょうか。大東亜という日本の理想は、植民地にされたアジアの多くの国々を救うことが出来たのかも知れませんが、現在多くの日本人が日本人としての誇りを失ったと見えているかも知れません。たった一つの命を捧げ、亡くなった英霊に申し訳ない気持ちです。

11月25日に宝覚寺において慰霊祭が行われました。式の終わりに、当時19歳で現在93歳になる元従軍看護婦の陳恵美さんが想いを話して下さいました。青春時代を日本軍と共に戦地で戦い、終戦になり台湾に引き揚げになったことを涙で話された言葉の中には、恨みなどは全く感じませんでした。一生懸命生きてこられたのでしょう。涙したのは私一人だけではなかったと思います。訪問の時は、いつもお会いしていた4名の元従軍看護婦の方々がおられましたが今年は来られていません。皆さんご高齢になられました。お元気で過ごされることを祈るばかりです。

小菅団長を支える支柱として慰霊訪問団を継続する決意

団長代行　原田（はらだ）　泰宏（やすひろ）氏

さて、20回目の参加者は過去最大の79名になりました。これだけの人数ですと移動そのものに時間が掛かり、予定通りの訪問が出来ないのではないかとの懸念を持ちましたが、今まで以上に団員の方が自発的に他の団員の方を誘導するなど、団の運営に当事者として係った方が多く見られました。団として、より団結力が強くなってきたのではないかと思います。慰霊訪問団の活動はご先祖様に対して、孫子に対して誇ることが出来ることであり、外国に対してもその正当性を主張できるものです。もっと多くの日本人に知ってもらいたい、賛同を得たいものです。

旅の栞には、「台湾防衛は台湾人英霊との約束」「世界一の道義国家・日本の再建」が掲げられています。第20次の慰霊訪問団に参加して、小菅団長を支える支柱となり、慰霊訪問団を継続し、台湾防衛と日本の再建の実現に向けて尽力する、との決意をより強く持ちました。

毎回忘れがたい感動と思い出がある

副団長　富原（とみはら）　浩（ひろし）氏

今回の第20次台湾慰霊訪問の旅で

●ご協力ありがとうございます。

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長　陳　忠　正

☎(092)734-2810

〒810－0024　福岡市中央区桜坂3-12-42

美祢市観光商工部

☎(0837)52-1532

〒059-2292

山口県美祢市大嶺町東分326-1

も幾つもの心に残る場面がありました。

紙面の都合もあり、1つだけ書きます。日本軍艦を祀ってある高雄の保安堂を訪問した時です。例年のごとく、私たちが到着すると同時にたくさんの爆竹や花火で歓迎してくれました。ポールには大きな日章旗が掲げられ、風に勢いよくはためいていました。お堂の周囲には軍艦旗が幾つも並び、韓国の軍艦旗拒否のことがあるだけに、何たる違いかと思いました。

堂内での慰霊式は小菅団長の祭文奏上で終わり、お堂の前の広場では歓迎夕食会が準備されていました。円卓のテーブルが20卓ほど準備され70数名の団員を地元の人たちが歓迎して下さいました。それぞれのテーブルに地元の方々が入り、慣れない言葉で御馳走をいただきながらの交流でした。

4泊5日の慰霊の旅は、日本と関わりのある史蹟やお寺、お堂を回り、昼食会や夕食会では地元の方々や財界、政界、政府の関係者などとの交流があり、「日台の魂の交流」というに相応しい旅でした。いつも台湾慰霊訪問の旅に参加して感じることは、台湾の方々の日本への熱い思いです。もはや兄弟、家族のような関係だと思います。

慰霊訪問の旅は命ある限り続けなければなりません

新団長　田口（たぐち）　俊哉（としや）氏

台湾は、明治から終戦までは日本の一部であり、皆が日本語を話していました。本土と同じ教育が行なわれていました。正真正銘の日本だったのです。その当時の台湾の人は、当然ながら台湾で生まれて、台湾で育ちましたが、心の中は、日本精神を備えた立派な日本人でした。

言わずもがな、わが国は大東亜戦争で敗戦し、連合軍の統治下に置かれ、国内の情勢は一変してしまいました。敗戦のショックに絶望した国民に占領軍から差延べられた「戦いのない平和」は、日本精神を少しづつ蝕んでいきました。有能な指導者たちは、次々と消され、公職を追われ、或いは金で魂を占領軍に売り渡しました。国を守るため、領土を守るため、国民を、家族を守るため、命を賭して戦場に散華された英霊は、この惨状を見てどう思うでしょうか。

そして同様、台湾人もこの戦いで、自らを皇軍と自負し、軍隊に志願し、大日本帝國軍人として約3万3千余の若者が戦地に散りました。日本人として命を賭したのです。その心の内は如何ばかりかと、空しい限りです。戦後、台湾と日本は国交が絶たれ、離ればなれになり、現在もなお国交はありません。しかしながら、国交が有ろうと無かろうと関係はありません。この慰霊訪問の旅は、命ある限り続けなければなりません。

百聞は一見にしかず

統制／副団長　大山（おおやま）　猛（たけし）氏

今回最も感動したのは2日目の夜、高雄市郊外にある保安堂での歓迎夕食会である。保安堂の御神体は2メートルにもなる「38にっぽんぐんかん」と云う軍艦模型である。第15次訪問の折、艦の特定を依頼された訪問団の調査により、「駆逐艦“蓬”」と判明した。そしてこの度、艦長高田又男予備大尉以下、144名の乗組員の名前が判明。今年は、乗組員お一人お一人の名前の入った提灯145個、幟旗145本が掲げられてあった。その中で、地元の方々、約百名との交歓夕食会が開催された。若い人も年長者も、男も女も皆で手作り料理の大御馳走。空は晴れ渡り、満月の下で繰り広げられた。

感動をもう一つ。台湾南部の屏東縣枋寮に流れ着いた日本人の位牌を祀っている龍安寺「先鋒祠」がある。昭和58年、レイテ沖海戦(昭和19年)で散華された英霊の洋上慰霊祭が同海域で行われた。その時、海に投げ込まれた花束、酒、位牌。その位牌の一つが、昭和60年、枋寮の地に流れ着いた。それを地元の人にお祀りして戴いているのだ。そのような話は、台湾では各地にあり、行く処々、何処にでもそんな感動的秘話が連続する。

台湾と英霊

統制　高橋（たかはし）　幸久（ゆきひさ）氏

行程の全てが感動の連続ですが、元軍人の方と日本語で話すことは最も感動的なことの一つです。25日の濟化宮では、蕭鸞飛(しゅうらんひ)さんという方がお孫さんと思われる方と、我々訪問団がこの日時にこの地に来るのを待っていて下さいました。日本人と全く変わらない日本語で、日本名はカワタムツオ、第1次陸軍特別志願兵制度により日本軍人となり、バリ島で戦ったことを話されました。今回初めて訪問団と面会したそうです。蕭さんが73年間この時を待っていたのかと思うと、込み上げるものがあります。

日清戦争の後、明治28年(1895)から日本国となった台湾は、昭和20年(1945)8月の日本敗戦により、中華民国に接収されました。その後、日華平和条約が昭和27年(1952)に締結され、中華民国(台湾)と日本は国交を結びま

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり　まちをつくり　くにをつくる
九州不動産専門学院グループ
代表　小菅 亥三郎
☎(092)714-4131
〒810－0001　福岡市中央区天神1-3-38

台日友好協會
会長 何 月桂
☎(04)2225-0177
〒403-0042
台中市西區法院前街8之1號

したが、昭和47年（1972）に破棄されたので、現在、日本と台湾の国交は断絶しています。しかしながら、台湾人は50年間日本人と同じ教育を受け、日本精神を共有しており、大東亜戦争で散華された共通の英霊の存在のお蔭で、日本と正式な国交が無くても誠心のこもった交流を続けています。世界情勢が混沌とする中、こんな誠心があるかぎり日本と台湾は同胞、戦友であり続けることが出来ます。この旅では多くの学びがありますが、英霊が領土を守るために戦い、多くの犠牲の上に、今の日本国があることを忘れてはいけません。

数々の節目の年に参加できて感謝

第１班 班長　榊原（さかきばら）　みどり 氏

鹿児島では今年、明治維新150年の節目、そして岩川でも戊辰戦争150年の節目、台湾慰霊訪問団は、20回目の節目。また台湾では4年に一度の選挙の節目という大切な年に参加でき、台湾の高齢になられた方々とも心の絆が深まりました。今年は新しい訪問先もあり、鹿児島出身の西郷庁憲徳政碑に献花することが出来、本当に感動致しました。宜蘭川の氾濫により堤防を築き、市民の生命と財産を守った偉人の足跡を辿ることが出来ました。英霊を顕彰する、そして共に一緒に戦い、祖国に帰れなかった英霊に、追悼と感謝の誠を捧げるために参加できたことに感謝です。

車内での小菅団長の話の中で、日本の領土が外国人の手により買占められていることを知り本当に残念です。法律を早急に作り、日本の領土はしっかりと自分達の手で守ることが歴史を継続することだと思います。

胸をえぐられた 周良仁会長の「皆さん後を頼む!」のひとこと

第２班 班長　柴崎（しばさき）　一郎（いちろう） 氏

台湾で一番頭が下がりましたのは、各地の至る所で戦前の日本の事績や祭神、史跡等を、大切に守り続けて下さっていた事です。

そして最も憂いを感じましたのは、同国の北京語教育の趨勢で台湾語を使う世代が減少し、日本語世代の高齢化と共に、戦前の日本精神の継承が世代的に困難な時代になったことです。台中・宝覚寺で原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭を主催された台湾台日海交会の周良仁会長が「台湾でのこの祭礼を、日本に帰られたら一人でも多くの日本人に伝えて欲しい。そして皆さん後を頼む!」と我々慰霊団に何度も訴えられた背景にはこの現実があり、心中をお察ししますと胸がえぐられる思いでした。10年前は慰霊団は小数で刺身のつまのような存在で、あくまで主体は大勢の台湾人日本軍戦友会や軍人軍属会が担っておられたそうです。しかし、年を経るごとに高齢の台湾人参列者は減り続け、今では慰霊団の方が数が増え、祭礼に不可欠な程に主客が逆転してしまったとの事でした。また国交のあった昭和47年までは、この慰霊祭や宝覚寺境内の日本人墓地へは日本の大使も参拝していたと聞き、無念と共に将来への危機感を抱いての帰国となりました。

平成の御世、最後の慰霊訪問の旅

第３班 班長　倉田（くらた）　光男（みつお） 氏

私は今回4度目の参加でしたが、訪問の度に感激させられます。後壁の黄家は、総統府国策顧問であった黄崑虎先生のご自宅で、文化遺産として古蹟に指定された由緒ある場所です。福建様式の中庭（四合院）を持つ台湾で現存する数少ない住宅のひとつです。先生の親切丁寧な説明と案内に感動しました。

4日目の11月25日、台中市にある宝覚禅寺では、台湾の方々によって守られ、祀られている日本人墓地での慰霊式を斎行しました。慰霊式では、一般の日本人観光客の方々も多数参拝されました。

続いて行なわれた「霊安故郷碑」での原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭では、儀仗隊によるラッパでの鎮魂、台湾台日海交会の周良仁会長による祭文が奏上され、「英霊よ安らかにお眠り下さい」とお祈りしました。最後は小菅団長が祭文を奏上し、追悼と感謝の誠を捧げ、日台の絆が一層深くなることを祈り、「海ゆかば」を歌い、厳粛の内に慰霊祭は終了しました。

今回の旅では、各地での歓迎昼食会や夕食会と、多くの方々のおもてなしを受け、感謝・感激でした。次回も参加し、日本人、日本兵として散華された英霊に追悼と感謝の心を捧げたいと思っています。

「独立自尊」を教えられた旅

第４班 班長　湯下（ゆした）　雅俊（まさとし） 氏

今回は「独立自尊」を教えられた旅でした。中国、朝鮮、台湾、そして日本の4ヶ国の近代史を知れば知るほど、日本がアジアの中で行ってきたことの正しさを再認識できます。日本が統治した朝鮮、台湾を植民地にしたと言われる

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい　学びあい　助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会
九 栄 会
会長　松尾　嘉三
☎(092)714-4341
〒810－0001　福岡市中央区天神1-3-38

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価
社団法人 日本不動産鑑定協会正会員
㈱国際不動産鑑定所
代表取締役 不動産鑑定士　山口 勝彦
☎(092)483-3350
〒812-0013
福岡市博多区博多駅東1-12-5
博多大島ビル4階

が、当の台湾が日本統治時代のインフラを大切に守り、教育の面では、道徳を守り、大国中国に対しても独立を守り、国に対し愛国心と自信と誇りを持っている姿には、日本人として大いに学ぶべきと思います。

今回の旅では統一選挙に出くわし、台湾を取り巻く環境について深く考えさせられました。台湾の置かれた複雑な事情にも拘わらず、台湾人は、独立心が強く、自分たちは台湾人であり、決して中国人ではないと、台湾人であることに誇りをもっています。そのため、中国はあらゆる面で工作を行なっているようです。しかし、台湾の人は、真実を見極める力を持っています。その証は、大東亜戦争で日本兵として出征し、戦死された英霊の慰霊祭を行う際に、国旗掲揚は日の丸が最初です。これは英霊が日本兵として戦ってくれたお陰で、今の台湾があると、感謝の気持ちで祀っていることからも判ります。

戒厳令下で、学校で反日教育を受けた子供たちに、家庭では、それは間違いだと日本統治時代のことを話して聞かせたそうです。真実を伝え、真実を見極めることの大切さを戦後73年ずっと守り続けたその結果は、いたるところで見られます。教育の大切さ、家族の絆の大切さ、今の日本に一番欠けていることではないでしょうか。

「付き添い」であった私が夢中になった

第７班 班長　鬼塚（おにづか）　曜（よう）氏

毎年、台湾特別講演会には聴講させていただいていたのですが、台湾慰霊訪問が夢であった83歳の母の予てからの希望で、第20回目の記念の年に初めて参加させていただきました。

参加者全員が英霊への「慰霊」という大きな目的のもとに集まった「慰霊訪問団」であり、観光旅行とは大きく違います。私にとって初めての慰霊訪問は日を追うごとに英霊への顕彰の思いが強くなり、当初「付き添い」であった私が夢中になっていました。そして、ゆく先々での歓迎、交流を通して温かい台湾の方々の思いに触れ、台湾が大好きになりました。

帰国してから周りの方に素晴らしい慰霊訪問の旅についてお話させていただきました。「ぜひ参加したい」という賛同者がたくさんいらっしゃいます。若い世代が愛国心を持つことができるように、台湾の皆さまが愛して下さった日本を取り戻すために台湾慰霊訪問を継続し、より多くの人々へ広く伝えていく使命を感じています。また、帰国して靖國神社へ参拝させていただきたいと強く思いました。日本のために命を落とされた全ての英霊に対し、心から感謝の誠を捧げ顕彰させていただきたいです。

英霊の御霊のお陰様で、私たちの暮らしがある

第８班 班長　久野（ひさの）　貴子（たかこ）氏

「人は二度死ぬ。一度目は肉体の死、二度目は忘却による死」。全ての人が、その人の存在を忘れてしまった時に、本当に人は死ぬ。一度目の死は、誰もが決して避けることが出来ません。しかし、二度目の死は回避することが出来ます。そんなことを実感する11月でもありました。

今回の訪問の最初の地である台北の「忠烈祠」は、中華民國建国および革命、戦争などにおいて国軍として戦没した英霊を祀る祠で、中華民國国防部の管轄下にあります。

日本統治時代には台湾護國神社があった場所に建立されているそうです。小菅団長に対する、戎義俊前台北駐福岡經濟文化辦事處處長の厚い信頼のもと、立ち入り禁止区域内の大殿での正式参拝、特別見学でした。一糸乱れぬ衛兵交代は、鍛え抜かれた精鋭の兵士によるもので、言わば日本にとっては敵国の戦死者ではありますが、「戦いが終われば、昨日の敵は今日の友」、意味を知って見学すると感激もひとしおでした。

日本には靖國神社、護國神社があります。中共、韓国が何と言おうと、日本国の英霊に日本人が手を合わせるのはごく当たり前のことです。日本国と地域の政を司る方々には、断乎として、終戦記念日に正式参拝をお願いしたいものです。

大きな達成感と清々しい気持ちで帰宅

第９班 班長　岩附（いわつき）　辰夫（たつお）氏

訪問した先々での私たちへの、心のこもった歓迎とお言葉に、初参加の私は大きな感銘を受けました。

現在、異国の地、台湾に3万3千余柱の同胞が心安らかに眠っておられます。この御霊に、台湾の方々が私たちに代わって、常日頃から慰霊して下さっている姿を拝見し、心より感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。「良き日本人の故郷」を訪ねて、台湾の皆様を更に身近に感じる慰霊訪問でした。軍艦マーチ、旭日旗のはためく中での歓迎、菊の御紋の入った垂れ幕、これらどれをとっても、慰霊訪問団の20年の永い歴史を

●ご協力ありがとうございます。

㈱　関　家　具
代表取締役社長　関　文彦
☎(0944)88-3515
〒831－0033　福岡県大川市幡保98-7

快適な住空間の創造
ハウジング アーキテクチャー システム
㈱ＨＡＳ
代表取締役 田中 道夫
☎(092)663-5510
〒813-0002
福岡市東区下原4-19-17
エトワール21-605

感じました。慰霊式での儀仗の心に響く喇叭の音色、きっとご英霊の皆様の心に響き渡ったことと思います。台南の飛虎将軍廟でお聞きした、零戦とグラマン機との戦い。零戦が被弾し、墜落の運命にありながらも市街地を避けた操縦によって、其処に住む住民を守り、自分はグラマン機に銃撃され、自らを犠牲にしてまで多くの命を救った杉浦茂峰兵曹長の物語。これが本来、日本人が持っていた武士道の教えであったのでしょうか。私は今回の慰霊訪問の旅によって、改めて台湾の人々への親近感を肌で感じることができました。

海の彼方のニッポンを訪ねて

第１班 副班長　牧之瀬（まきのせ）　千保子（ちほこ）氏

今回初めて参加しました。父が大東亜戦争に召集され、衛生兵としてビルマ（現ミャンマー）にて従軍した為、戦争で亡くなった方々を慰霊することに興味があったからです。

台湾の方は大変な親日家だとは思っていましたが、日本統治時代に安心、安全、自由な日々を体験されたことによると理解しました。日本人として出兵された台湾の方々と同じように、日本人の戦死者の御霊を戦後半世紀以上経過したのちまで、大切に祀っていらっしゃることに感激しました。このことは、広く日本の方々にも知らせるべき尊い行為であり、知るべきことだと痛感しました。「これからの日本を創りあげる尊い頭脳や力を戦争で沢山失った」と、父が生前よく語っていました。所属したのが野戦病院だったので「医師や日赤の看護婦さんも亡くなったから、小指の先だけでも一緒に国に連れて帰って来たかった」「日本は、植民地から解放したから現地の人も協力的だった」とも。戦前に生まれ、青春時代を戦争の中で過ごし、戦後は高度成長時代を労働者として支え続けた人々のこと、自分の意志によらず遠く離れた地で死んでしまった人々のお陰で、現在の日本の繁栄があることを忘れず、次世代へ語り継ぎたいと思います。

夢に出てきた森川巡査

第３班 副班長　根之木（ねのき）　昭憲（あきのり）氏

今回の旅も「富安宮」の森川巡査との再会に胸を踊らせた。そして20次の旅の栞が届いたとき、全日程の中に富安宮が見当たらなかったが、何かの間違いと都合よく解釈し、11月22日福岡空港に向かった。出発ロビーで小菅団長と顔が合った時、私の心を見透かしたように団長から、「今回は富安宮は無いですもんね」と言われ、記載漏れの期待はたちまち消えてしまった。

旅の2日目、日本軍人が神と祀られた「鎮安堂飛虎将軍廟」のきらびやかな造りや、大理石の柱に刻まれた「正義」「護國」などを見たとき富安宮の光景と重なり、国境を越えた台湾の人々の心の温かさをつくづく感じた。そして夕刻、海に散った日本海軍を供養するため造られた「保安堂」の慰霊式では軍艦マーチが鳴り響き、松俵顧問が奉納した龍の柱2本がしっかりとお堂を支えており、ここでも日本人と台湾人の力強い絆を見た。保安堂前庭で行なわれた開放感溢れた夕食会での紹興酒は特に美味しく、血中アルコール濃度が200パーセントに達してしまった。

ところがその夜のことだった。私の深酒を諭すためか定かではないが、なんと森川巡査の富安宮が夢に出てきて驚いて目が覚めた。もっと紹興酒を控えていたら夢の中身を覚えていたのにと悔やまれたが、とにかく私は今回の旅ではただ一人、富安宮を訪れたと自己満足している。

台湾の地なら今後も訪れたい心境です

第５班 副班長　真栄田（まえだ）　強（つよし）氏

大東亜戦争でアジア独立のため、共に散華された3万3千余柱の台湾国英霊への慰霊顕彰と、東日本大震災で多額の義捐金を頂いた世界一の親日国家である台湾への「第20次台湾慰霊訪問の旅」へ参加できたことを心より感謝しております。

初日は、厳粛のなか忠烈祠において献花式が催行されました。忠烈祠は、辛亥革命から中華民國建国ならびに革命、支那大陸での事変、台湾海峡危機等で戦死した国軍の英霊や国民を含む33万人を追悼する祠ではありますが、台湾国が総力を挙げ、荘厳かつ厳粛に管理され、かの有名な衛兵交代式では陸、海、空軍から選抜された衛兵によって1時間毎に実行されます。完全なる民間団体である一法人が、殉国の士246万6千余柱の英霊を祀る、わが国の靖國神社との相対的な相違など、情けなさを実感させられました。

私は日頃、道徳＝清潔と思っています。今回、台湾国での5日間の縦断の旅では、各地区ともに日本の都市よりも潔で、田舎町でも更に実感しました。それは、正に教育の賜物だと思っています。

今回の慰霊訪問の旅では、各神社仏閣の参拝ならびに各種団体との会清食を通し、日本の教育を受けた祖先

●ご協力ありがとうございます。

㈱アイティオージャパン
新亞旅行社股分有限公司　福岡事務所
☎(092)451-7511
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-17-19安田第5ビル8階

総合印刷
大道印刷㈱
☎(092)582-0927
〒816－0873
春日市日の出町6-23

が子孫へ「日本精神」を継承した結果、英霊を神と祀り、大切に信仰しているのは、やはり日本統治が正当だった証と確信し、台湾の地なら今後も訪れたい心境です。

台湾における慰霊の在り方やその継続性について考えさせられた

第６班 副班長　堀（ほり）　明彦（あきひこ）氏

宝覚寺では昨年同様、日本人墓地で慰霊式を行なった。霊安故郷碑での慰霊祭終わりの台日海交会　周良仁会長の挨拶が印象深いものであった。それは、会員は少なくなり参列者も年々少なくなる中で、自分たちの後を継ぐ者はおらず、自分たちがいなくなった後にこの慰霊祭はどうなるのか、日本からは年々多くの人が参列してくれており感謝しているが、自分は台湾でそうしたことが出来ていないといった趣旨の話であった。濟化宮では献花式を行った。濟化宮には靖國神社から昭和40年(1965)に分祀された2万8千余柱に、台湾で独自に認めた戦死者1万余柱の約4万柱の祭神が祀られており、靖國神社と同じように春秋の大祭が催されると聞く。この大祭に遺族、関係者はどれ程参列されているのだろうか。

高雄の保安堂に参拝し慰霊式を行った。今回は保安堂主催の夕食会が催され堂前に丸テーブルが所狭しと並べられ、野外での大夕食会となった。その際、海上招魂祭のビデオが流された。どういう祭りかと言えば、元々遺骨と海軍軍艦の模型を祀っていたが、方々手を尽くして調べた所、船名(第38号哨戒艇「蓬」)と艦長以下145名の乗組員が判明したことから、その未だ彷徨っている霊魂を保安堂に集める招魂の祭りのことであった。

こうした歴史に鑑みれば、大陸中国との距離感は別としても、台湾人(タイワニーズ)の意識が生ずるのも理解できる。この意識が、台湾人の人々のこれまでの分裂したアイデンティティを統合するアイデンティティとなるのだろうか。

今回の旅は、台日海交会会長の嘆きの声に触発されて、台湾における慰霊の在り方やその継続性について考えさせられた。これは日本の問題でもある。

人のために生きる心が足りていない

第７班 副班長　宮崎（みやざき）　勇気（ゆうき）氏(専修学校2年)

専修学校の授業の一環での台湾研修でした。授業で「明治維新」について教わり、その中で「明治の精神」に興味を持ち、色々な話をして戴き、台湾統治の歴史も教わりました。ですから、今回の台湾研修を楽しみにしていました。

台湾到着後、最初の訪問先は忠烈祠です。衛兵の交代式で有名な観光地ですが、今回の目的は献花式です。ここは、中華民國のために戦死した約33万人の将兵が祀られる祠です。日本でいえば靖國神社に当たり国軍が管理する場所です。その大殿での献花式です。鎮まりかえった堂内には凛とした空気が張り詰め、初めての経験でした。日本の靖國神社は一宗教法人で民間施設、忠烈祠は国の施設だとバスの中で聞きました。どちらも国のために命を落としたご英霊が祀られています。しかも天皇陛下や首相が参拝できない日本の姿に、何だか疑問を感じました。

慰霊訪問の旅では毎日歓迎会が催されます。おかげで歓迎会では沢山の方々と交流出来ました。台湾の方々からは何処に行っても、優しく、温かく接して戴き、私の知らない日本の歌を教えて戴いたりもしました。中でも、台日文化經濟協会主催の歓迎昼食会でお話した呂さんは、特別変わった話をした訳でも長時間話した訳でもないのですが、またお会いして話がしたいと思うような不思議な人でした。今回の台湾研修で学んだことは、自分の事ばかり考えず、人のために何かする、人のために生きる心が足りていないと感じたことでした。大きな事は出来ませんが、人のために何かすることを日々心掛け、小さな事でも継続していきたいと思います。

初めてだった父との二人旅

第８班 副班長　江藤（えとう）　敏伸（としのぶ）氏

この20年間で台湾へは178回ほど訪台していました。実に年に9回程度訪台していたことになります。今回の“旅”は、この20年間で、最も印象深いものとなりました。父との二人旅が初めてだったのに加え、敢えて“旅”と表現したのも、こんなにゆっくりと時間をかけて台湾と日本を眺めたことがなかったからです。

訪台中、個人のFacebookで思うことを書き、時には共に参加していた父と台湾について語り会いました。普段、Facebookに真面目な投稿の少ない私なので、「どうしたの？突然？」という予想されるリアクションの中、「今度、そういう台湾を案内してよ」との反応を少なからずいただきました。ただ、印象的だったのは、普段は投稿をチャッカしてくる台湾と日本の若者層からは殆どリアクションがありませんでした。政治的な傾向を避ける傾向にある若者の反応は台湾も日本も同じようです。

この20年、ゆっくり台湾を眺めたこと

●ご協力ありがとうございます。

㈲浜崎理想瓦製造所
代表取締役　山下　康仁
☎(092)201-4010
〒891－0101　鹿児島市五ヶ別府町3786-12

柳原皮膚科クリニック
理事長 柳原　憲一
☎(092)586-7012
〒816-0943
福岡県大野城市白木原4-1-6

はありませんでしたが、日本的な懐かしさの様なものが、次第に失われていることは薄々感じていました。

今回の旅を通じて、台湾には日本的なものが僅かながら残っていることを感じながら、新しいステージに入った東アジアでの日本の立ち位置を考えさせられました。今後も、その動向を見守りつつ、日本人として、どう振舞うべきかを問うていきたいと思います。

今の自分に出来ることは、継続してこの旅に参加すること

第９班 副班長　木下（きのした）　栄治（えいじ）氏

以前から、日本に帰ることができずに海外で眠られている英霊の方々に手を合わせたいと思っていました。

行く先々で行なわれた様々な各イベントで、参加されている団員の皆様と一緒に大東亜戦争で自らの命を捧げた英霊の方々に黙祷を捧げ、国歌君が代を歌っている時は、団員の皆が心ひとつとなった感じでとても感動的でした。また、各イベント及び慰霊式の際に小菅団長から受けた説明がとても分かりやすく、過去の経緯をよく知らない自分にとって理解し易く、とても助かりました。いろいろ説明など受けましたが、初めて行く場所で、初めて聞く説明に特に感動しました。しかし、残念ながら書き記そうとしても言葉としてなかなか出てこないのですが、それでも記憶に残っている言葉をつないで自分なりに心に留めている事があります。

「亡くなられた英霊の方は自ら動く事が出来ず、ただ来てくれるのを待つだけです。皆さんが、此処に来られ、祈りを捧げるだけで、英霊の方々は喜ばれている。また、英霊の方々の慰霊のために、力のある方が出来ることが、皆が同じように出来るわけではありません。それでは、出来ない人はどうすればよいのか。それは、継続です。これは、力のない人でも出来るのです。」と、このようなことを言われました。このお話で私も心に決めました。年に一度ではありますが、英霊の方々の前で手を合わせる、このことが今の自分に出来る事だと思い、今後も状況が許される限り、この旅に継続して参加するつもりです。

国を愛し、家族を愛し、頑張らなくてはと痛感

第１班 榊原班　中山（なかやま）　雄夫（たけお）氏

4泊5日の慰霊訪問中での各地の台湾の方々の熱烈な歓迎と日本人に対する思いが充分に伝わり、感謝と感動の連続でした。台湾の方々が国を愛し、家族を愛し、我々慰霊訪問団員との交流の輪を広げて戴く熱い思いに驚いております。

今回の慰霊訪問の第1日目は、台湾到着後「忠烈祠での献花式」でした。儀仗兵による1時間毎の交代式や献花式が、一般には立ち入れない忠烈祠奥の大殿で実施されたことに驚きました。夜は台湾日本関係協会主催の歓迎夕食会でした。また台湾各所で催されたある歓迎会でのことでした。私たちのテーブルには85歳の長老がおられ、日本の歌を上手く歌われ、全員で大合唱され、大変盛り上がりました。出された料理の多さと美味しさに、只々感謝、感動でした。台湾の高齢の方々の笑顔溢れる御元気なお姿の背景には、食生活の素晴らしさもあるのではと思いました。

我々日本人は、平和ボケする事なく、国を愛し、家族を愛し、頑張らなくてはと痛感させられました。愛国心や大和魂を持ち続け、しっかりと歴史や日本の伝統芸能等に精通し、次世代に継承して行く努力が必要と思います。

世界から尊敬される日本国に蘇らせなければならない

第１班 榊原班　松永（まつなが）　達始郎（たっしろう）氏

慰霊訪問20年目、明治維新150年という節目に参加できたことは、幸運というか、因縁すら感じざるを得ません。11月25日の宝覚寺での慰霊祭に合わせて慰霊訪問が挙行されるのですが、その前後で毎回外されない飛虎将軍廟、保安堂、濟化宮、さらに台湾各地の寺・宮・廟・祠での功績のあった日本人等々の慰霊式や献花式を斎行する行程にはいつもながら感涙致します。

今回新たに忠烈祠(献花式)、奇美博物館、安平古堡、海尾朝皇宮(献花式)、古蹟後壁黄家の「福建様式の中庭」を参拝や訪問できたことは誇りに思います。更に宜蘭の西郷廳憲德政碑（西郷菊次郎の郡守德政碑）に献花し、NHK大河ドラマに出てくる菊次郎の功績を目の当たりに出来たことは、明治維新150年に相応しく感動しました。

大東亜戦争で台湾の同胞を含む膨大な数の人々が散華されました。戦後日本は復興し高度経済成長を遂げたとはいえ、現在は少し状況が変わってきているように思います。

台北駐福岡經濟文化辦事處の戎義俊前處長が、以前講演で言っておられました。「世界で一番好きな国、世界で一番親しみを感じる国は、日本。台湾人が再び明治維新の影響力を評価すべきではないかと思っている。日本が世界に尊敬される理由は『明治維新』にあ

●ご協力ありがとうございます。

山口県日台交流協会
会長　重富　剛克
☎(0820)56-5001
〒742－1102　山口県熊毛郡平生町平生村851-1亜細亜物産内

㈲悠悠
代表取締役 徳山　世雄
☎(092)623-2667
〒812-0851
福岡市博多区青木1-11-27

ったと思う」と。日本人こそがその真髄を思い起こし礼節を敬う、世界から尊敬される日本国に蘇らせなければならないと考えます。

残念だったのはいつもお会いする方々と再会できなかったこと

第２班 柴崎班　本間（ほんま）　潤子（じゅんこ）氏

今回は、新しくなった奇美博物館や鄭成功の安平古堡（ゼーランジャ城）や古蹟後壁黄家の中庭や宜蘭の西郷庁憲徳政碑等を見せて戴き感銘を受けました。奇美博物館のスケールの大きさは日本にもないのではないかと思われました。鄭成功の物語は以前読んだ事があったので一度行って見たいと思っていました。西郷菊次郎はNHKの大河ドラマで見ていて台湾での事業を知りたいと思っていました。あの堤防から見た風景が素晴らしかったです。各所での歓迎会に招いて下さった台湾の方々とも温かく歓談することが出来ました。しかし、残念なことは、昨年、一昨年とお会いしお話させて戴いた従軍看護婦の皆さんにお会い出来なかったことでした。かなりご高齢の方々だったので無理もないかも知れません。

もう一つ残念だったことは、私たち慰霊訪問団が訪台中に行われた台湾の統一地方選挙で民進党が大敗した事です。きっと、中国からの経済的圧力や利益誘導があったに違いありません。共産党一党独裁の政治体制が台湾の国民を幸福にするとは思えませんが、どうか政治的に賢く乗り切って、いつまでも繁栄し続けていって欲しいと心から願いました。再び、二二八事件等が起きることがないようにと祈ります。

「歴史を知らない自分に気づかされた」大発見の旅

第２班 柴崎班　森澤（もりさわ）　満子（みつこ）氏

今回初めて参加させて戴き、献花式、慰霊式と今まで経験したことのない真意を掴み、魂に触れる旅でした。毎日が日々感動、日々発見の旅でしたが、同時に私自身が何と歴史を知らなかったことかと恥じる旅でもありました。

思い起こせば小学校時代、GHQの進駐により、歴史、地理、修身教育を教えられることは禁じられました。小学校入学時「徳をおさめ、知恵を研き･･･」という歌を教わり、日本國と書く教育を受けましたが、途中、主権国家としての国民意識を喪失させられ、武道、書道、茶道といった文武両道の全ての日本の教育が禁止された時代に育ちました。GHQの占領政策で2DK住宅が建ちはじめてから、祖父母と共に暮らす大家族制度も壊され、歴史、伝統が祖父母と一緒にいる孫に伝えられることも少なくなりました。保安堂で隣席の張さんから毎月曜日以外は近隣のお年寄りが持ち寄って軽い夕食、おしゃべり中心に集い、御英霊の御位牌を大切にお祀り下さっていることを知らされ、深く感動し涙が出てきました。

昔は、神社やお寺でよく遊び、講話や昔話を聞かされた懐かしい日々を思い出し、日本精神がここには残されていて、目前の温かい心のこもったおもてなしに心うたれ、私達日本人の日常の振舞いに少し恥ずかしい思いを致しました。祖父が40年間、日本人と分け隔てなく台南で教育に携わり、どれ程の努力と苦労があったか考えさせられ、私がこのような形で台南に来られたことを、祖父や母はどれだけ喜んでいることでしょう。

尊敬される国に戻りたい

第２班 柴崎班　茅野（かやの）　櫻（さくら）氏(中学3年)

私が今回、台湾慰霊訪問の旅に参加して一番強く感じたことは「尊敬される国に戻りたい」ということです。

台湾の方々は、私たちが行くととても喜んで下さり、盛大な歓迎をして下さいました。また、昔の日本と台湾のこと等、慣れない日本語で一生懸命教えて下さいました。日本のことが大好きで、とても尊敬してくれているのだなと感じる機会がたくさんありました。とても嬉しかったです。でも、それと同時に今の日本は台湾の方々の期待に応えることが出来るのだろうかと不安になりました。

私は最近、「カエルの楽園」という本を副団長の田口さんから薦められて読んでみました。とても面白くて一気読みしました。でもカエル達の世界を今の日本に置き換えてみると、とても恐ろしくなりました。この本のように、今の日本はバラバラで、中国、韓国、北朝鮮、ロシア等たくさんの国に国土を奪われたり、狙われたりしているのに、国民は危機感を持っていません。このままでは、尊敬されるどころか馬鹿にされてしまいます。

今の日本の状況を少しでも良くするためには、私たちの取り組みをもっと伝え、広げていくことが大切だと思います。日本が明治の頃のように活気があふれ、尊敬される国に戻ることを願って、これからも毎年参加していきたいです。

●ご協力ありがとうございます。

㈱ 中 部 鋼 材
取締役会長　富 原　浩
☎(098)938-1318
〒904－0012　沖縄県沖縄市室川2-6-7

台灣台日海交會
會長 周　良仁
☎(04)2529-5350
〒420-0050
台中市豊原區育英路24巷2號5樓

私達にもできること

第２班 柴崎班　茅野（かやの）　慧（けい）氏(中学1年)

私がこの台湾慰霊訪問の旅に参加するのは今年で2回目です。2回目なので去年と違う見方で訪問することが出来ました。また、2回目で慣れていたけれど、やはり台湾に行くと改めてすごいなと思うことが多かったです。

特に私がすごいと思ったのは、まず台湾の方々が上手な日本語を話されることです。台湾ではどのお寺に行っても、どこの食事会に呼ばれても、ほとんどの方が上手な日本語を話されていました。その中には、今の日本人の知らない「教育勅語」や「軍人勅諭」などを暗唱している人もいました。台湾の方々は日本のことを本当に信頼してくれていて、心の底から感動できる旅でした。でも、戦争で亡くなられた日本人のためにお寺を建てたり、日本人に親切にして下さる台湾の方々に、私たちは国として何かをしたでしょうか。台湾の兵隊さんのためにお寺を建てましたか。何も出来ていませんでした。

ただでさえ国交が断たれている今、台湾とではなく、中国と仲を深めようとしている人の方が多いです。そんな中、20年前、祖父がこの慰霊訪問団を立ち上げ、こんなにも団員が増えています。この慰霊訪問団は祖父のたくさんの努力と、たくさんの方々の協力のお陰だと思っています。今では、台湾と日本を繋ぐ数少ない存在となってしまいました。これからは、台湾と日本の国交が回復することと、この慰霊訪問団が末永く続くように、私も参加していきたいです。

慰霊訪問の主旨が理解でき感激もひとしお

第３班 倉田班　石橋（いしばし）　三之助（さんのすけ）氏

初めて参加させて戴いた感想を述べます。慰霊訪問団として台湾に行くことは理解していましたが、あんなに過密スケジュールとは思いませんでした。同行されていた80代の元気さにビックリしました。私も、もう少し体力を付けねばと思いました。話は変わりますが、小菅団長の話を聞くうちに慰霊団の主旨が理解出来るようになり、感激もひとしおでした。戦争中に生まれた私としては、台湾のことはあまりにも無知でしたが、理解できたように思います。スタッフの方々には大変お世話になりました。有り難うございました。

将来の日本国の危機を想う

第３班 倉田班　道崎（みちざき）　光義（みつよし）氏

今回の旅で一番感じたことは、各訪問先での台湾の方々の熱烈な歓迎と戦死された日本兵を台湾の人々が神として祭祀される姿、また、日本の先人たちが台湾に残した偉業に触れ、日本人として誇りを感じたことでした。台湾で最初の訪問先は忠烈祠で、中華民國33万人の将兵を祀る日本の靖國神社に当たる所で、廟は軍(国)が管理し、門には陸、海、空軍から選抜された衛兵が、交代までの1時間、全く身動きもせず勇壮に立ち、また交代式も威風堂々とした行動で、大変頼もしさを感じました。また、「鎮安堂飛虎将軍廟」、高雄の「保安堂」では台湾で戦死した日本兵を神として丁重に祭祀しておられ、日本魂、心の豊かさ、日本武士道の精神「惻隠の情」（弱きものを思いやる心）が受け継がれていることを強く感じました。

日本では、国のために戦死した方を民間の靖國神社に祭祀してありますが、国家として慰霊すべきではないのかと思いました。しかし、今の日本はどうでしょうか。日本魂、神話、忠誠心、愛国心などは薄れ、国家、国民、家族を守るために戦死された方を国家として慰霊しない国となってしまいました。このような国はどこにもないと思います。米国がいつまでも他国日本を守るとは限りません。自分の国は自分で守るように言われた時、日本の周りは台湾を除いて敵国ばかり、北方領土のように一旦領土を取られたら、国際法に訴えても何もできず、武力がなければ取り戻すことは出来ません。領土を守るということは国民の生命、財産を守ることです。果たして、今の日本では国民を守ることができるでしょうか。

日本人の魂が失われ、完全に平和ボケした国民、これから少子化社会を迎え、自衛隊に入隊する者も少なくなり、軍事防衛力は弱く、いつまでも安保条約が続くか判らない世界情勢を考える時、将来の日本、子孫に不安を感じます。

慰霊訪問への参加が私の価値ある生き方と確信

第４班 湯下班　津田（つだ）　建一（けんいち）氏

私事、今年で68歳になりますが、65歳を過ぎた頃から、色々な病気をするようになりました。様々な治療を繰り返していくうちに、病気が次から次へと舞い込んできます。このまま治療を続けて健康寿命を延ばしていくことについて、随分考えさせられました。

生き甲斐という言葉は外国にはない

●ご協力ありがとうございます。

㈱中部自動車整備工場
代表取締役　山 城　竜 治
☎(098)937-3388
〒904－0012　沖縄県沖縄市安慶田1-1-24

㈱中野建築事務所
代表取締役 中野　雅彦
☎(092)915-8771
〒816-0873
福岡県春日市日の出町5-38

と言われます。人として生を受け、価値ある生き方を思うとき、先の大戦で若くして、国の為、公の為、家族の為に、ましてや台湾の若者が日本兵として戦って生命を捧げられたご英霊に対し、追悼の誠を捧げる慰霊訪問の旅が毎年続けられています。そこに参加させて戴き、後世に語り継ぎ、その僅かなお役に立たせて戴けるならばと思い、少しでも元気になり、また皆さんとお会いしたいと思っています。旅行にも行かない、釣りにもゴルフにも行かない。地域の役職は殆どさせて戴き、農家の後を継ぎ、後継者も出来、ここまで歩いてきました。これも、妻をはじめ家族の協力の賜物です。常に感謝を忘れず、これからも慰霊訪問の旅には参加させて戴きたいと思っています。これが私の「価値ある生き方」と確信しています。

第20次台湾慰霊訪問の旅が意味するものとはなにか

第４班 湯下班　福田（ふくだ）　章枝（あきえ）氏

今年は飛虎将軍廟での慰霊式は過去2回とは違う重みを感じた。説明して下さった郭秋燕氏が、飛虎将軍(杉浦茂峰)が日本の水戸へ里帰りした際「本当に不思議なことがいっぱいあった」と言われたことに、私は「永遠の命を得る、死は決して終わりではない」などの聖書の御言葉がぐるぐると脳裡を駆け巡った。折りしもこの日は飛虎将軍の旧暦の誕生日であった。お供え物が溢れるほどの物凄い量であり、私はこんな光景を今まで見たことがなかった。現地の方がこんなに盛大に、今も感謝の中にお参りを続けていることに、私は日本は英霊を粗末にし続けてはいけないと強く思った。遺族の方に一任するのではなく、日本国として感謝の気持ちをもつ働きをしていくことを考えなくてはいけないと思った。私たちの国の総理大臣が靖國神社に堂々と参拝が出来るように小さくても国民運動を少しづつ始めなくてはならない。今、私たちの国は足を掬われるような状況にある。

聖書に「求めよ。さらば与えられん」とある。この御言葉からどうすればよいのだろうかと求め続けている私には、次々と様々なチャンスがやってくるように感じている。この慰霊訪問の旅がまさにそうである。

生まれて初めての「天皇陛下万歳」の三唱に感動

第６班 岩崎班　宮地（みやち）　惠津男（えつお）氏

桃園空港到着後、到着ロビーで記念撮影する時に、何気なく横を見ると我那覇真子さんがおられて、思わず二度見した。班長が、おおらかな人（適当な人？）で救われた。常日頃午後9時には就寝しているので、特に2日目の深夜までの夕食会が辛かった。ガイドの鄭さんが良かった。人柄がすごく良いのが分かった。

1日目のバスのスピーカーの調子が良くなくて、団長のお話が何を言っているのか分からないどころか、頻繁に「キーン」と金属音がして、殆ど拷問に近かった。(笑)バスの2号車から悲鳴が上がっていた。新幹線の移動が良かった。乗り心地最高！後期高齢者の方が4日目の新幹線によくぞみんな間に合ったものだと、今でも感心する。特に3人娘(老婆？)たち。各慰霊式、献花式では、それぞれ心が熱くなった。

生まれて初めて「天皇陛下万歳」を三唱して、感動した。

黄文雄先生の夕食会が一番楽しかった。桃園空港で、我那覇隆裕さんと握手していただき嬉しかった。福岡空港に到着し、やっと帰れると思ったら、解散式とまたまた集合写真撮影があり、家に帰ったのが深夜であった。

この慰霊訪問こそ子供達の修学旅行に相応しい

第６班 岩崎班　宮地（みやち）　芳子（よしこ）氏

主人に誘われ一緒に行くと決めてから、不安で一杯でした。どんなことをするのか想像がつかず、ましてや慰霊の知識も無く、ドキドキでしたが、台湾に到着してみると国内の様でした。バスからの風景も何処か懐かしい感じで不安感も無くなりました。慰霊に行く先々で人々の温かい思いが伝わってきて、台湾の方々の優しさを感じました。そして、こんな慰霊を子供達の修学旅行に取り入れて欲しいとしみじみ思いました。隣国での反日情報ばかりで正しいことが報道されない日本。台湾に来て日本人に対する温かい思いを感じて、日本人としての誇りを持って欲しいと思いました。今まで何度も君が代を歌ってきましたが、慰霊での君が代は歌っていると涙が込み上げて来ました。こんな気持ちになったのは初めてでした。各所で催される歓迎食事会では、著名な方々の参加と豪華なおもてなしを受けましたが、私は何ひとつ役に立てないことを心苦しく思います。

団員の方々とお話をしても歴史に対する価値観が同じで、心和む思いでした。

●ご協力ありがとうございます。

㈱エース・コーポレーション
代表取締役　沼田　真清
☎(03)3408-0523
〒107－0061　東京都港区北青山2-7-18第1真砂ビル5階

㈱栄電舎
取締役 飯笹　実
☎(0942)38-1211
〒830-0047
福岡県久留米市津福本町南都都留2348-8

訪問を重ねる毎に学びと交流が深まっていくことを実感

第７班 鬼塚班　大石（おおいし）　憲（けん）氏

今回も台湾の方々が熱烈な歓迎をして私達訪問団を温かく迎え入れて下さいました。私達訪問団と1年ぶりにお会いするのが待ち遠しくて仕方がないといった感じで満面の笑顔で再会できた喜びを表わしておられました。

11月25日に行われました宝覚寺での慰霊祭では、いつになく日本と台湾の絆をしみじみと感じました。慰霊祭終了後、台湾の90歳になられる男性の方とお話致しましたが、日本統治時代を昨日のことのように懐かしく語られるお姿が印象に残っております。同日午後は台湾の靖國神社といわれる南天山濟化宮に行きましたが、天井の高い所までびっしりと数多く並べられた位牌をみて、この戦死者の方々のことを語り継いで行かなければという思いになり、慰霊と顕彰の大切さを感じました。

11月26日には宜蘭川の河畔にある西郷庁憲徳政碑への献花式に臨みました。西郷菊次郎が西郷隆盛の子であることは知っていましたが、その業績については全く知りませんでした。宜蘭川堤防を作るなど台湾の治水事業は勿論、道路の整備や産業の発展など台湾の近代化に大きく貢献した人物であることを知り、西郷菊次郎のように自己犠牲を厭わず台湾のために尽くした偉大な人物がたくさんおられたからこそ、台湾の方々が今日に至るまで日本への感謝を忘れず、日本を愛して下さるのだと思いました。

台湾慰霊の旅を終えて

第８班 久野班　泉（いずみ）　邦芳（くによし）氏

今年の夏、黒田賢太郎君が私の家に来て、「秋に台湾に行くから5日間、時間を作って。」と言ってくれたのです。私が忙しいことを知っての早めの誘いだったのです。私は慰霊訪問の旅は今回が初参加ですが、訪問先における地元住民の皆さんの歓迎に小菅団長はじめスタッフの皆様の献身的努力を伺い知ることが出来ます。よくぞあれまでの人間関係ができたものだと感心する次第です。来年も是非参加したいと思います。

今回も出発前日の21日まで病院で点滴を打って、医者からは絶対に安静にと言われていた中での参加でした。そのせいで思考力が無くて、パスポートも古い方を持って来てご迷惑をおかけした次第です。スタッフの皆様のお陰で出発に間に合って、台湾の慰霊の旅も無事に終わることが出来ました。

湾生なのに台湾のことを何も知らなかった

第８班 久野班　江藤（えとう）　憲一（けんいち）氏

昭和15年12月に台中州南投縣埔里で私は生まれました。定年後、台湾に5回行きましたが、3万3千余柱の台湾人が、日本人として死んでいる真実は、今回の慰霊訪問で初めて知ることが出来ました。湾生の自分が台湾のことを何も知らなかったことを改めて反省させられました。第1次訪問の時に、日月潭を目指していたバスが事故になり、その時助けて下さった方と小菅団長のつながりを学習資料で知り、運命的出会いに感激致しました。小生5歳まで日月潭のすぐ近くに住んでいて、幼心にも同所は美しい所という思い出があり、色々な事が繋がりました。

宝覚禅寺は別名「台湾の靖國神社」と呼ばれているそうで、霊安故郷と刻まれる碑には3万3千余柱の英霊が祀られており、11月25日には毎年慰霊祭が行われている事も、今回の旅で初めて知ることが出来、良かったと思います。

4泊5日の慰霊訪問の行く先々で大歓待を受けた裏には、台湾人が日本を好きという言葉だけでは済まされない、小菅団長の熱意とリーダーシップに加え、サポートされる皆様の強い協力があってのことだと感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、台湾の置かれている立場の大変さについて考えさせられました。

あの感動は言葉では表わせません

第９班 岩附班　井口（いのくち）　保二（やすじ）氏・婦美子（ふみこ）氏

台湾慰霊訪問の旅では大変お世話になりました。台湾は旅行としては何度か訪ねておりまして、知識としては知っていたつもりでしたが、今回の旅では身体全体で台湾の方々の熱き思いを感じることが出来き、感動の旅でした。

皆様方の20年という長い間に積み重ねられた「日台の生命の絆」の上に、今回は私共も参加させて戴き、本当に感謝しております。

感想文をと思い筆を取りましたが、筆を握ったまま台湾での感動の日々が甦り、なかなか言葉にすることが出来ません。とても言葉では表せない感動の日々でした。おそらく団員の皆様も同じお気持ちだと思います。言葉に出来ず、御礼の言葉にてお許し下さい。

●ご協力ありがとうございます。

松俵建設㈱
代表取締役 松俵　義博
☎(0948)42-1033
〒820-0205 福岡県嘉麻市岩崎1554-10

光志興産有限会社
代表取締役 松俵 茂子
☎(0948)42-6660
〒820-0203 福岡県嘉麻市平607-1

スタジオ日本日曜討論 日本人講座
幹事 田口 俊哉
☎(092)721-0101
〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38-13階

日華(台)親善友好慰霊訪問団 台湾支部
支部長 黄 明山
☎(07)751-4906
〒830-0092 高雄市鳳山區南正一路２巷11弄5號

したが、昭和47年（1972）に破棄されたので、現在、日本と台湾の国交は断絶しています。しかしながら、台湾人は50年間日本人と同じ教育を受け、日本精神を共有しており、大東亜戦争で散華された共通の英霊の存在のお蔭で、日本と正式な国交が無くても誠心のこもった交流を続けています。世界情勢が混沌とする中、こんな誠心があるかぎり日本と台湾は同胞、戦友であり続けることが出来ます。この旅では多くの学びがありますが、英霊が領土を守るために戦い、多くの犠牲の上に、今の日本国があることを忘れてはいけません。

数々の節目の年に参加できて感謝

第１班 班長　榊原（さかきばら）　みどり 氏

鹿児島では今年、明治維新150年の節目、そして岩川でも戊辰戦争150年の節目、台湾慰霊訪問団は、20回目の節目。また台湾では4年に一度の選挙の節目という大切な年に参加でき、台湾の高齢になられた方々とも心の絆が深まりました。今年は新しい訪問先もあり、鹿児島出身の西郷庁憲徳政碑に献花することが出来、本当に感動致しました。宜蘭川の氾濫により堤防を築き、市民の生命と財産を守った偉人の足跡を辿ることが出来ました。英霊を顕彰する、そして共に一緒に戦い、祖国に帰れなかった英霊に、追悼と感謝の誠を捧げるために参加できたことに感謝です。

車内での小菅団長の話の中で、日本の領土が外国人の手により買占められていることを知り本当に残念です。法律を早急に作り、日本の領土はしっかりと自分達の手で守ることが歴史を継続することだと思います。

胸をえぐられた 周良仁会長の「皆さん後を頼む!」のひとこと

第２班 班長　柴崎（しばさき）　一郎（いちろう） 氏

台湾で一番頭が下がりましたのは、各地の至る所で戦前の日本の事績や祭神、史跡等を、大切に守り続けて下さっていた事です。

そして最も憂いを感じましたのは、同国の北京語教育の趨勢で台湾語を使う世代が減少し、日本語世代の高齢化と共に、戦前の日本精神の継承が世代的に困難な時代になったことです。台中・宝覚寺で原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭を主催された台湾台日海交会の周良仁会長が「台湾でのこの祭礼を、日本に帰られたら一人でも多くの日本人に伝えて欲しい。そして皆さん後を頼む!」と我々慰霊団に何度も訴えられた背景にはこの現実があり、心中をお察ししますと胸がえぐられる思いでした。10年前は慰霊団は小数で刺身のつまのような存在で、あくまで主体は大勢の台湾人日本軍戦友会や軍人軍属会が担っておられたそうです。しかし、年を経るごとに高齢の台湾人参列者は減り続け、今では慰霊団の方が数が増え、祭礼に不可欠な程に主客が逆転してしまったとの事でした。また国交のあった昭和47年までは、この慰霊祭や宝覚寺境内の日本人墓地へは日本の大使も参拝していたと聞き、無念と共に将来への危機感を抱いての帰国となりました。

平成の御世、最後の慰霊訪問の旅

第３班 班長　倉田（くらた）　光男（みつお） 氏

私は今回4度目の参加でしたが、訪問の度に感激させられます。後壁の黄家は、総統府国策顧問であった黄崑虎先生のご自宅で、文化遺産として古蹟に指定された由緒ある場所です。福建様式の中庭（四合院）を持つ台湾で現存する数少ない住宅のひとつです。先生の親切丁寧な説明と案内に感動しました。

4日目の11月25日、台中市にある宝覚禅寺では、台湾の方々によって守られ、祀られている日本人墓地での慰霊式を斎行しました。慰霊式では、一般の日本人観光客の方々も多数参拝されました。

続いて行なわれた「霊安故郷碑」での原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭では、儀仗隊によるラッパでの鎮魂、台湾台日海交会の周良仁会長による祭文が奏上され、「英霊よ安らかにお眠り下さい」とお祈りしました。最後は小菅団長が祭文を奏上し、追悼と感謝の誠を捧げ、日台の絆が一層深くなることを祈り、「海ゆかば」を歌い、厳粛の内に慰霊祭は終了しました。

今回の旅では、各地での歓迎昼食会や夕食会と、多くの方々のおもてなしを受け、感謝・感激でした。次回も参加し、日本人、日本兵として散華された英霊に追悼と感謝の心を捧げたいと思っています。

「独立自尊」を教えられた旅

第４班 班長　湯下（ゆした）　雅俊（まさとし） 氏

今回は「独立自尊」を教えられた旅でした。中国、朝鮮、台湾、そして日本の4ヶ国の近代史を知れば知るほど、日本がアジアの中で行ってきたことの正しさを再認識できます。日本が統治した朝鮮、台湾を植民地にしたと言われる

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい　学びあい　助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会
九 栄 会
会長　松尾　嘉三
☎(092)714-4341
〒810－0001　福岡市中央区天神1-3-38

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価
社団法人 日本不動産鑑定協会正会員
㈱国際不動産鑑定所
代表取締役 不動産鑑定士　山口 勝彦
☎(092)483-3350
〒812-0013
福岡市博多区博多駅東1-12-5
博多大島ビル4階

知られざる「神蹟の遺跡」

古蹟後壁黄家 ～ 福建様式の中庭

台湾李登輝友の会総代表の
黄崑虎先生

台南の烏山頭ダムから車で北西へ約30分。嘉南大圳のほぼ中央、台南市後壁区後壁里にある古蹟後壁黄家は、大正15年(1926)に建てられたもので、福建様式の中庭(四合院)を持つ台湾で現存する数少ない住宅のひとつである。平成20年(2008)に台湾の文化資産として古蹟に指定されている。この住宅は、何と台湾李登輝友の会総代表、総統府国策顧問の黄崑虎先生のご自宅でり、諸外国の要人も訪れる大変由緒ある場所なのである。

後壁黄家は七包三式的四合院(7つの建物と3つの様式に囲まれた中庭)の建物で、敷地は約6000坪で正面から入った母屋は、中華回廊式の豪邸だ。門の中にも左右に部屋が続き、さらに中門、奥の庭へと続く。中庭に面した回廊部分の軒先には3匹の龍があしらわれている。一番上と真ん中の龍は、家の中を向き、「家を守り、福をもたらす」そうで、一番下の龍は外を向いている。これは、「自分のところに来た福の半分は外の人に返す」ためだということだ。自分たちだけが繁栄するのではなく、共に福を分かち合おうという当主の考え方だそうだ。中庭の奥にある建物が屋敷の中心。入り口の周りには、上と左右に家訓が書いてある。漢字を目で追いやると、勤勉、勤労、社会奉仕という意味の言葉が多くある。

屋敷の中には、日本時代に黄家が経営していた「黄振興合資会社」の社訓と社則が日本語で書かれた額が飾られており、その中に「優秀なものには、会社全員の承認を以って、奨学金を支給する」という項目もあり、会社や社会全体で優秀な若者を支援し、育てていったことが伺える。

慰霊団では、平成21年の第11次訪問の折に黄崑虎先生のお誘いで、後壁黄家を訪問して以来、2度目の訪問となった。その時の「私の育った家こそ、八田技師の造られたダム、大圳の恩恵を受けた人たちの家のひとつなのです」という言葉をはっきりと覚えている。

福建様式の中庭

黄崑虎先生を囲んで

後壁黄家正面玄関

庭内を散策する慰霊訪問団

臺灣日本關係協會 台日文化經濟協會 表敬訪問

平成 30 年 11 月 22 日 (木)、台湾到着後、第 20 次台湾慰霊訪問の旅の無事遂行を願い、台北の國民革命忠烈祠での献花式を斎行しました。戎義俊前台北駐福岡經濟文化辦事處處長も同行され、中華民國の所作に従い、花環を捧げ、追悼の誠を捧げました。凛とした空気の張り詰める中、荘厳な雰囲気での献花式は実に感動的でした。

忠烈祠を後にした一行は、中華民國外交部の臺灣日本關係協會主催の歓迎夕食会に臨みました。同協會の謝柏輝副秘書長の歓迎の祝意、小菅団長の答礼の辞と続いた所で、主催者代表の張淑玲秘書長がお見えになりました。

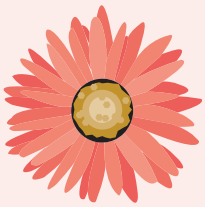
丁度、同時刻に札幌親善協会の夕食会と重なっていて、その合間を縫って駆けつけて下さったのです。張淑玲秘書長の流暢な日本語の挨拶、ユーモア溢れるお話の後、久野貴子班長による「鶴亀」のお謡と仕舞、原田泰宏団長代行の仕舞「屋島」が披露され、開宴となりました。テーブルには団員各自のネームプレートが置かれ、美味しい料理や外交部（外務省）特注のワインを戴きながら交流を深めました。最後に、団員各自に張淑玲秘書長よりお土産が手渡され、改めて關係協會のご配慮に感じ入りました。

最終日の 11 月 26 日（月）は、戎義俊前處長のご案内で宜蘭にある西郷庁憲徳政碑を訪れました。移動中のバスの中で戎義俊前處長から詳しい説明があり、西郷菊次郎の台湾での善政や功績を直接伺い知ることが出来ました。

碑の前で黙祷と簡単な献花式を執り行い、明治維新 150 年に相応しく、西郷菊次郎を偲ぶことが出来ました。

宜蘭を後にした一行は、再び台北市内に戻り、台日文化經濟協會主催の歓迎昼食会に臨みました。第 8 次訪問時の方仁恵会長より恒例になっている台日文化經濟協會との交流会は経済、文化等の面から台湾の現状を理解するのに大変有意義な場となっています。

黄天麟会長から杜恆誼新会長に替わり、初めての歓迎会でした。杜会長が所用のため、代理として周福南副会長が接待して下さいましたが、鄭祺耀名誉会長はじめ数名の理事の皆さんも同席され、美味しい海鮮料理をいただきながら親交を深めました。月曜日でお忙しいにもかかわらず、幹部の皆様には従来にも増して歓迎していただいたことに感謝すると共に、今後益々友好関係を強くしてゆかねばと改めて思いました。



日台の魂の交流　第16回台湾特別講演会

日台の魂の交流　　明治維新150年

『明治維新の精神～領台50年と戦後70年の台湾の歩み』

－台湾の改革維新にどうつなげるか－

台湾特別講演会は、平成15年6月から実施されており、今年で16回目となる。今年は明治維新150年の記念すべき年に当たり、タイトルに「明治維新150年」の文言が付された。

講演会は第1部で、文明史家の黄文雄先生による基調講演『明治維新の精神～領台50年と戦後70年の台湾の歩み』。第2は、パネルディスカッションが行なわれ、『明治日本の拡散～私たちの学ぶべきこと』をテーマに、小菅団長が司会、黄氏と九州大学大学院准教授の施光恒氏、元西日本台湾学友会会長の柳原憲一氏の3氏による討論が行なわれた。

講演に先立ち式典が行われ、国旗敬礼、国歌斉唱、「生命の絆」が唱和された。

主催者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立ち、出席者、来賓に謝辞を述べた後、台湾特別講演会の目的が「台湾慰霊訪問の旅」への参加者募集にあることを語り、16回目を迎える過程で多くの企業、団体、個人の支援と協力を受けたことに感謝の気持ちを述べた。さらに、これまでの台湾への旅が様々な発見と感動を与えてくれたことを語り、その中でも最大のものが明治との遭遇であり、大和魂と日本精神という形で今日まで継承している台湾と比較し、戦前の日本を一切否定しようとする日本の現状を批判した。

そして、定年退官し台湾に帰国する戎處長について触れ、戦前の日本の価値観を体現した同處長のお陰で、領台時代の日本が台湾の地でしっかり定着、拡散していることを語り、5年前の6月に着任され、18人でささやかな歓迎会を開き、今回200人で盛大に送別の宴を開くことができたことに謝意を述べた。講演会が日台の魂の交流に今まで以上に寄与するために志を新たにし、最後に台湾の益々の隆昌と戎處長夫妻の健勝を祈念した。

次いで来賓を代表して戎義俊・台北駐福岡經濟文化辦事處處長が挨拶に立った。戎處長は41年の外交官生活の中で福岡での5年間が一番忘れられない貴重な歳月だったと語り、「小菅団長が率いる慰霊訪問団ほど日本中で最も台湾と誠心誠意、真心を持って付き合ってくれた団体はない、慰霊訪問団が日台関係の促進に大きな力になっているといっても過言ではない」と敬意を表した。

次いで5年間を振り返り、同處長が推進した印象的な事例として①九州国立博物館で開催された台北国立故宮博物院展をきっかけに、台湾と九州の交流が深まったこと②高校生の修学旅行の意義を説いて回り、昨年は40校7000人と順調に増加している③昨年10月、九州大学で「台湾研究講座」がスタート、日台の歴史や文化の相互理解を深めることに役立つことが期待されることの3点を挙げた。

最後に「皆さんとのご縁をこれからも大切にして、日台の関係強化に微力ながら貢献できれば第二

の人生は充実したものになると楽しみにしている」と述べ、感謝の言葉で結んだ。

その後、台湾東部で発生した花蓮沖地震への義捐金贈呈が行われ、小菅団長から戎處長に浄財30万円が手渡された。同處長は「最も困った時に差し伸べて下さる援助の手が一番温かい。日台は運命共同体と言われている。これからもお互いに助け合っていきたい。皆さんの友情に感謝します」と述べた。

続いて訪問団台湾支部事務局員の蔡淑如さんが「台湾の声」を読み上げた。かつて九州不動産専門学院に勤め、帰国した蔡淑如さんは「台湾の皆さんは慰霊訪問団の訪台を心待ちにしています。20年を積み重ねる慰霊訪問の旅は台湾では台湾人と日本人を結ぶ魂の交流と見られています。このような素晴らしい行事をお手伝いできることを誇りに思っています。台湾でお待ちしていますので慰霊訪問団にぜひご参加下さい」と呼掛け、会場の拍手を浴びた。

その後、講演に移り、第1部は、文明史家の黄文雄氏が講師を務め、「明治維新の精神～領台50年と戦後70年の台湾の歩み」と題して講演。第2部では「明治日本の拡散～私たちの学ぶべきこと」をテーマに、訪問団の小菅団長が司会を担当、黄文雄、施光恒、柳原憲一の3氏がパネリストを務め、パネルディスカッションが行なわれた。

講演会終了後、講演会実行委員会幹事の原田泰宏氏が中国人をはじめとする外国人が自由にわが国の国土を買い漁る現状を阻止するために法整備を求める特別アピールを読み上げ、採択。このアピールに対し新藤義孝・自民党領土議連会長からの「重く受け止める」とのメッセージが読み上げられた。

別れ惜しみ盛大に「感謝の夕べ」

講演会終了後、九州各県で台湾との友好促進に貢献した戎義俊處長を送る「戎総領事感謝の夕べ」が鬼木誠衆議院議員代理の鬼木悦子夫人をはじめ、県議会議員・首長・市議会議員ら多数の来賓、台湾からの留学生、団体関係者等が参集し、戎處長の長年の労をねぎらうとともに台湾への熱い思いを語り合い、日台の友好の輪が広がった。

戎處長や台湾留学生、小菅団長らが登壇、台湾歌唱の大合唱で盛り上がる中、戎處長夫妻に小菅団長夫妻から記念品と花束の贈呈がおこなわれた。

最後に戎處長が再度挨拶に立ち、盛大な送別の夕べが開かれたことに対し謝辞を述べたあと、①恩返し②縁を大切に③日本精神の3点について語った。小菅団長や慰霊訪問団員をはじめ、九栄会の会員、日本で出会った人々との縁を大切にし、日本統治時代に台湾の近代化、インフラ整備、教育のために身命を捧げた八田與一ら多くの先人の偉大な功績を忘れず、帰国後も日本に対し「恩返し」の心を持ち続けていきたいと話した。さらに、「明治維新の精神である日本精神・武士道精神は日本人の誇りであり、若い世代が日本精神を受け継いで輝かしい未来を切り開いていってもらいたい」と熱いエールを送り、「自らも日本精神の実践遂行者として余生を生きていきたい」と惜別の言葉を述べた。

そして、日台友好の深化を願い博多手一本で締め、慰霊団顧問で筑紫野市議会議長の横尾秋洋氏の閉会のことばで中締めとなった。

黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

昭和13年に生れ、今年80歳になる黄氏は、小学生の時に國民党軍が中国本土から台湾に逃れて来た。小学校では國民党軍と一緒に暮らした。高校卒業後に来日したため、台湾にいたのはそう長くはなかったが、日本の時代と國民党の時代は随分と違った。

言語と文字から歴史を見る

世の中を見る場合、衣食住、生活の面から歴史を見ると分かり易い。どのような物を食べ、どのように暮らすかということが社会の文化・文明に対しては影響が大きい。中国の歴史は既に漢の時代に終わっている。それ以降は異民族の時代だ。中国ほど骨肉の争いが激しい国はなかった。黄河文明は殺し合いの歴史だ。南京大虐殺は歴史上何度かあった。中国の歴史は陰陽五行、易姓学に基づいている。漢文明、漢民族は存在しない。それは漢字文明の中で証明できる。決して中国の主張に基づいて歴史を見るべきではない。

明治の近代化とその精神

明治維新の近代化とその精神については、人類の歴史の中で何を提供してきたか、客観的に見なければならない。ソフト面では文明開化、ハード面では殖産興業を提供した。近代国家は明治維新がなければあり得ない。

世界各地で産業革命が進行し、市民革命が起き、これを集合する形で、いかに貧しい国を豊にするかというハウツー積んだのは、歴史の中で日本の大きな発明だ。

台湾は、日清戦争後日本に割譲され近代化の社会に入った。台湾の教師、技師、医師がそれを成し遂げた。

日本と台湾の未来

これから中国とアメリカ、台湾の関係はどうなるか。中国の台湾に対する武力行使はそんなに簡単ではないが、台湾がもし中国に支配された場合は日本にとっても非常に深刻な問題だ。アメリカは積極的に動いているが、残念なのは日本だ。日本でも台湾関係法を作る動きがあるが、まだ鈍い。台湾の問題は、台湾だけの問題ではなく日米台の共通の問題でもある。日本はもう少し戦争問題に対して関心を持ったほうが良い。

ヤマトイズムと中華思想

外国に暮らして70年近くになるが、その間台湾にも大きな変化があったが、台湾人の本質は基本的には変わっていない。台湾人は自分の先祖は大切にするが隣近所の祖先には全く関心がない。慰霊団のようなことはしない。一方、日本人の本質は「和」であり、大和民族は「和」を規準にしている。「和して同ぜず」だ。宇宙の根本原理は「同」にある。いかに永遠に生きるか、いかに共存するか、これが日本人の多神教的な考え方で、すべてを許すことに繋がる。中国人の国家観はすべて自分と同じような考えを相手に求める。そのためいつも戦(いくさ)になる。「同じて和せず」ということだ。

国交を超えるような文化の交流、魂の交流を模索していかなければならないが、慰霊訪問団は国境を越えるような歴史を作っている。国家と国家の関係はやはり国交が中心だが慰霊訪問団はもっと「魂の交流」を強調しても良いと思う。魂の交流は人類史に対する大きな貢献になると考えている。

50年に及ぶ日本統治が半世紀以上経った今日に至るまで、脈々と生き続ける台湾。
この「生命の絆」を守り育て後に続く人に正しく継承していくことが、先達から託された私たち世代の崇高な使命です。

日台の魂の交流　第17回 台湾特別講演会

第1部 米国と中国の貿易戦争の行方

― 2020年の台湾総統選挙への影響 ―　黄　文雄 先生

第2部 台湾に生きる明治憲法の精神

―日本人の忘れ物　台湾で守り続けられる日本精神 ―

パネルディスカッション

コーディネーター　小菅亥三郎

パネリスト　黄　文雄 先生（文明史家）　施　光恒 先生（九州大学大学院准教授）　柳原憲一 先生（西日本台湾学友会元会長）

【略歴】昭和13年（1938）台湾高雄県岡山鎮生まれ。昭和36年（1961）来日。昭和44年（1969）早稲田大学商学部卒業。昭和46年（1971）明治大学大学院、政治経済学研究科西洋経済史学修士。平成29年3月まで、拓殖大学日本文化研究所客員教授。

黄（こう） 文雄（ぶんゆう） 先生
（文明史家）

【略歴】昭和46年（1971）福岡県生まれ。平成元年（1989）福岡県立修猷館高等学校卒業。平成5年（1993）慶應義塾大学法学部卒業。同13年（2001）慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。現在、九州大学大学院准教授。産経新聞「正論」メンバー。

施（せ） 光恒（てるひさ） 先生
（九州大学大学院准教授）

【略歴】昭和32年（1957）台湾彰化県和美鎮生まれ。昭和59年（1984）来日。平成5年（1993）九州大学医学部卒業。九州大学医学部附属病院医員。西日本台湾学友会会長を経て、現在、医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。台湾平埔族研究家。

柳原（やなぎはら） 憲一（けんいち） 先生
（元西日本台湾学友会会長）

■日時：令和元年 **6** 月 **16** 日（日）開場12:30　開会13:00

■会場：ソラリア西鉄ホテル 8階「彩雲」 福岡県福岡市中央区天神2丁目2－43 TEL(092)752-5555

講演会 /13:00~17:00
会費：1,000円
定員：300名

中華民國（台湾）駐福岡總領事館開設50年感謝の夕べ/ 17:15~19:00
会費：5,000 円（要予約）
定員：150名（全席円卓着席）

講演会終了後に、講師先生を囲んで交流会を和やかに催します

〈振込先〉
- 福岡銀行　県庁内支店
  普通預金　1007307
  日華（台）親善友好慰霊訪問団
- ゆうちょ銀行　記号01750-1
  番　号　144572
  日華（台）親善友好慰霊訪問団

主催：日華（台）親善友好慰霊訪問団（平成11年結成）

〒810-0001福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階 TEL092-721-0101 担当　原田・池田

■特別協賛：台北駐福岡經濟文化辦事處/九栄会/山口県日台交流協会/関家具/中部鋼材/エース・コーポレーション/浜崎理想瓦製造所/台湾新亜旅行社/中部自動車整備工場/九州不動産専門学院グループ

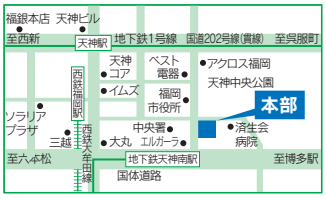
■協　　賛：美祢市観光商工部/ＨＡＳ/国際不動産鑑定所/悠悠/大道印刷/栄電舎/柳原皮膚科クリニック/中野建築事務所

■後　　援：産經新聞九州総局/福岡教育連盟/オイスカ西日本研修センター/福岡市議会日台友好議員連盟/日台友好筑紫野市議会議員連盟/台湾在日福岡留学生会/福岡縣神社廳/福岡縣護國神社/英霊にこたえる会福岡県本部/福岡県海友会/福岡県郷友連盟/水交会福岡支部/海原会/甲飛喇叭隊/大野城市国際交流協会/福岡県中華總会/九州台灣商工會/九州台日文化交流協会/日台交流をすすめる会/山口県日台文化経済交流会/福岡県モラロジー協議会/教育研究会未来/スタジオ日本日曜討論/日本時事評論社/紅乙女酒造/フクニチ住宅新聞社/東海新報社/八重山日報社/岩屋城史の会/マリバスグループ

■現地協力：台中・寶覺寺　高雄・保安堂　屏東・東龍宮　恆春・潮音寺　台南・海尾朝皇宮　台南・飛虎將軍廟　嘉義・富安宮　新竹・勸化堂　新竹・濟化宮　樹林・海明禅寺　新北・烏來高砂義勇隊紀念協會　台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田與一紀念公園)　高雄・臺灣前國軍退役軍人暨遺族協會〈慰霊祭主催団体〉台中・台湾台日海交會〈交流団体〉台北・台日文化經濟協會　台中・台灣海軍ラバウル會　台中・台日友好協會　台南・奇美基金會(奇美博物館)　台南・鹽水國民小學　高雄・蓬38號艦　英霊靈返郷團〈公的機関〉台北・中華民國總統府　台北・中華民國外交部　台北・國民革命忠烈祠　台中・臺中市政府　台南・臺南市政府　高雄・高雄市政府

■企画運営：第17回台湾特別講演会実行委員会

（注：法人名は割愛させていただきました）



日華(台)親善友好慰霊訪問団

本部　福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX(092)725-3190

東京支部(支部長:沼田真清)
東京都港区北青山2-7-18
第1真砂ビル5階
(株)エース・コーポレーション気付
TEL(07)751-4906

沖縄支部(支部長:富原　浩)
沖縄市室川2-6-7
(株)中部鋼材気付
TEL(098)938-1318

台湾支部(支部長:黄明山)
高雄市鳳山區南正一路
2巷11弄5號
TEL(07)751-4906

台湾支部事務局
台北市信義區信義路五段5號
台北世界貿易中心5楼D－26室
日本美禰市台北觀光・交流事務所気付
TEL(09)7845-8470

URL　**nippon-taiwan.org**
Eメール　**taiwan@l-mate.net**

昭和36年11月6日　第三種郵便物認可
ライセンスメイト夏号(第1巻252号通巻578号)
令和元年6月15日発行(年4回発行)
発行所　株式会社 日本教育開発　〒810－0001 福岡市中央区天神1－3－38
定価772円　本体価格715円
還付先 〒810－0001 福岡市中央区天神1－3－38／「ライセンスメイト」読者サービス係